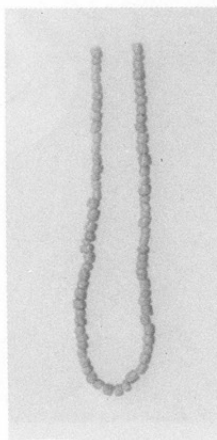
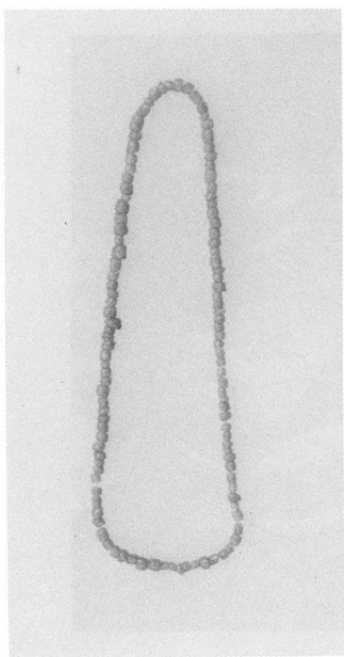
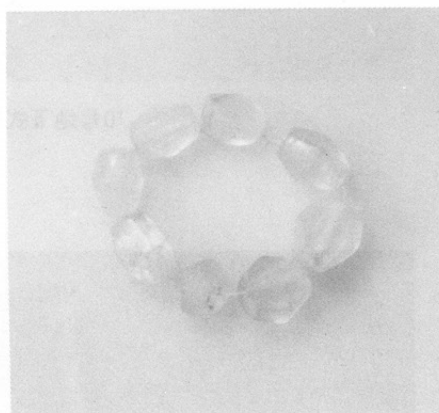
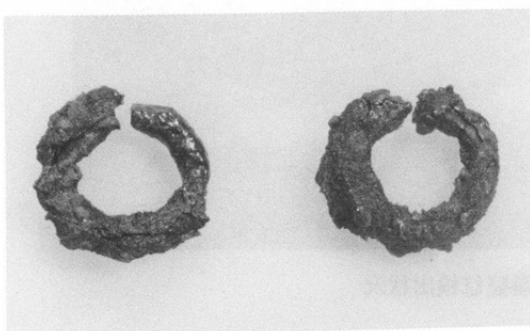
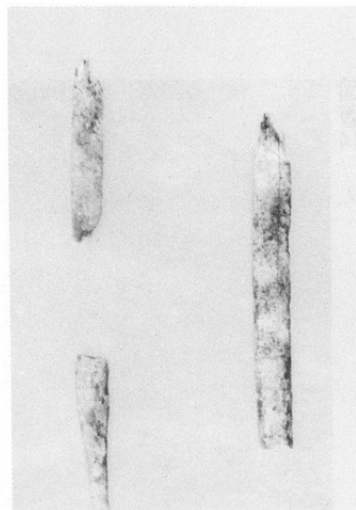
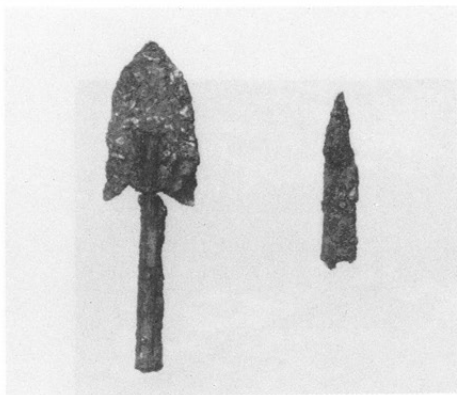


9号地下式横穴墓出土遺物



8号・9号地下式横穴墓出土遺物



10号地下式横穴墓竖坑検出状況



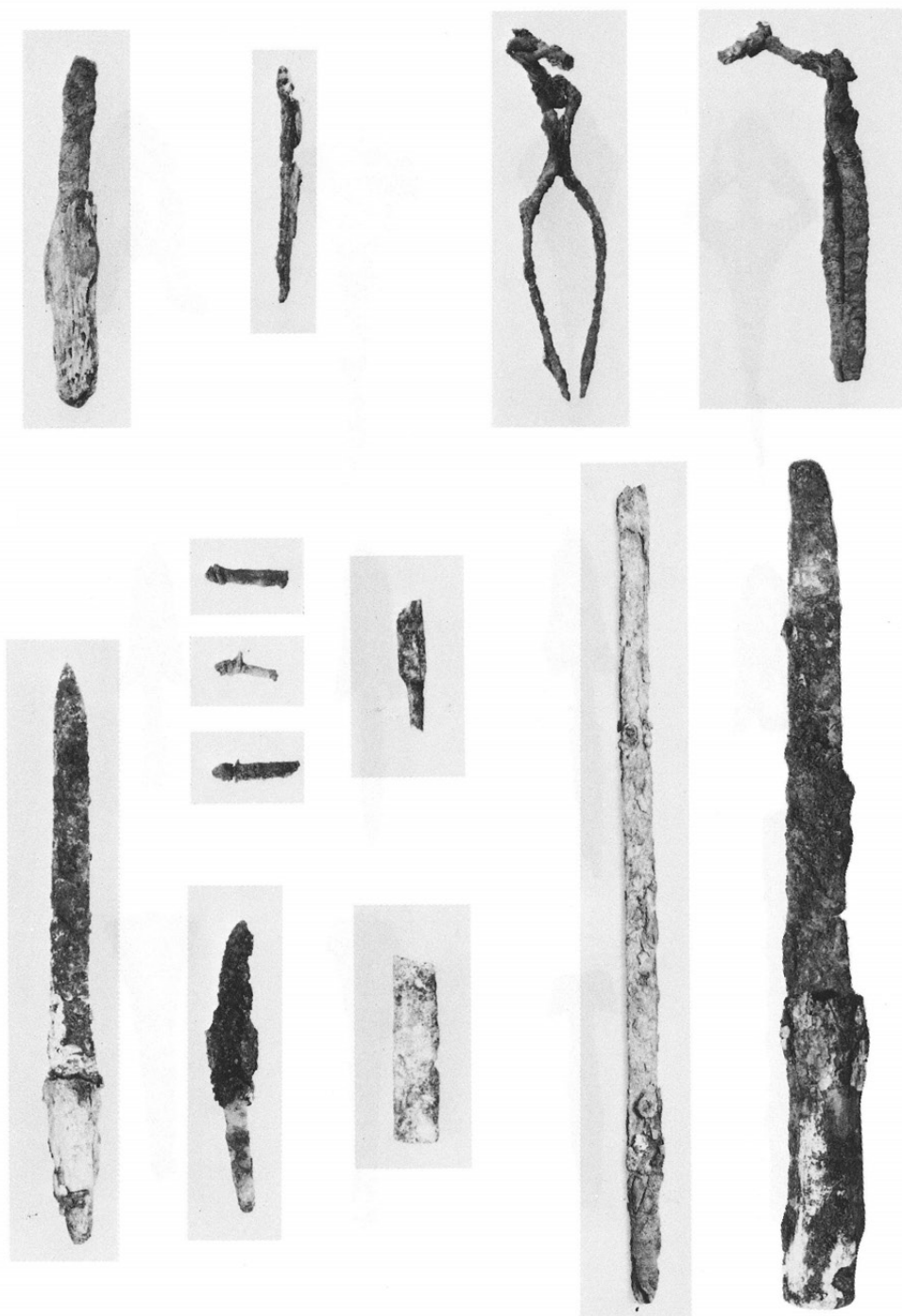
10号地下式横穴墓須恵器出土状況



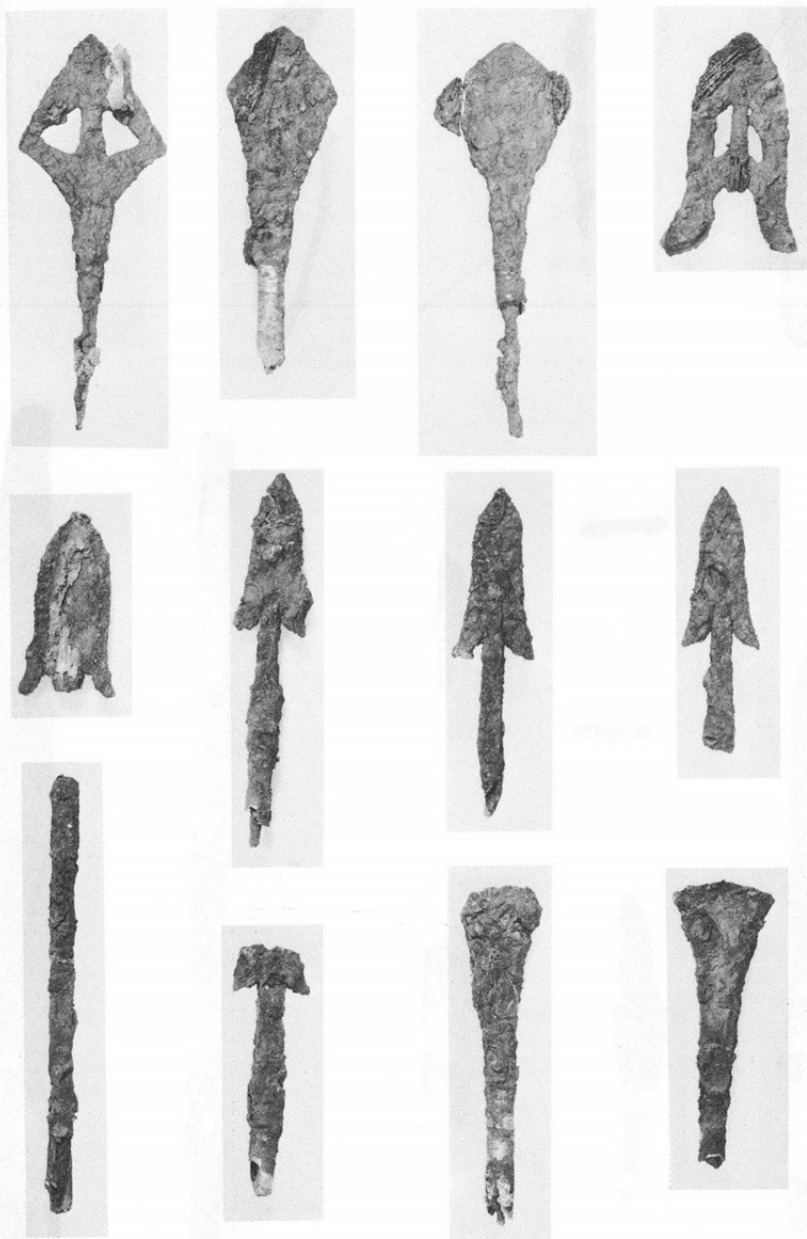
10号地下式横穴墓出土土須恵器



10号地下式横穴墓出土須恵器・土師器



10号地下式横穴墓出土鉄器・骨角器



10号地下式横穴墓出土鉄器

Ⅳ. ^{かみ}上ノ^{はる}原遺跡

例 言

1. 本報告は昭和59年2月町教育委員会が実施した上ノ原遺跡の確認調査報告である。
2. 本報告は長津宗重が執筆・編集した。
3. 遺構実測図の方位は磁北を示している。
4. 土器の色調は、農林省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』による。

昭 和 五 十 九 年 二 月

本文目次

第Ⅰ章 序説	115
第1節 発掘に至る経緯	115
第2節 調査区の設定と概要	115
第3節 包含層の状態	115
第Ⅱ章 遺構と遺物	115
第1節 縄文時代の遺構と遺物	115
1 集石遺構	121
2 縄文土器	121
3 打製石鏃	121
第2節 弥生時代の遺構と遺物	123
1 弥生土器	123
第3節 歴史時代の遺構と遺物	124
1 土師器	129
2 須恵質土器	129
第Ⅲ章 まとめ	129

表目次

表1 弥生土器観察表	136～141
------------------	---------

図版目次

図版1 上ノ原遺跡出土の弥生土器	142
------------------------	-----

挿 図 目 次

第1図	上ノ原遺跡周辺の地形図	116
第2図	上ノ原遺跡遺構分布図	117～118
第3図	T1～T5のセクション図	119～120
第4図	縄文土器・石鏃実測図	122
第5図	弥生土器実測図（Ⅰ）	125
第6図	弥生土器実測図（Ⅱ）	126
第7図	弥生土器実測図（Ⅲ）	127
第8図	弥生土器実測図（Ⅳ）	128
第9図	土師器実測図	128
第10図	弥生時代後期～古墳時代初頭の土器編年表（Ⅰ）（宮崎学園都市遺跡群出土土器 を中心として）	131～132
第11図	弥生時代後期～古墳時代初頭の土器編年表（Ⅱ）（宮崎学園都市遺跡群出土土器 を中心として）	133～134

第Ⅰ章 序説

第1節 発掘に至る経緯

上ノ原遺跡は、大淀川の支流である本庄川と深年川に挟まれた本庄台地の東端部の丘陵上（標高40m）に位置する（第1図）。地番では国富町大字本庄字上の原1512番地である。昭和58年12月に宮崎県社会福祉事業団向陽の里の実習果樹園で肥料用の溝を東西方向に6本入れた際に、焼石・縄文土器片・弥生土器（後期）が多数出土したので、町教育委員会に連絡があった。町教育委員会から連絡を受けた県文化課は、昭和59年1月23日、県福祉障害援護課・向陽の里と協議を行なった結果、確認調査を行なうことになった。昭和59年2月14日から18日まで国富町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会が調査員を派遣して確認調査が行なわれた。

第2節 調査区の設定と概要

当遺跡は、大淀川の支流である本庄川と深年川に挟まれた本庄大地の東端部の丘陵上に位置する。6本の肥料用の溝を北からT1（長さ11.5m×幅0.7m）、T2（30m×0.8m）、T3（30.5m×1.0m）、T4（37.5m×0.8m）、T5（35m×1.3m）、T6（34m×1.3m）とした。調査は桃の木の関係で、溝の壁面の清掃と土層断面実測、床面の清掃と遺構検出を行なった。その結果、集石遺構の他に竪穴式住居・土壇と推定される落ち込みを22ヶ所確認した（第2図）。

第3節 包含層の状態

当遺跡の基本層序は、第Ⅰ層が褐色土層（耕作土）、第Ⅱ層が黒色土層、第Ⅲ層が黄褐色土（アカホヤ層）、第Ⅳ層が茶褐色土（硬質、焼石混り）、第Ⅴ層が明黄褐色土（粘質）である。弥生土器は、第Ⅱ層の黒色土層から、縄文土器は第Ⅳ層に掘り込んだ集石遺構から出土している。竪穴住居と推定される落ち込みの床面は第Ⅳ層に掘り込んでいる（第3図）。

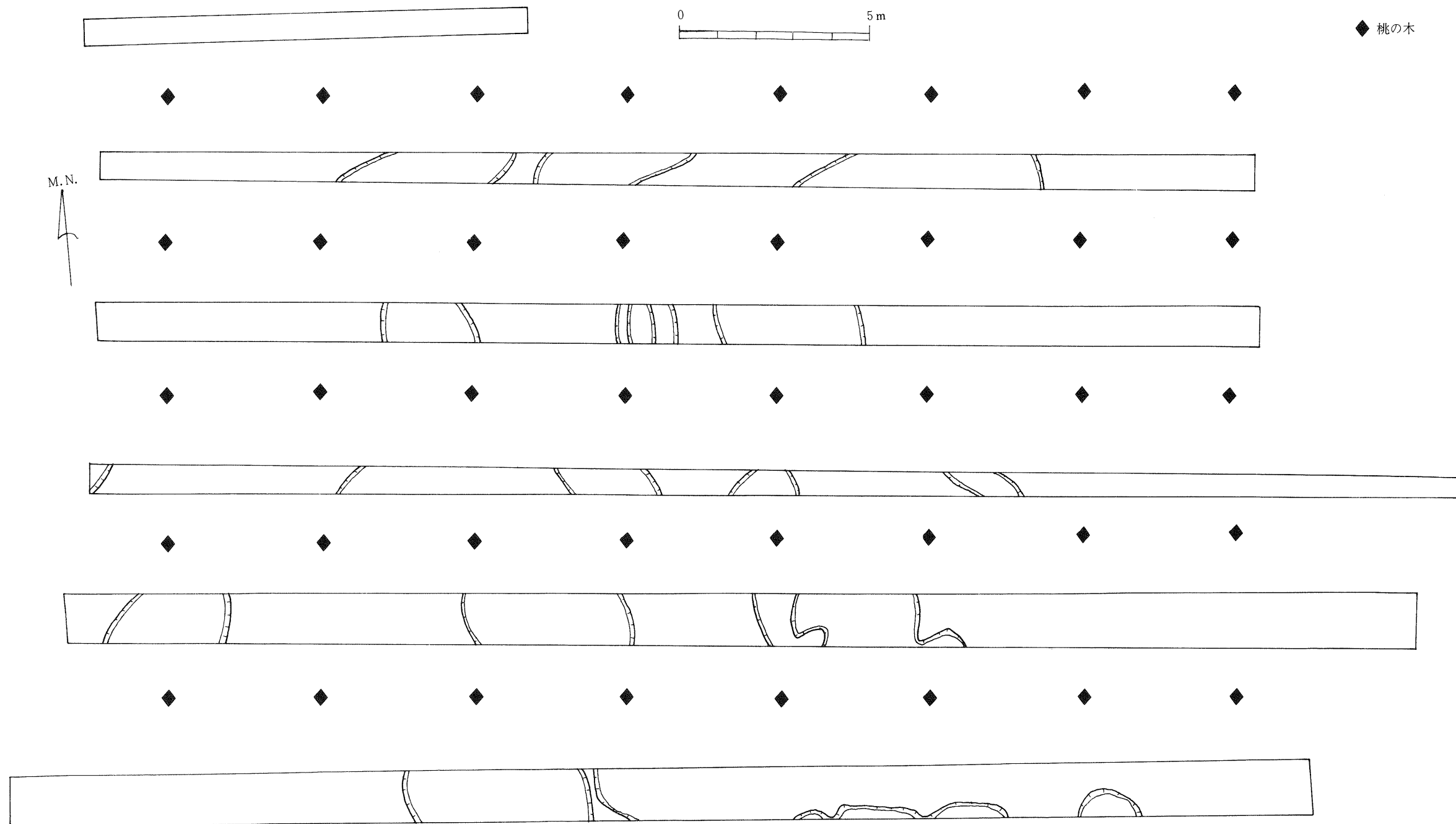
第Ⅱ章 遺構と遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物

集石遺構と焼石はT1とT3の断面で確認された。焼石の範囲はT1では東から西へ約



第1図 上ノ原遺跡周辺地形図 (縮尺 1/5,000)



第2図 上ノ原遺跡遺構分布図

8 m、T 3では東から西へ約10mまで広がっている。T 3の1号集石では早期の縄文土器が出土したが、縄文土器の量は少ない。

1. 集石遺構

1号集石

1号集石はT 3の東端に位置する。断面観察によれば幅約30cm、深さ15cmの土壌を伴い、その中に長さ約10cm、厚さ5cmの河原石・角礫が充鎮している。石はすべて火を受けている。

2号集石

2号集石はT 1の東端に位置する。断面観察によれば幅約30cm、深さ10cmの土壌を伴う。石はすべて火を受けている。

2. 縄文土器 (第4図1～10)

1はT 1の南壁、2は2号集石、3はT 1とT 2の間の排土、3は1号集石、4～7はT 6出土で、8～11は表採である。

1は斜方向の沈線と撚糸文を施し、その他の部位はヘラナデを施す。0.5mm大砂粒を多く含み、にぶい褐色 (Hue 7.5YR 5/3) で、焼成は良好である。

2は平坦な口唇部に刻目を、口縁部の一条の沈線の上下に刺突文を施し、その下位に三条の沈線を三角形に配する。内外面ともナデを施し、外面は灰褐色 (Hue 7.5YR 4/2)、内面は明赤褐色 (Hue 5YR 5/6) を呈する。金雲母などの0.5～2mm大砂粒を多く含み、焼成は良好である。

3は口唇部に刻み目を、口縁部に一条の沈線を施し、その上下に刺突文と撚糸文を施す。内外面ともナデを施し、にぶい褐色 (Hue 7.5YR 6/3) を呈する。0.5mm大砂粒を多く含み、焼成は良好である。

4・10は一条の斜方向の沈線と撚糸文を施し、浅黄橙色である。

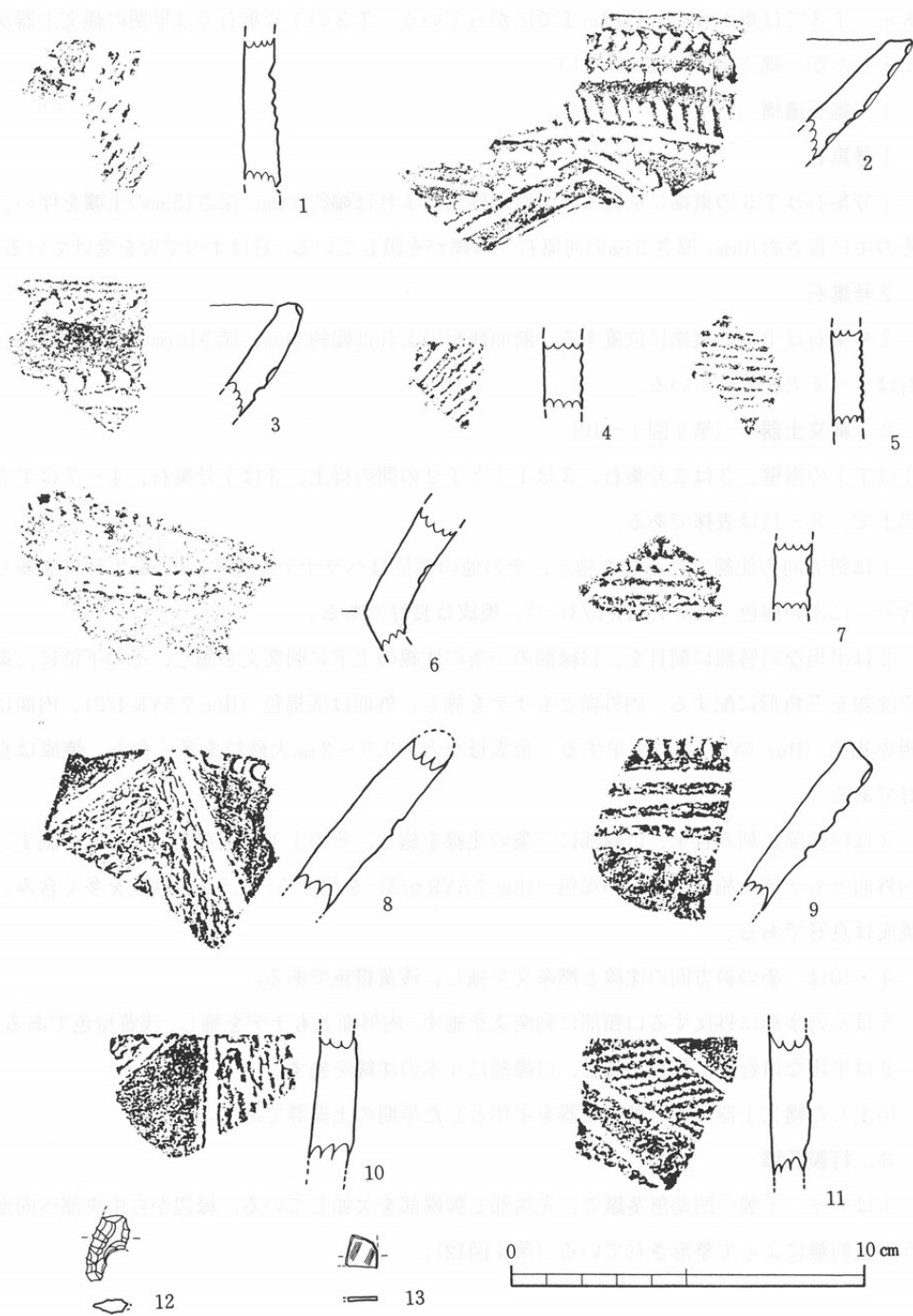
6はくの字形に外反する口頸部に刺突文を施す。内外面ともナデを施し、浅黄橙色である。

9は平坦な口唇部に刻目を施し、口縁部に4本の沈線を施す。

出土した縄文土器は塞ノ神式土器を主体とした早期の土器群である。

3. 打製石鏃

1はチャート製の凹基無茎鏃で、先端部と脚端部を欠如している。縁辺から中央部へ向かう押圧剥離によって整形されている (第4図12)。



第4図 縄文土器・石鏃実測図

第2節 弥生時代の遺構と遺物

溝の断面観察によって竪穴住居跡、或いは土壙と推定される落ち込みが、T2で4ヶ所、T3で3ヶ所、T4では5ヶ所、T5で6ヶ所、T6で4ヶ所、計22ヶ所確認された（第2図）。弥生土器はT2の4号住居、T6の3号住居から集中して出土している。灰色の頁岩製の無茎の磨製石鏃がT3の排土で表採されている（第4図13）。

1. 弥生土器

弥生土器の形態分類

当遺跡出土の弥生土器は次のように分類される。

甕

A類 口縁部が肥厚し、短い逆L字状を呈する中型甕である（第5・6・7・8図38・39・46・59・96）

B類 逆L字状口縁の大型甕で、口縁部直下に一条突帯を有する（第6・8図29・98・99）

C-1類 口縁部が逆L字状を呈し、内側へわずかに張り出す中型甕である（第6・7図47・48・60）

C-2類 口縁部はわずかに傾き、内側へ顕著に張り出し、断面はT字形を示す中型甕である（第5・6図9・49・50）

D類 く字口縁で、口縁部直下に一条の突帯を有する中型甕で、刻目突帯をD-1類（第5～8図5・11・13～15・31・40・62・82・83・94・100～102）、突帯をD-2類（第6・7図41・42・54・64）とする。

壺

A類 内側へ顕著に張り出す鋤先口縁の壺である（第6・8図55・110）

B類 口縁部が斜方向に伸び、途中で若干水平気味に外反する。胴部の中位に最大径があり、平底である（第5・7図21・87）

C類 胴部に2～3条の突帯を有する（第7・8図67・78・85・113・114）。

D類 口縁部が斜方向に伸び、口頸部と肩部の境に一条の突帯を有する（第5・6・7図23・34・76・77）

E類 短い上すばみの「ハ」の字状に広がる頸部からわずかに外反し、口縁端部は上下に拡張する。口唇部に2本の凹線を施す（第8図95）。

高坏

A類 口縁部がほぼ直立し、7本の凹線を施す。脚部には貫通していない6本の矢羽透し

を有する（第6図26）。

B類 坏部は深く、口縁部は内傾し、口縁部に3本の凹線を施す（第6図27）。

C類 鉢状の坏部よりやや内傾して直に立ち上がる口縁を有し、口縁部に7本の凹線を施す（第6図28）。

D類 あまり屈曲せず、口縁部が外法に伸びる（第7図93）。

E類 脚部が下位にいく程広がり、中位に円形透しを有する（第7図89）。

F類 脚裾部が内湾して開く（第7図92）。

G類 凹気味の口唇部に櫛描波状文を施す（第7図90）。

以上、弥生土器の分類を行なったが、これを従来の分類・編年に対比すると次のようになる。

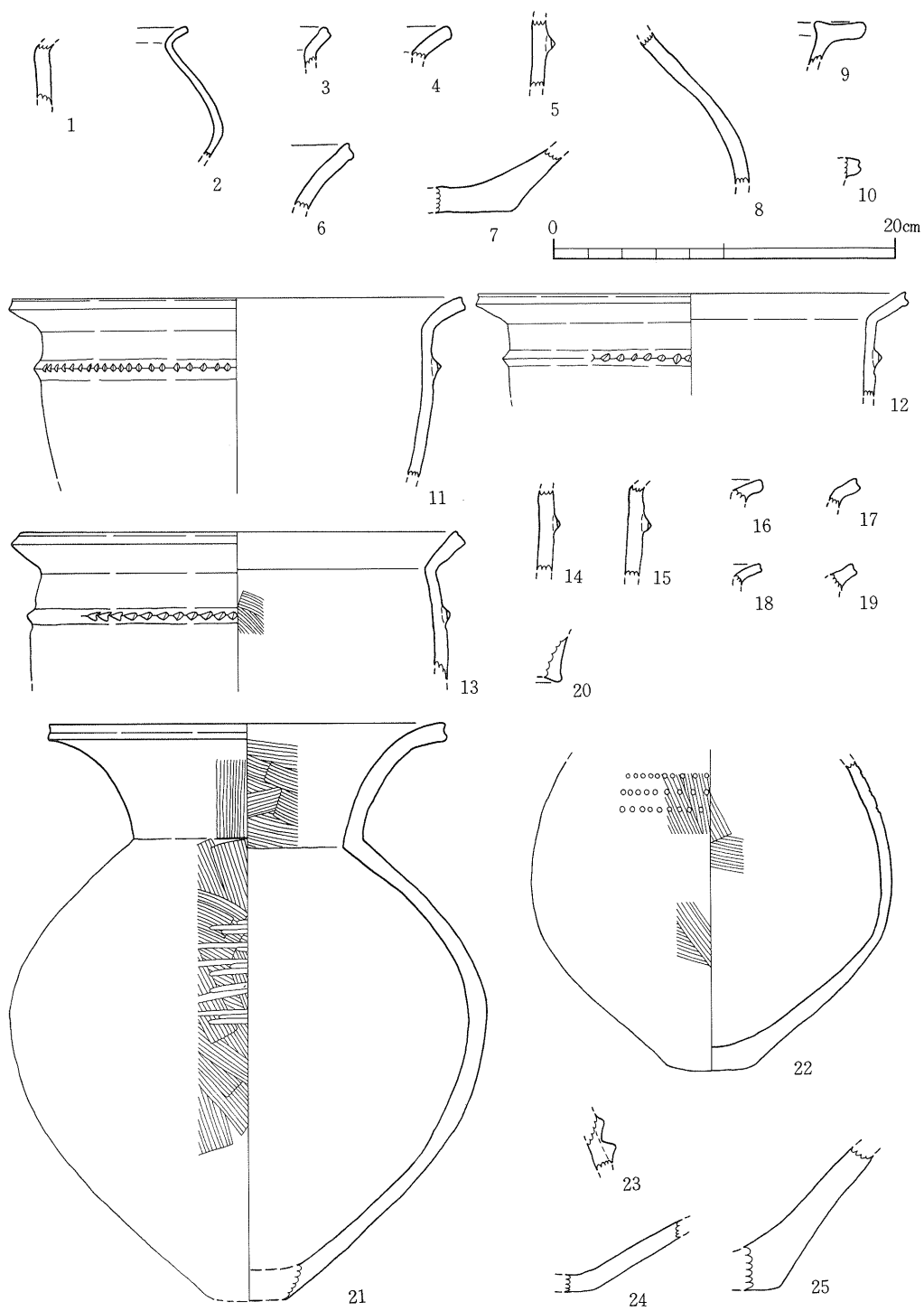
甕A～C類は胴部の突帯・沈線の有無は不明であるが、甕A類は石川悦雄氏分類のA類でⅡ期に相当する⁽¹⁾。甕D-1類は堂地東遺跡のⅡ類、D-2類はⅢ類に相当する⁽²⁾。壺A類は堂地東遺跡のⅠC類、C類はV類、D類はⅢb類相当する。高坏D類は浦田遺跡の坏部b類E類がⅠ類に⁽³⁾、F類が熊野遺跡の高坏脚部a2類⁽⁴⁾G類が東平下1号円形周溝甕出土の裝飾高坏に相当する⁽⁵⁾。

甕D-1類は、田中茂氏によって「中溝式」と仮称され、袋状口縁壺が北九州第三様式の須玖式の壺であり、これに共伴すると考えて中期後半～後期初頭に比定されていたが⁽⁶⁾、石川悦雄氏はⅣ期として後期前葉に比定した⁽⁷⁾。しかし、当遺跡のT2-4号住居（土壇）で高坏A・C類と共伴し、C類が高橋護氏編年⁽⁸⁾のⅥb期（中期末）に、A類がⅦa期（後期初頭）に相当することから、後期初頭に比定した⁽⁹⁾。また石川悦雄氏も言われるように瀬戸内系土器の「搬入」、「日向型間仕切り住居⁽¹⁰⁾」の出現に中期と後期の境界を求めたい。新田原6号住居が貫通している矢羽透しの高坏を出土している⁽¹¹⁾のに対して、当遺跡のT2-4号住居では貫通していない高坏D-1類と共伴することは、地域性として把握したい。

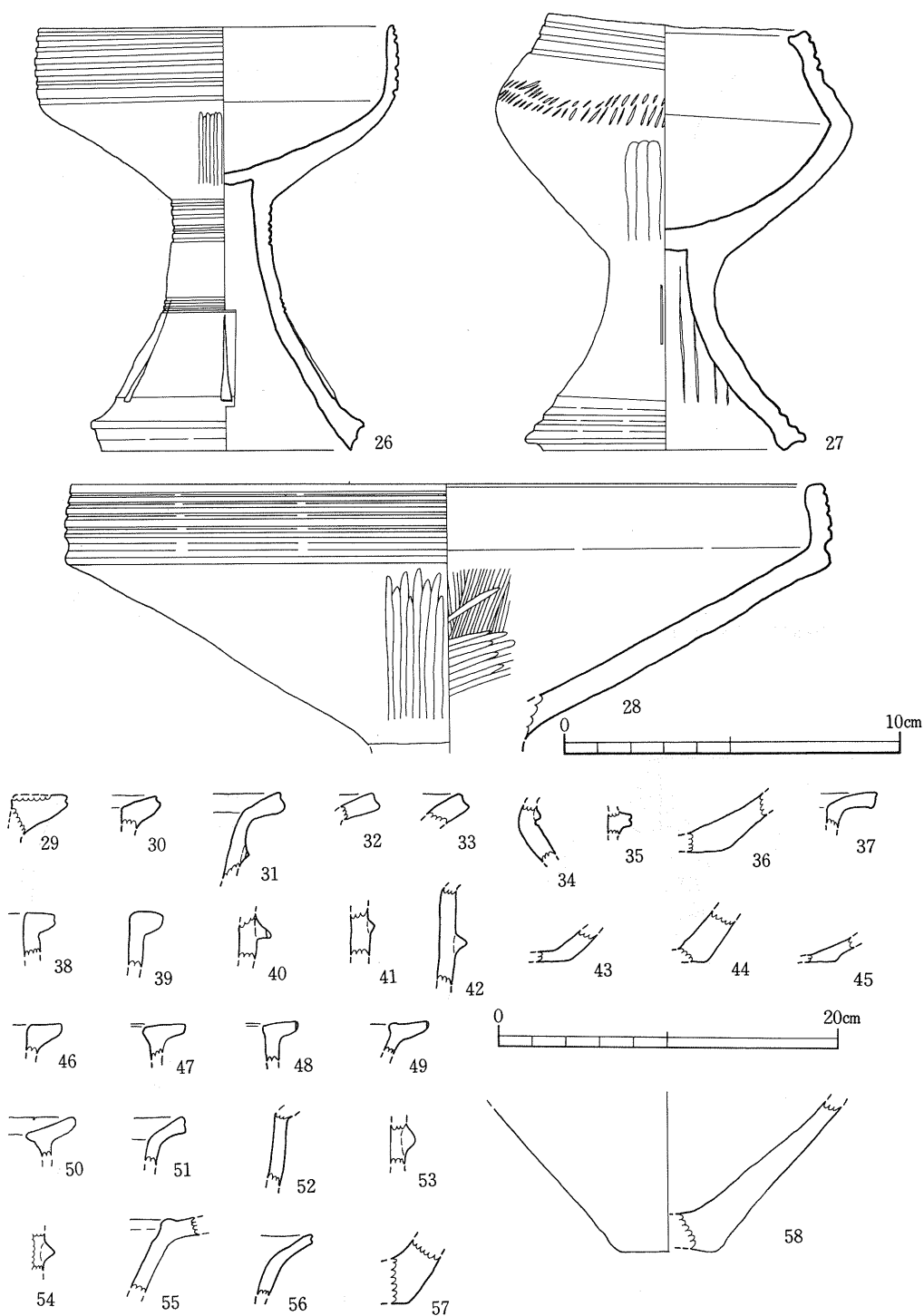
以上のことを宮崎学園都市中遺跡群を中心とした弥生土器編年表⁽¹²⁾（第10・11図）と対照すると、甕A～C類が中期前半、甕D類・壺A～C類・高坏A～C類が後期初頭、壺D類を後期前葉、高坏D・E類を後期末葉、高坏F類を土師器Ⅱ期（布留式併行期）に比定される。

第3節 歴史時代の遺構と遺物

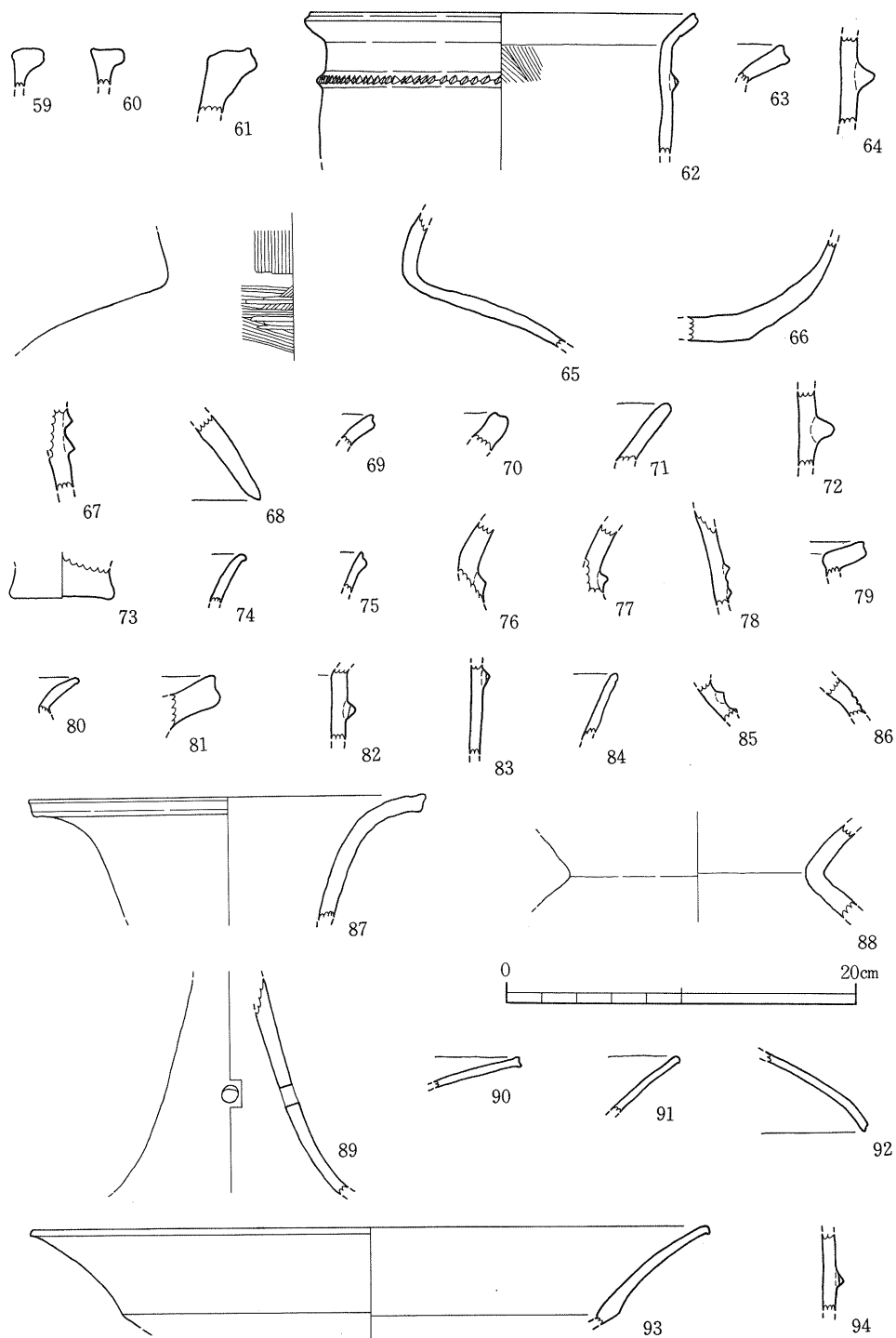
歴史時代の遺物で図化できたのは、わずか5点である。1・5はT2、2はT6から出土



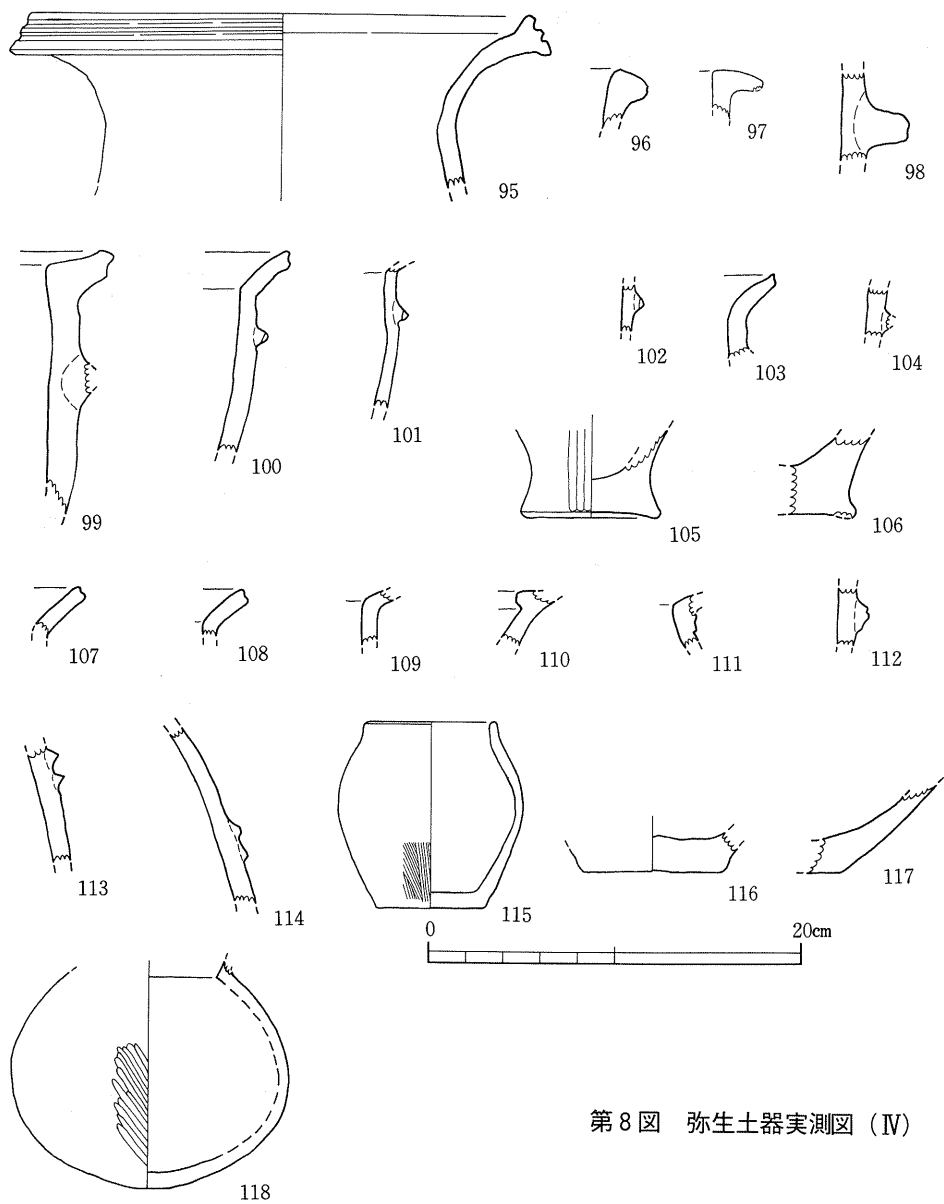
第5図 弥生土器実測図 (I)



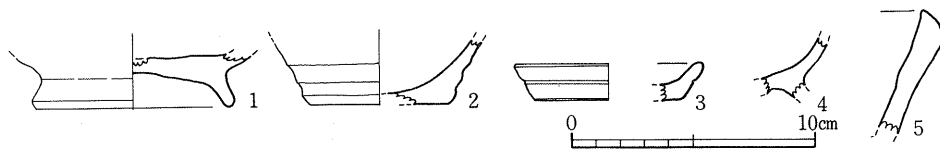
第6図 弥生土器実測図(Ⅱ)



第7図 弥生土器実測図（Ⅲ）



第8図 弥生土器実測図 (IV)



第9図 土師器実測図

しており、3・4は表採である。布痕土器も出土している。

1. 土師器（第9図1～4）

1は底径8.0cmの高台付埴の底部で、外方へ伸びる高台を有し、端部は丸い。底部はヘラ切りで、外面は横ナデ、内面はヘラ磨キを施す。外面は淡黄橙色（Hue 7.5YR 8/4）、内面は橙色（Hue 7.5YR 7/6）で、0.5mm大砂粒を若干含み、焼成は良好である。4も高台付埴である。

2は底径5.6cmのヘラ切りの埴の底部で、底部と体部の境に強い横ナデを施す。内外面とも横ナデを施し、橙色（Hue 5YR 7/6）である。0.5～2mm大砂粒を多く含み、焼成は軟である。

3は底径6.0cm、器高1.5cmの厚手の小皿である。底部はヘラ切りで、口縁部は丸い。内外面ともナデを施し、浅黄橙色（Hue 7.5YR 8/4）である。0.5mm大砂粒を若干含み、焼成は良好である。

2. 須恵質土器（第9図5）

5は東播系の片口鉢で、口縁端面が丸くなり上下へのつまみ出しをしていない。体部内側と口縁端面は鋭角をなすのに対して、体部外面と端部外側との接点は丸く仕上げている。内外とも横ナデを施し、灰色（Hue 5Y 5/1）を呈する。0.5mm大砂粒を若干含み、焼成は良好である。

1は小山尻東遺跡のI F 2類、2はIAb類⁽¹³⁾、3は堂地東遺跡のI-B-7類に⁽¹⁴⁾相当し、1・2が10世紀前半、3がヘラ切りから糸切りへの転換期（13世紀～14世紀前半）直前である。5は魚住古窯跡群の鉢C類⁽¹⁵⁾に相当し、13世紀前半に比定される。

第Ⅲ章 ま と め

当遺跡は、縄文時代早期と弥生時代後期を中心とする遺跡である。T-1トレンチからT-6トレンチへ傾斜しているため、赤ホヤ下層まで掘り下げられていたT-1・2トレンチで集石遺構が検出され、早期の縄文土器が出土している。集石遺構がかなりの数存在すると推定される。

弥生時代の遺構としては竪穴住居ないし土塋と推定される落ち込みが22ヶ所確認された。トレンチの間隔が約4mもあったので、竪穴住居の円形プランと方形プランがそれぞれ何軒あるかは不明であったが、T-6トレンチで日向型間仕切り住居の一部が確認された。出土し

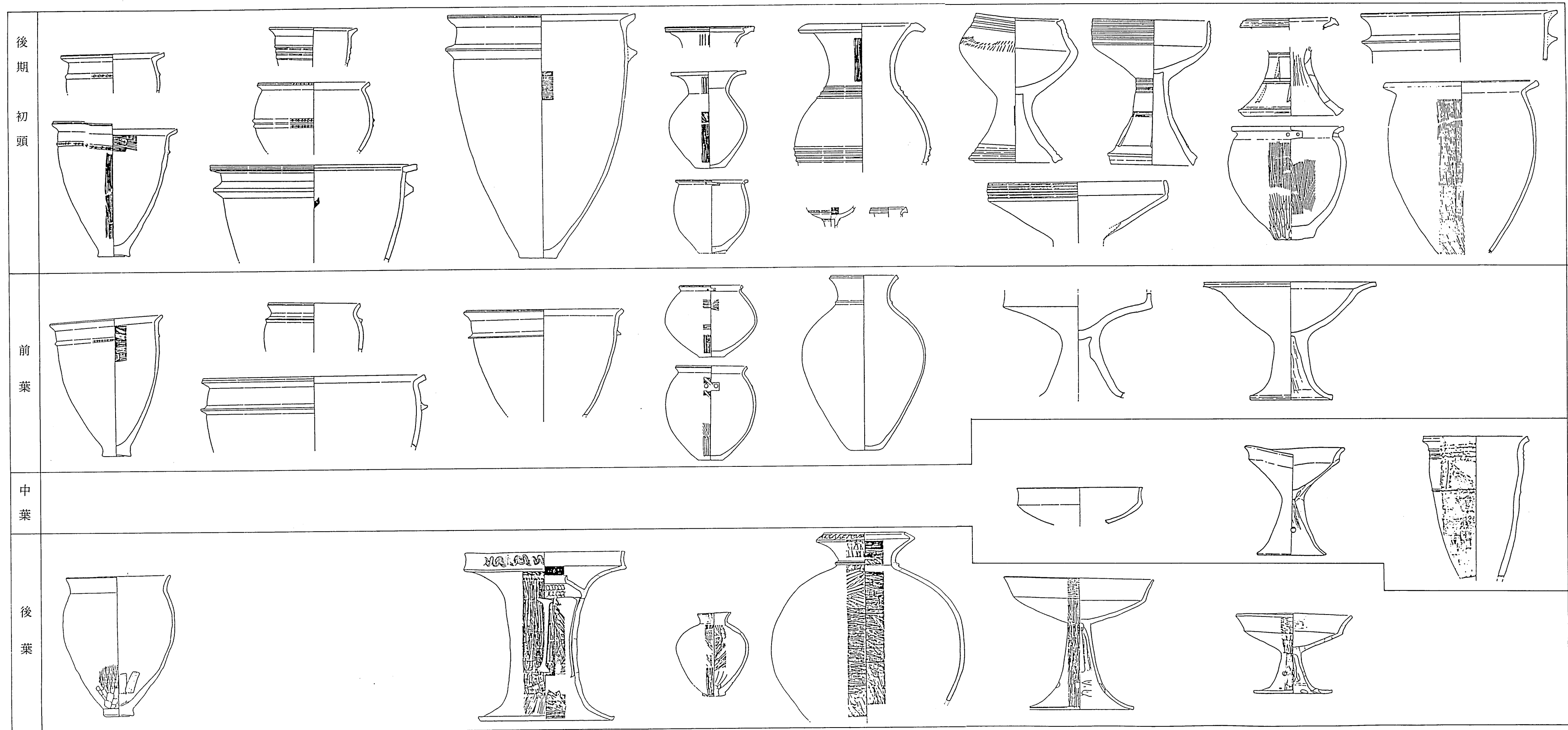
た弥生土器は中期前半から後期末葉で、前期初頭が主体である。特に口縁部直下に一条の刻目突帯を有する在地の甕が瀬戸内系の高坏と共伴し、後期初頭に比定されたことは大きな収穫であった。

歴史時代の遺物としては東播系摺鉢が出土しており、県内では平畑遺跡⁽¹⁶⁾（宮崎市）・堂地東遺跡⁽¹⁷⁾（宮崎市）・前原北遺跡⁽¹⁸⁾（宮崎市）・芳ヶ迫第2遺跡⁽¹⁹⁾（田野町）・祝吉遺跡松原地区⁽²⁰⁾（都城市）に次いで6例目である。

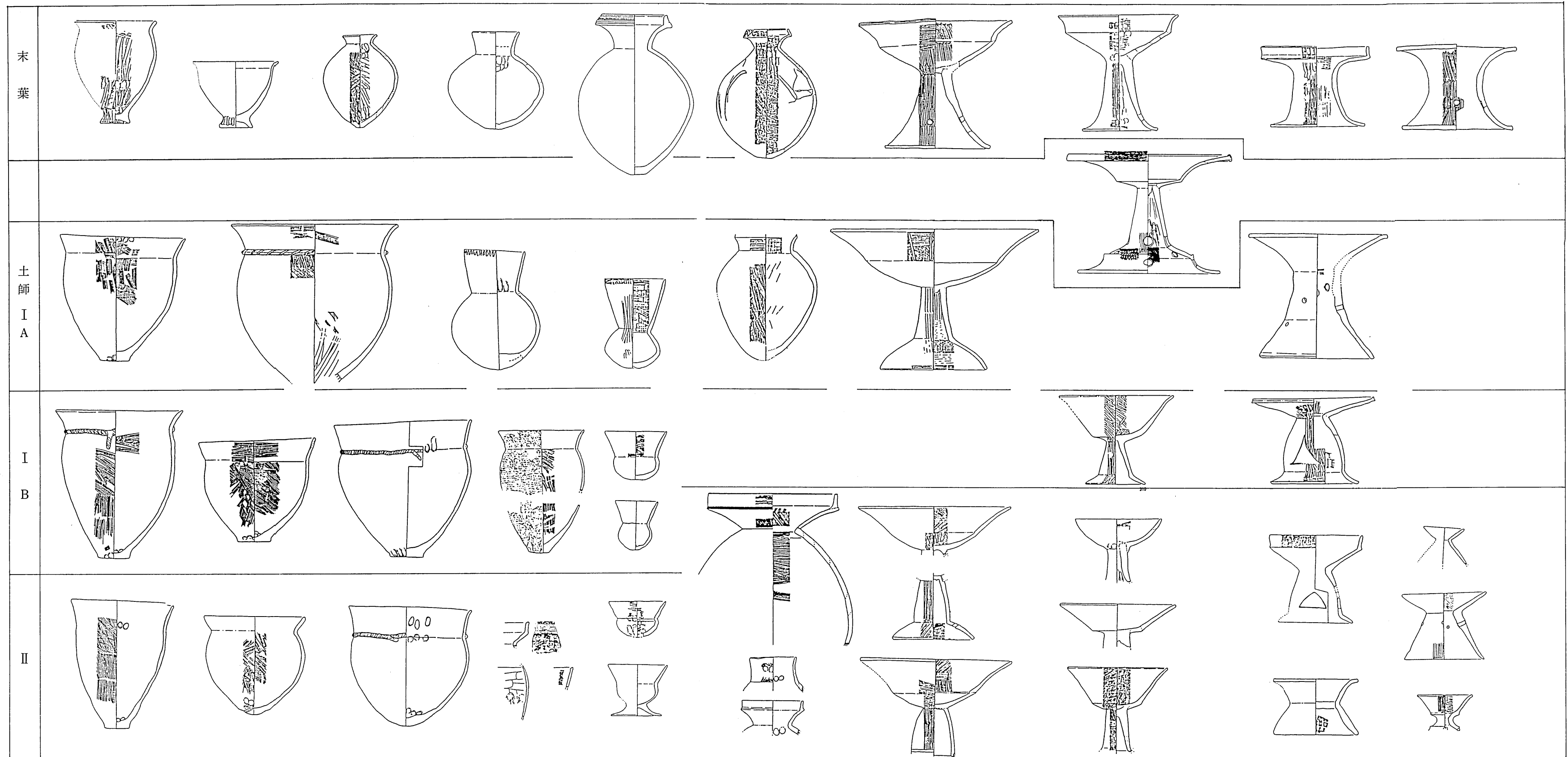
当遺跡は縄文時代早期から鎌倉時代にわたって生活の場として利用されており、特に縄文時代早期と弥生時代後期初頭に中心がある。今回の確認調査が果樹の肥料用の溝の壁面と床面の精査に限られたため遺跡の性格や遺構の内容を確認することは困難であったが、瀬戸内系高坏と在地の甕が共伴しており、将来の本調査に期待することが大である。

註

- (1) 石川悦雄 「宮崎市下北方町矢の崎・宮崎大学農学部（旧農専）茶園遺跡」 『宮崎県総合博物館研究紀要』第10号 1985
- (2) 長津宗重・日高孝治 「堂地東遺跡」 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
- (3) 谷口武範 「浦田遺跡」 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
- (4) 面高哲郎 「熊野原遺跡C地区」 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
- (5) 日高正晴・岩永哲夫 「東平下1号円形周構墓」 『宮崎県文化財調査報告書』第29集 1986
- (6) 田中 茂 「宮崎県出土の丹彩袋状口縁壺形土器について」 『宮崎県総合博物館研究紀要』第3輯 1975
- (7) 石川悦雄 「宮崎平野における弥生土器編年試案一素描（MK. II）」 『宮崎考古』第9号 1984
- (8) 高橋 護 「弥生土器一山陽」 考古学ジャーナル173・175・179・181号
- (9) 註2に同じ
- (10) 長津宗重 「日向型間仕切り住居研究序説」 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
- (11) 註2に同じ
- (12) 長津宗重 「弥生後期～庄内・布留式併行期の土器編年」 『シンポジウム 地域間交流を考える』資料 1986
- (13) 長津宗重・近藤協 「小山尻東遺跡」 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第3集 1985
- (14) 註2に同じ
- (15) 大村敬通・水口富雄 『魚住古窯跡群』兵庫県教育委員会 1983
- (16) 北郷泰道・菅付和樹・日高孝治 「平畑遺跡」 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
- (17) 註2に同じ



第10図 弥生時代後期～古墳時代初頭の土器編年表（Ⅰ）（宮崎学園都市遺跡群出土土器を中心として）



第11図 弥生時代後期～古墳時代初頭の土器編年表（Ⅱ）（宮崎学園都市遺跡群出土土器を中心として）

(18) 宮崎県教育委員会が1985年4月～12月に調査を行なった。

(19) 寺師雄二 「芳ヶ迫第2遺跡」 『田野町文化財調査報告書』第3集 1986

(20) 都城市教育委員会が1985年7月～9月に調査を行なった。

弥生土器観察表

図面番号	遺構名	遺物番号	器種	部位	調		焼成	色		調		胎	土	備考	分類
					外	内		外	内						
第5図	T2-2	1	甕	頸部	横方向のハケ目	横方向のハケ目	良好	5YR $\frac{5}{4}$ にぶい橙	5YR $\frac{5}{4}$ にぶい赤褐	0.5mm大砂粒多					
〃	T2-2	2	壺	口縁部 ～胴部	風化著しい	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ にぶい橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ 橙	1mm大砂粒多					
〃	T2-3	3	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	5YR $\frac{5}{4}$ 褐灰	5YR $\frac{5}{4}$ にぶい赤褐	0.5mm大砂粒多			スス付着		
〃	T2-3	4	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ にぶい橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ にぶい橙	0.5～4mm大砂粒若					
〃	T2-3	5	甕	頸部	横ナデか	風化が著しい	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ 黄橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ 黄橙	0.5mm大砂粒多					D-1
〃	T2-3	6	壺	口縁部	口唇部…横ナデ	風化著しい	良好	5YR $\frac{5}{4}$ 橙	5YR $\frac{5}{4}$ 橙	0.5mm大砂粒多					
〃	T2-3	7	壺	底部	ヘラ磨き	斜方向のハケ目	良好	5YR $\frac{5}{4}$ 淡橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ 褐灰	0.5mm大砂粒多					
〃	T2-3	8	壺	胴部	ヘラ磨き	ナデ・指押え・ 斜方向のハケ目	良好	10YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	10YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	0.5mm大砂粒多					
〃	T2-4	9	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ にぶい褐	7.5YR $\frac{5}{4}$ にぶい橙	0.5～1mm大砂粒多			スス付着		C-2
〃	T2-4	10	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ 橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ 橙	0.5mm大砂粒多					
〃	T2-4	11	甕	口縁部 ～胴部	横ナデ	横ナデ	良好	5YR $\frac{5}{4}$ 橙	10YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	0.5～2mm大砂粒多			スス付着 タテ方向の刻目突帯		D-1
〃	T2-4	13	甕	口縁部 ～胴部	横ナデ	口縁部…横ナデ 調 斜方向のハケ目	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	0.5～2mm大砂粒多			斜方向の刻目		D-1
〃	T2-4	14	甕	頸部	横ナデ	風化著しい	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	0.5～2mm大砂粒多			刻目突帯		D-1
〃	T2-4	15	甕	頸部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ にぶい褐	7.5YR $\frac{5}{4}$ にぶい橙	0.5～1mm大砂粒多			斜方向の刻目		D-1
〃	T2-4	16	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ 橙	0.5mm大砂粒多					
〃	T2-4	17	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ 浅黄橙	0.5mm大砂粒多					
〃	T2-4	18	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ 褐灰	7.5YR $\frac{5}{4}$ 褐灰	0.5mm大砂粒若干					
〃	T2-4	19	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ 褐灰	7.5YR $\frac{5}{4}$ 灰白	0.5mm大砂粒多					
〃	T2-4	20	甕	底部	ナデ	ナデ	良好	5YR $\frac{5}{4}$ 淡橙	7.5YR $\frac{5}{4}$ 褐灰	0.5～3mm大砂粒多					
〃	T2-4	21	壺	口縁部 ～底部	口縁部…横ナデ 胴部…斜方向のハケ目 のハケ目の後横方向のヘラ磨き	口縁部…斜方向のハケ目 胴部…ナデ	良好	7.5YR $\frac{5}{4}$ 灰白	7.5YR $\frac{5}{4}$ 灰白	0.5～1mm大砂粒多					B

図面番号	遺構名	遺物 番号	器種	部 位	調 査		焼 成	色 調		胎 土	備 考	分 類
					外 面	内 面		外 面	内 面			
第5図	T2-4	22	壺	肩 ～ 底部	肩部…タテ方向のハ ハケ目 底部…ヘラ磨き	肩部…斜・横方向の ハケ目 底部…ヘラ磨き	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	0.5～2mm大砂粒多	肩部に竹管文	
〃	T2-4	23	壺	胴 部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	0.5～2mm大砂粒多	2条突帯	D
〃	T2-4	24	壺	底 部	ヘラ磨きか	横ナデ	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 褐灰	1～2mm大砂粒多		
〃	T2-4	25	壺	底 部	風化著しい	風化著しい	良 好	5YR $\frac{7}{5}$ 橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 橙	0.5～1mm大砂粒多		
第6図	T2-4	26	高坏	口縁部 ～ 底部	口縁上半…横ナデ 下半…横ナデ 底部…ヘラ磨きの後ナデ	口縁…ナデ 底部…横方向のヘラ削り	良 好	10YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	0.5～2mm大砂粒若干	7本凹線 矢羽透し 6	A
〃	T2-4	27	高坏	口縁部	口縁上半…横ナデ 下半…ヘラ磨き	口縁…強い横ナデ・ヘラ磨き 底部…シボリ・ヘラ磨き	良 好	10YR $\frac{7}{5}$ にぶい黄橙	10YR $\frac{7}{5}$ にぶい黄橙	0.5mm大砂粒多	3本凹線	B
〃	T2-4	28	高坏	坏 部	口縁部…横ナデ 底部…タテ方向のヘラ磨き	口縁部…横ナデ 底部…タテ方向のヘラ磨き	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	0.5mm大砂粒多	5本凹線	C
〃	T2	29	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 橙	0.5～2mm大砂粒多		B
〃	T2	30	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	0.5mm大砂粒多		
〃	T2-3	31	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	5YR $\frac{7}{5}$ 橙	5YR $\frac{7}{5}$ 橙	0.5～1mm大砂粒多	刻目突帯	D-1
〃	T2	32	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5YR 橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	0.5～2mm大砂粒多		1
〃	T2	33	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	10YR $\frac{7}{5}$ にぶい黄橙	10YR $\frac{7}{5}$ にぶい黄橙	0.5mm大砂粒多		
〃	T2	34	壺	頸 部	横ナデ	ナデ	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 黒褐	0.5mm大砂粒多	刻目突帯か	D
〃	T2	35	壺	突 帯	ヘラ磨き	ナデ	良 好	2.5YR $\frac{7}{5}$ 明赤褐	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	0.5mm大砂粒若干	丹塗磨研	
〃	T2	36	壺	底 部	ナデ	横方向のハケ目・ナデ	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 黒	0.5～1mm大砂粒多	黒斑	
〃	T4-4	37	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ・斜方向のハケ目	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	1mm大砂粒多	スス付着	
〃	T4	38	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	0.5～1mm大砂粒多		A
〃	T4	39	甕	口縁部	横ナデか	横ナデ	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	2～3mm大砂粒多		A
〃	T4	40	甕	頸 部	横ナデ	ナデか	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	2mm大砂粒多	刻目突帯	D-1
〃	T4	41	甕	頸 部	横ナデ	ナデか	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	0.5～2mm大砂粒多	突帯	D-2
〃	T4	42	甕	頸 部	横ナデ	横方向のハケ目	良 好	7.5YR $\frac{7}{5}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{7}{5}$ にぶい橙	0.5～2mm大砂粒多	スス付着 タテ方向の刻目	D-2

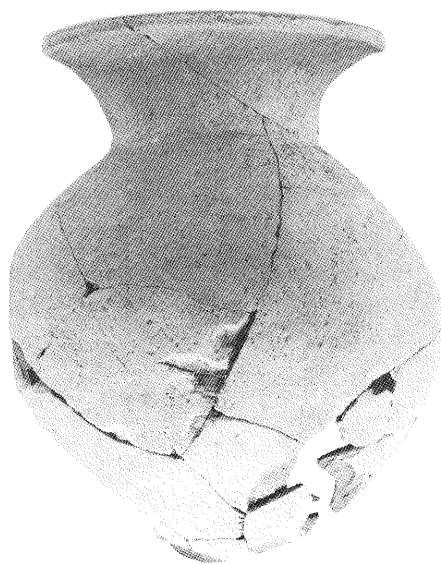
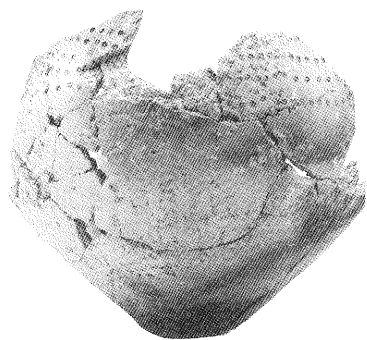
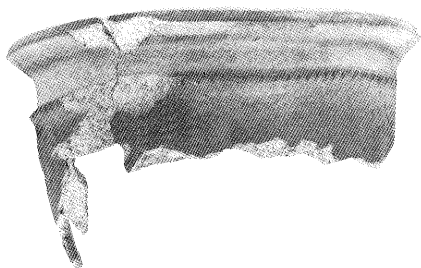
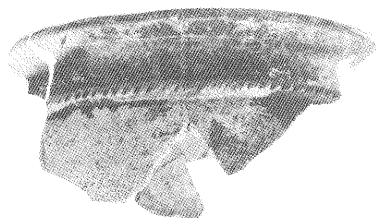
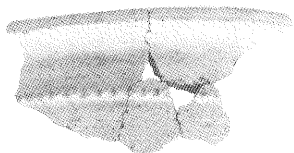
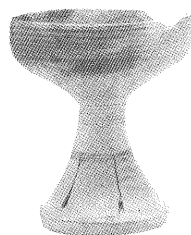
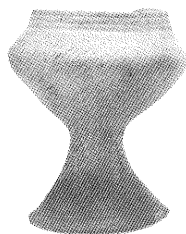
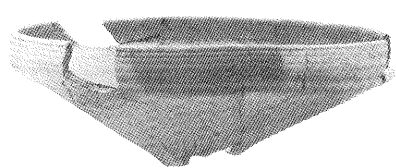
図面番号	遺構名	遺物 番号	器種	部位	調整		焼成	色調		胎土	備考	分類
					外	内		外	内			
第6図	T4	43	壺	底部	ナデカ	ナデ	良好	5YR $\frac{1}{2}$ 橙	5YR $\frac{1}{2}$ 橙	0.5mm大砂粒多	黒斑	
〃	T4	44	壺	底部	ナデ	ナデ	良好	5YR $\frac{1}{2}$ 橙	10YR $\frac{1}{2}$ 灰白	1～2mm大砂粒多		
〃	T4	45	壺	底部	ナデ	ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 橙	0.5mm大砂粒多		
〃	T5-6	46	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{4}$ にぶい橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ にぶい橙	0.5mm大砂粒多		A
〃	T5-6	47	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{4}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	0.5mm大砂粒多		C-1
〃	T5-6	48	甕	口縁部	横ナデカ	風化著しい	良好	7.5YR $\frac{1}{2}$ 黄橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 黄橙	0.5～3mm大砂粒多	口唇部に刻目	C-1
〃	T5-6	49	壺	口縁部	風化著しい	風化著しい	良好	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	0.5mm大砂粒多	口唇部に刻目	C-2
〃	T5-6	50	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{2}$ にぶい褐	7.5YR $\frac{1}{4}$ にぶい橙	0.5mm大砂粒多		C-2
〃	T5-6	51	甕	口縁部	風化著しい	ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{4}$ にぶい橙	7.5YR $\frac{1}{4}$ 褐灰	0.5～1mm大砂粒多		
〃	T5-6	52	甕	頸部	ハケ目	ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{4}$ にぶい橙	7.5YR $\frac{1}{4}$ にぶい褐	0.5～3mm大砂粒多		
〃	T5-6	53	甕	頸部	横ナデ	ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{4}$ 褐灰	7.5YR $\frac{1}{2}$ 明褐灰	0.5～1mm大砂粒多	突帯	
〃	T5-6	54	甕	頸部	横ナデ	—	良好	7.5YR $\frac{1}{2}$ 橙	—	0.5mm大砂粒多	突帯	D-2
〃	T5-6	55	壺	頸部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{4}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	0.5～3mm大砂粒多		A
〃	T5-6	56	壺	口縁部	ナデ	風化著しい	良好	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	0.5～1mm大砂粒多		
〃	T5-6	57	壺	底部	風化著しい	風化著しい	良好	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ にぶい橙	0.5mm大砂粒多		
〃	T5-6	58	壺	底部	風化著しい	風化著しい	良好	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	0.5～1mm大砂粒多		
第7図	T6-1	59	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	5YR $\frac{1}{2}$ 橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	1～2mm大砂粒多		A
〃	T6-1	60	甕	口縁部	横ナデ・タテ方向のハケ目	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{4}$ 黒褐	7.5YR $\frac{1}{2}$ 灰白	0.5mm大砂粒多		C-1
〃	T6-1	61	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	7.5YR $\frac{1}{4}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 灰白	1～3mm大砂粒多		
〃	T6-1	62	甕	口縁部	横ナデ・ハケ目	横ナデ・斜方向のハケ目	良好	7.5YR $\frac{1}{4}$ 浅黄橙	7.5YR $\frac{1}{4}$ 浅黄橙	1～2mm大砂粒多	スス付着 刻目突帯	D-1
〃	T6-2	63	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良好	5YR $\frac{1}{2}$ 橙	7.5YR $\frac{1}{2}$ 浅黄橙	0.5mm大砂粒多		

図面番号	遺構名	遺物 番号	器種	部位	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考	分類
					外 面	内 面		外 面	内 面			
第7図	T6-1	64	甕	頸 部	横ナデ・横方向のハケ目	ナデか	良 好	5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	0.5~2mm大砂粒多		D-2
〃	T6-1	65	壺	頸 部 〜肩部	頸部…タテ方向のハケ目 肩部…ハケ目後、ヘラ磨き	頸部…ナデ 肩部…ハケ目	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %淡黄橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	1~2mm大砂粒多		
〃	T6-1	66	壺	底 部	ハケ目	ナデ	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %灰褐	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %にぶい褐	1~2mm大砂粒多		
〃	T6-1	67	壺	胴 部	ヘラ磨き	ナデか	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %灰白	0.5mm大砂粒多		C
〃	T6-1	68	甕	脚	ナデ	ナデ	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %黒褐	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %黒褐	1mm大砂粒多		
〃	T6-2	69	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	0.5mm大砂粒多		
〃	T6-2	70	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	0.5mm大砂粒多		
〃	T6-2	71	甕	口縁部	風化著しい	風化著しい	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %黄橙	0.5~2mm大砂粒多		
〃	T6-2	72	甕	胴 部	ナデか	ナデか	やや軟	5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	1mm大砂粒多		D-2
〃	T6-2	73	甕	底 部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %灰白	—	1~2mm大砂粒多		
〃	T6-2	74	壺	口縁部	横ナデ	ナデ	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	1~2mm大砂粒多		
〃	T6-2	75	壺	口縁部	横ナデ	ナデ	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	0.5mm大砂粒多		
〃	T6-2	76	壺	頸 部	ナデか	ナデか	良 好	5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	0.5mm大砂粒大	1 条突帯	D
〃	T6-2	77	壺	頸 部	ナデか	ナデか	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %灰白	1~2mm大砂粒多	1 条突帯	D
〃	T6-2	78	壺	胴 部	風化著しい	風化著しい	やや軟	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	1~3mm大砂粒多	2 条突帯	C
〃	T6-3	79	甕	口縁部	横ナデか	横ナデか	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %黄橙	1~2mm大砂粒多		
〃	T6-3	80	壺	口縁部	風化著しい	横ナデ	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	1~2mm大砂粒多		
〃	T6-3	81	甕	口縁部	横ナデか	横ナデか	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	10 Y R $\frac{1}{4}$ %浅黄橙	0.5~1mm大砂粒多		
〃	T6-3	82	甕	頸 部	横ナデ	斜方向のハケ目	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %灰白	0.5mm大砂粒多	刻目突帯	D-1
〃	T6-3	83	甕	頸 部	ハケ目か	風化著しい	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	0.5~2mm大砂粒多	タテ方向の刻目	D-1
〃	T6-3	84	壺	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %にぶい橙	7.5 Y R $\frac{1}{2}$ %浅黄橙	1~2mm大砂粒多		

図面番号	遺構名	遺物 番号	器種	部位	調 整		焼 成	色 調		胎 土	備 考	分 類
					外	内		外	内			
第7図	T6-3	85	壺	肩部	横ナデ	ナデ	良 好	7.5YR%灰白	7.5YR%灰白	0.5~1mm大砂粒多	3条突帯	C
〃	T6-3	86	壺	肩部	ナデか	風化著しい	良 好	7.5YR%橙	7.5YR%黄橙	1~2mm大砂粒多	3本沈線	
〃	T6-3	87	壺	口縁部	風化著しい	風化著しい	やや軟	7.5YR%黄橙	2.5YR%橙	0.5~2mm大砂粒多		B
〃	T6-3	88	壺	頸部	風化著しい	ナデ	やや軟	5YR%橙	7.5YR%黄橙	0.5~1.5mm大砂粒多		
〃	T6-2	89	高环	脚部	風化著しい	風化著しい	良 好	5YR%橙	7.5YR%浅黄橙	1mm大砂粒多	円形透し	
〃	T6-3	90	高环	口縁部	風化著しい	ヘラ磨き	良 好	5YR%橙	7.5YR%浅黄橙	0.5~1mm大砂粒多	口唇部に 櫛掻波状文	
〃	T6-3	91	高环	口縁部	タテ方向のヘラ磨き	ヘラ磨き	良 好	7.5YR%橙	7.5YR%橙	0.5mm大砂粒若干		
〃	T6-3	92	高环	脚部	ヘラ磨きか	風化著しい	良 好	7.5YR%橙	7.5YR%橙	0.5mm大砂粒若干		F
〃	T6-4	93	高环	环部	ヘラ磨き	ヘラ磨き	良 好	7.5YR%淡黄橙	7.5YR%淡黄橙	0.5mm大砂粒若干		D
〃	T6-4	94	甕	頸部	横ナデ・ハケ目	ナデ	良 好	7.5YR%浅黄橙	7.5YR%浅黄橙	0.5~2mm大砂粒多		D-1
第8図	T6-4	95	壺	口頸部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5YR%にぶい橙	7.5YR%にぶい橙	0.5~1mm大砂粒多	口唇部に 2本の凹線	E
〃	表 採	96	甕	口縁部	横ナデ・タテ方向のハケ目	横ナデ	良 好	7.5YR%浅黄橙	7.5YR%浅黄橙	0.5~2mm大砂粒多		A
〃	表 採	97	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5YR%浅黄橙	7.5YR%浅黄橙	0.5mm大砂粒多		
〃	表 採	98	甕	胴部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5YR%橙	7.5YR%黄橙	0.5~2mm大砂粒多	突帯	B
〃	表 採	99	甕	口縁部 ～胴部	横ナデ	ハケ目の後ナデか	良 好	5YR%橙	10YR%にぶい黄橙	0.5~1mm大砂粒多		B
〃	表 採	100	甕	口縁部 ～胴部	口縁部…横ナデ 胴部…斜方向のハケ目	口縁部…横ナデ 胴部…斜方向のハケ目	良 好	7.5YR%浅黄橙	7.5YR%浅黄橙	0.5mm大砂粒多		D-1
〃	表 採	101	甕	頸部	横ナデ・斜方向のハケ目	横・タテ方向のハケ目	良 好	7.5YR%明褐色	7.5YR%にぶい橙	0.5mm大砂粒多		D-1
〃	T6-3	102	甕	頸部	風化著しい	風化著しい	良 好	5YR%橙	5YR%橙	1~2mm大砂粒多	刻目突帯	D-1
〃	表 採	103	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ・斜方向のハケ目	良 好	7.5YR%浅黄橙	7.5YR%浅黄橙	0.5mm大砂粒多		D
〃	表 採	104	甕	頸部	横ナデ	ナデ	良 好	5YR%橙	2.5YR%橙	0.5~5mm大砂粒多		D
〃	表 採	105	甕	底部	タテ方向のヘラ削り	ナデ	良 好	7.5YR%明褐色	7.5YR%黒褐	0.5mm大砂粒多		

図面番号	遺構名	遺物 番号	器種	部位	調 整		焼 成	色		胎 土	備 考	分類
					外	内		外	内			
第8図	表 探	106	甕	底部	ナデ	ナデ	良 好	7.5Y R ⅞ 浅黄橙	7.5Y R ⅜ 黒褐	0.5~2mm大砂粒多		
〃	表 探	107	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5Y R ⅞ 浅黄橙	7.5Y R ⅜ 浅黄橙	0.5~1mm大砂粒多		
〃	表 探	108	甕	口縁部	横ナデ	横ナデ	良 好	7.5Y R ⅞ 浅黄橙	7.5Y R ⅜ 浅黄橙	0.5mm大砂粒若干	スス付着	
〃	表 探	109	甕	頸 部	横ナデ・斜方向のハケ目	横ナデ・斜方向のハケ目	良 好	7.5Y R ⅞ にぶい褐	7.5Y R ⅝ 灰褐	1mm大砂粒多		
〃	表 探	110	壺	口頸部	風化が著しい	風化が著しい	良 好	7.5Y R ⅞ 浅黄橙	7.5Y R ⅜ 浅黄橙	0.5mm大砂粒多		A
〃	表 探	111	壺	頸 部	ナデ	ナデ	良 好	7.5Y R ⅞ 浅黄橙	7.5Y R ⅝ 灰白	0.5mm大砂粒若干	刻目突帯	
〃	表 探	112	壺	胴 部	横ナデ	ナデ	良 好	7.5Y R ⅞ 橙	7.5Y R ⅝ 灰褐	0.5~2mm大砂粒多	1条突帯	
〃	表 探	113	壺	胴 部	横ナデ・ハケ目	ハケ目の後、ナデ	良 好	5 Y R ⅞ 橙	5 Y R ⅞ にぶい赤褐	0.5mm大砂粒若干	2条突帯	C
〃	表 探	114	壺	胴 部	ハケ目か 突帯部…横ナデ	横方向のハケ目	良 好	7.5Y R ⅞ 浅黄橙	7.5Y R ⅞ 黄橙	0.2~0.5mm大砂粒多	2条突帯	C
〃	表 探	115	壺	完 形	口縁部…横ナデ 胴・底部…ナデ	口縁部…横ナデ 胴・底部…ナデ	良 好	10Y R ⅞ にぶい黄橙	10Y R ⅞ 灰黄褐	0.5mm大砂粒若干		
〃	表 探	116	壺	底部	ナデ	ヘラ磨き・ナデ	良 好	7.5Y R ⅞ 褐灰	7.5Y R ⅞ にぶい橙	0.5~2mm大砂粒多		
〃	表 探	117	壺	底部	ナデ	ナデ	良 好	7.5Y R ⅞ にぶい橙	7.5Y R ⅞ 黒	0.5~1mm大砂粒多		
〃	表 探	118	壺	頸部 ~底部	ヘラ磨き	ナデ	良 好	7.5Y R ⅞ 浅黄橙	7.5Y R ⅞ 浅黄橙	0.5mm大砂粒多	土師器	

图版
1



V. 市の瀬地下式横穴墓群 人骨編
— 5号・9号・10号地下式横穴墓—

例 言

1. 本報告は昭和58年1月10日から1月22日、昭和59年7月25日から8月1日まで、国富町教育委員会が実施した市の瀬地下式横穴墓群発掘調査において出土した埋葬人骨にかかる報告である。
2. 人骨の調査は長崎大学医学部解剖学第二教室によって行われ、同教室助教授松下孝幸氏、講師分部哲秋氏、助手中谷昭二氏に執筆いただいた。記して感謝申しあげる。
3. 今回の調査における埋葬人骨は、本報告の11体のほかに6号地下式横穴墓の1体が確認されていたが、遺存状態が悪く小破片であったため調査期間中の種々の混乱から取上げに遺漏があったことを遺憾に思う。

宮崎県国富町市の瀬地下式横穴墓群出土の古墳時代人骨

松 下 孝 幸*・中 谷 昭 二*

はじめに

市の瀬地下式横穴墓群は宮崎県東諸県郡国富町大字深年に所在する。この地下式横穴墓群は昭和43年（1968年）、昭和58年（1983年）および昭和59年（1984年）に発掘調査が行なわれ、昭和58年（1983年）と翌59年の調査では、人骨が検出された。

長崎大学医学部解剖学第二教室では、日本人の起源とその形質変化を明らかにするため、西日本各地から出土する古人骨の収集とその研究を続けている。古墳時代人骨に関しては、宮崎県の地下式横穴墓から出土する人骨を十数年にわたって収集し、すでに約100体あまりの人骨について報告を行ってきた。その結果、宮崎県を中心にした南九州地域での特徴の一端を明らかにすることができたが、同時にその特徴は当初考えていたよりも複雑な様相を呈してきており、さらに研究を深めていくことが求められている。特に、宮崎市周辺での資料が著しく不足しており、本県での古墳時代人の全体像を明らかにするうえで大きな障害になっている。このような意味からも本例はきわめて貴重な資料となるものである。

人類学的観察や計測を行なったので、その結果を報告しておきたい。なお、小児骨については、分部が別稿で詳述しているので、本稿では成人骨についてのみ報告する。

資 料

今回出土した人骨は、表1に示しているとおり、5号墳から2体、9号墳から4体、10号墳から5体、合計11体である。このうち2体は小児骨で、残りの9体の成人骨のうち、男性骨は6体、女性骨は3体である。各人骨の性別、年齢は表1のとおりである。

各人骨の残存状態は図2に示すとおりである。

*Takayuki MATSUSHITA, Shoji NAKATANI

Department of Anatomy, Faculty of Medicine, Nagasaki University

〔長崎大学医学部解剖学第二教室（主任：内藤芳篤教授）〕

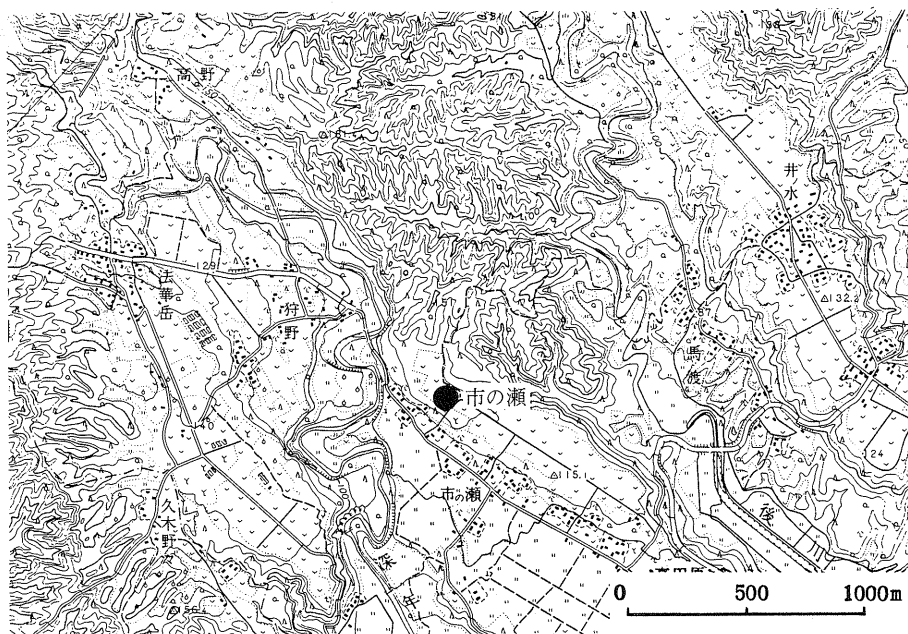
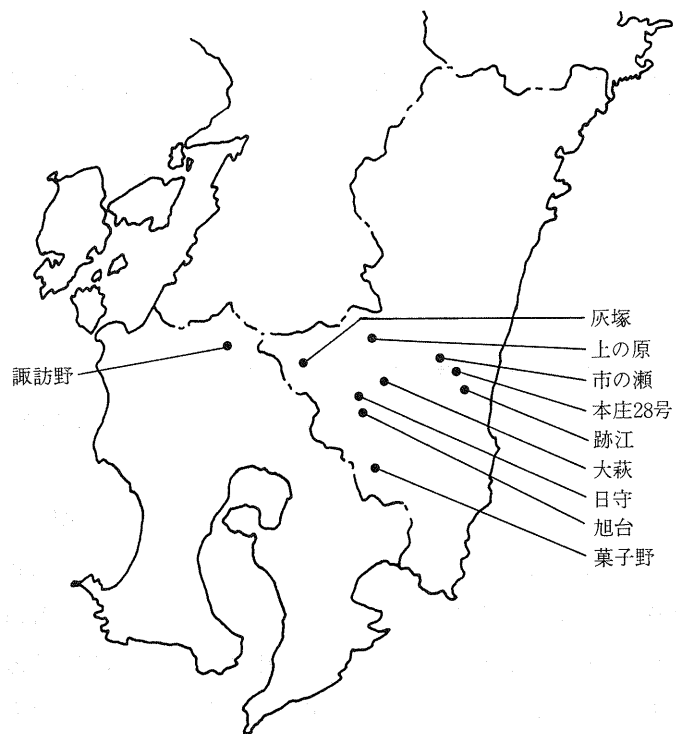
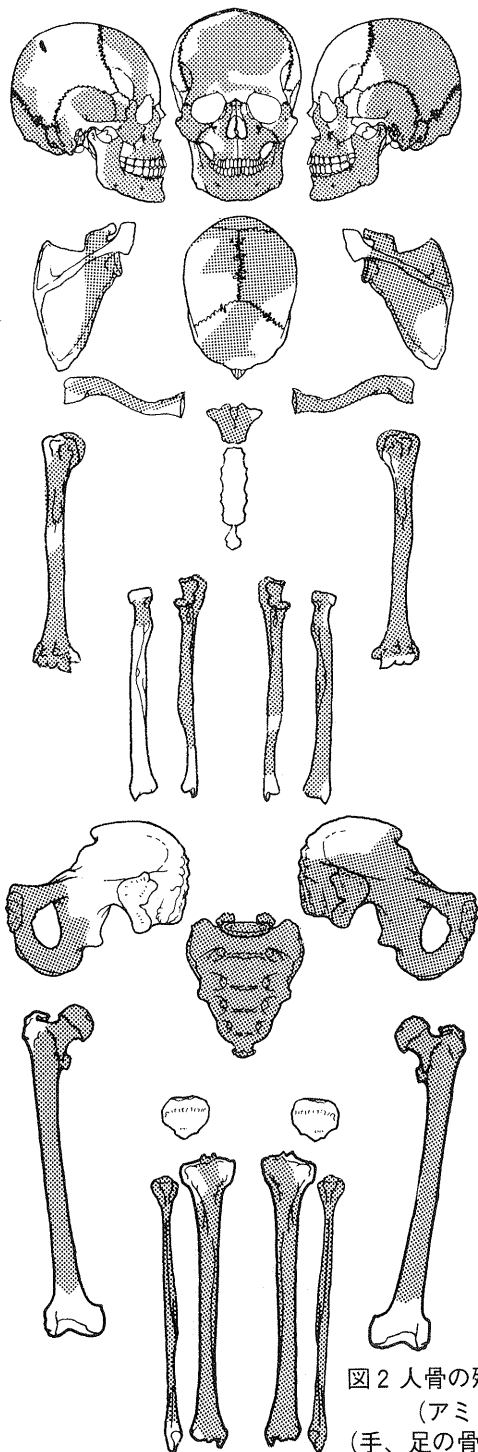


図1 遺跡の位置

5-1 男性



5-2 女性

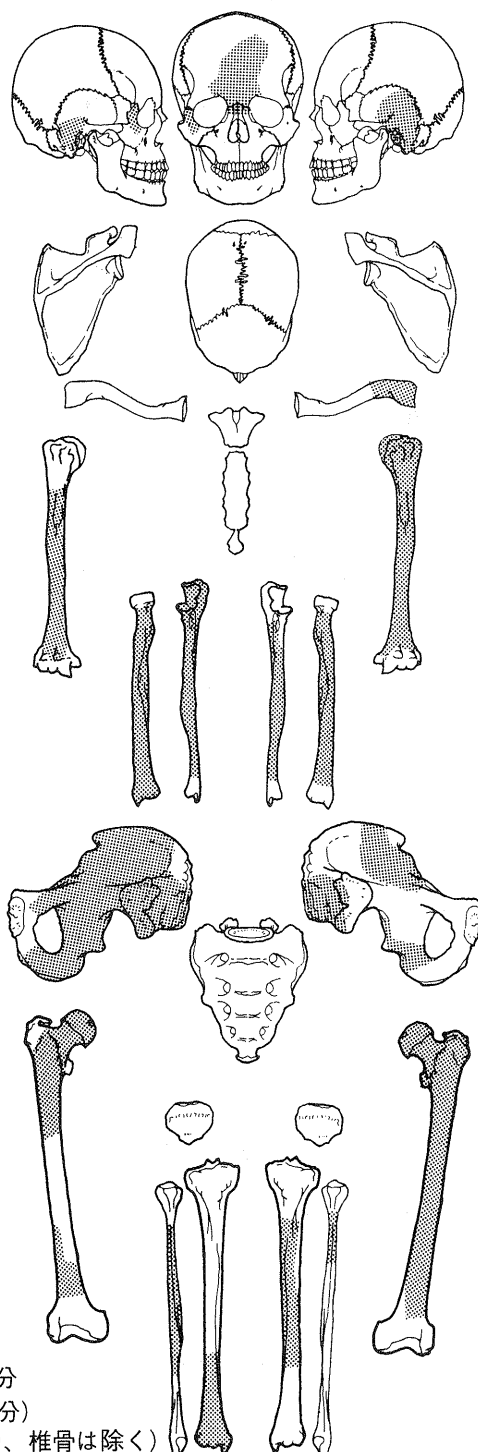
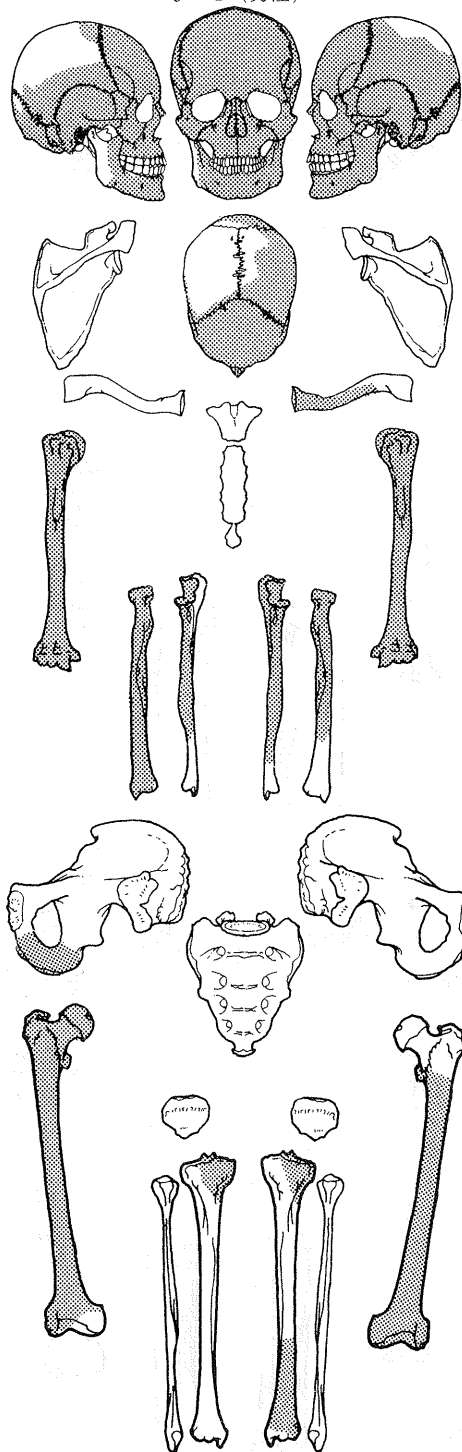
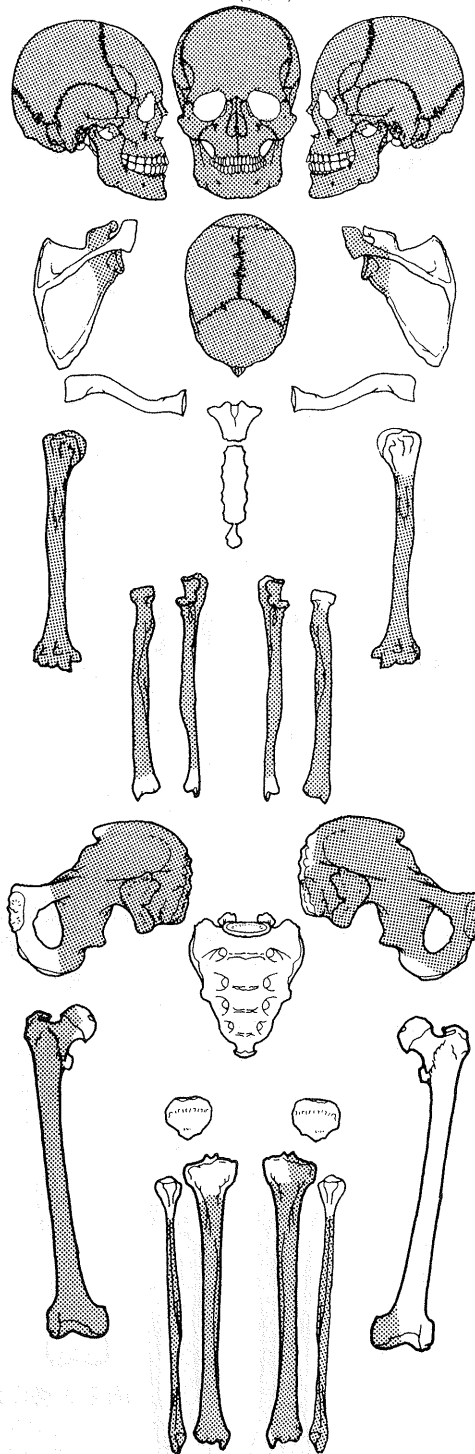


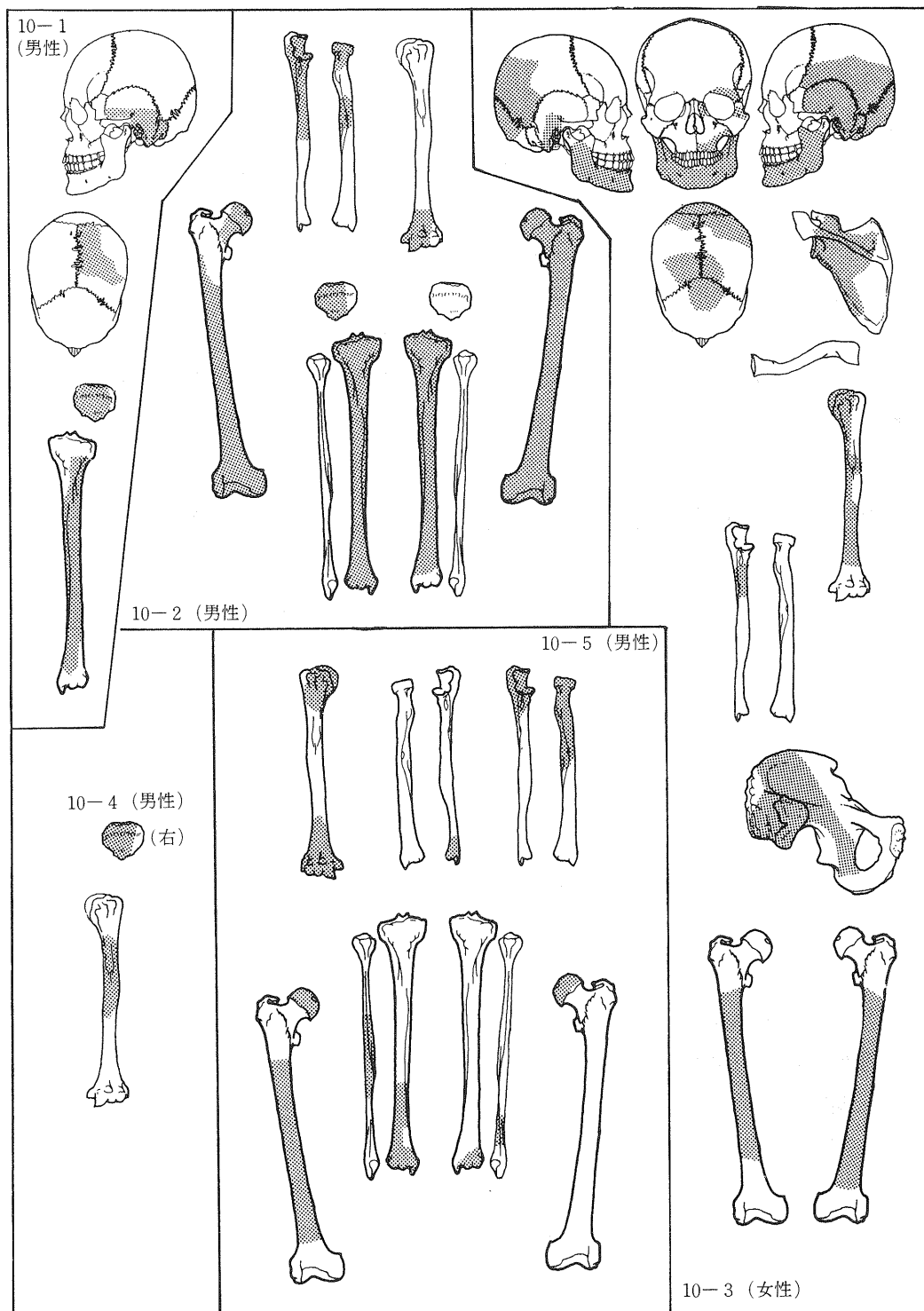
図2 人骨の残存部分
(アミかけ部分)
(手、足の骨、肋骨、椎骨は除く)

9-1 (男性)



9-2 (女性)





また、別稿で述べられているとおり、考古学的所見より、5号墳は5世紀の後半～末に、9号墳と10号墳は6世紀の後半に築造されたものと考えられていることから、本人骨は古墳時代後期に属する人骨群である。

計測方法は、Martin-Saller (1957) によったが、一部はHowells (1973) の方法で計測した。また脛骨の横径はオリビエの方法で計測し、鼻根部については鈴木 (1963) と松下 (1983) の方法で、また、歯の計測は藤田 (1943) の方法で計測した。

なお、今回比較に用いたのは、同じ宮崎県の灰塚 (内藤、1973)、日守 (松下、1981)、上原 (松下、1981)、本庄28号 (松下・他、1982)、旭台 (松下・他、1983)、菓子野 (松下・他、1983)、大萩 (松下、1984)、跡江 (松下、1984) の各横穴墓から出土した古墳人の他に鹿児島県の諏訪野地下式土壙5号墳 (松下、1984)、山口市の朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の古墳人 (松下、1982、松下・他、1983) を用いた。

表1 出土人骨一覧

遺構番号	人骨番号	性別	年令	備考
5号墳	1号人骨	男性	熟年	顔面朱
	2号人骨	女性	壮年	
9号墳	1号人骨	男性	熟年	
	2号人骨	女性	壮年	
	3号人骨	—	小児	
	4号人骨	—	小児	
10号墳	1号人骨	男性	壮年	
	2号人骨	男性	不明	
	3号人骨	女性	壮年	
	4号人骨	男性	壮年	
	5号人骨	男性	壮年	

表2 資料数

成人 男性	人 女性	小児	合計
6	3	2	11

所 見

各人骨の残存部は図2に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

5号墳1号人骨 (男性、熟年)

1. 頭蓋

頭蓋冠の残存状態は比較的良好であるが、顔面骨は断片的で、顔面頭蓋の復元はできない。外後頭隆起の発達著しく良好である。左側の外耳道が観察できたが、後壁に弱い骨腫が認められる。三主縫合はすべて内板が癒合しているが、矢状縫合の大部分とラムダ縫合の外板はまだ開離している。

計測ができたところはわずかで、バジオン・プレグマ高は141mmで、頭の高さは高い。観察したところでは、頭型はやや長頭に傾いており、また、諸径は大きいようである。

顔面頭蓋の計測はできないが、頬骨は強く張り出しており、顔面の幅径は広そうである。

また、上顎骨前頭突起の向きは前額方向である。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと次のとおりである。

M ₃ M ₂ M ₁ ○ ○ C I ₂ I ₁	I ₁ I ₂ C ○ P ₂ M ₁ M ₂ ●	〔○：歯槽開存〕 〔●：歯槽閉鎖〕
M ₃ M ₂ M ₁ P ₂ P ₁ C I ₂ I ₁	I ₁ I ₂ C P ₁ P ₂ M ₁ M ₂ M ₃	

咬耗度は Broca の 1 ～ 2 度である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。

3. 四肢骨

①上腕骨

長さはやや長く、三角筋粗面の発達はきわめて良好である。

計測値は、中央最大径が24mm（左）、中央最小径は17mm（左）で、骨体中央断面示数は70.83（左）となり、骨体は扁平である。中央周は67mm（左）、骨体最小周は62mm（右）、61mm（左）で、骨体はそれほど太くはない。

②大腿骨

骨体の大きさはそれほど大きいものではないが、粗線の発達は良好で、また、骨体の両側面は後方へ突出し、いわゆる柱状を呈している。

計測値は、骨体中央矢状径が29mm（右、左）、横径は26mm（右、左）で、骨体中央断面示数は111.54（右、左）となり、この示数値は古墳人としては大きい値である。骨体中央周は86mm（右）、88mm（左）である。また、上骨体断面示数は72.73（右）、75.00（左）となり、骨体上部は扁平である。

③脛骨

長さは長く、骨体は扁平である。前縁は鋭く、ヒラメ筋線の発達も良好である。骨体の断面形は両側ともヘリチカのⅣ型を呈している。

計測値は、脛骨最大長が357mm（右）、骨体周は83mm（左）、最小周は72mm（右、左）で、長厚示数は20.75（右）である。中央最大径は31mm（右）、32mm（左）、中央横径は20mm（右、左）で、中央断面示数は64.25（右）、62.50mm（左）となり、骨体は扁平である。

④腓骨

骨体は大きく、扁平である。

4. 特殊所見—骨折

左側鎖骨に骨折の跡が認められ、中部中央部が著しく変形している。

5. 推定身長値

右側脛骨最大長から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ163.49cm (Pearson)、162.18cm (藤井) となり、高身長である。

6. 性別・年齢

性別は、大坐骨切痕の角度や恥骨下角が小さいことから、男性と推定した。年齢は三主縫合の内板が癒合していることから熟年と考えられる。

5号墳2号人骨（女性、壮年）

1. 頭蓋

左右の側頭骨、前頭骨の大片などが残存していたにすぎない。眉上弓の隆起はきわめて弱く、乳様突起も小さい。左側の外耳道が観察可能であるが、骨腫は認められない。三主縫合のうち冠状縫合の一部が観察できたが、この部分は内外両板とも開離している。

2. 歯

遊離歯が残存しており、これを歯式で示すと次のとおりである。

M ₃ M ₂ / P ₂ / / / I ₁	I ₁ / C / P ₂ M ₁ M ₂ M ₃	〔 / : 不明(破損) 〕
M ₃ M ₂ / / / / /	/ / / / / M ₁ / M ₃	

咬耗度は Broca の1度である。なお、上顎左側第二大臼歯には臼旁結節が認められる。

3. 四肢骨

①上腕骨

骨体は細く、三角筋粗面の発達もそれほど良くない。左側近位部には骨端線が認められる。

計測値は、中央最大径が19mm (右)、中央最小径は15mm (右)、14mm (左) で、骨体中央断面示数は78.95 (右) となり、骨体の扁平性は弱い。中央周は57mm (右)、骨体最小周は54mm (右)、52mm (左) である。

②大腿骨

骨体は細く、粗線の発達も良くないが、骨体上部は扁平である。

計測値は、骨体中央矢状径が25mm (左)、横径は23mm (左) で、骨体中央断面示数は108.70 (左) となり、粗線や骨体両側面の後方への発達はきわめて悪い。骨体中央周は76mm (左) で骨体は細い。また、上骨体断面示数は75.00 (右)、70.00 (左) となり、骨体上部は扁平である。

③脛骨

保存状態が悪く、計測はほとんどできず、詳細は不明である。

4. 性別・年齢

性別は、眉上弓の隆起が弱く、大坐骨切痕の角度が大きいことから、女性と推定した。年齢は左側上腕骨近位部と右側橈骨遠位部に骨端線が認められることや冠状縫合が内外両板とも開離していることから壮年と考えられる。

9号墳1号人骨（男性、熟年）

1. 頭蓋

(1)脳頭蓋

頭頂部の大部分が欠損している。外部頭隆起の発達は良好で、乳様突起も大きい。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は両側とも認められない。三主縫合のうち冠状縫合とラムダ縫合が観察できたが、両縫合とも内板は癒合しており、外板は開離している。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が178mm、頭蓋最大幅は143mm、バジオン・ブレグマ高は138mmである。頭蓋長幅示数は80.34、頭蓋長高示数は77.53、頭蓋幅高示数は96.50となり、頭型はbrach-, hypsi-, metriokran（短、高、中頭）に属している。また頭蓋水平周は517mm、横弧長は319mmである。

(2)顔面頭蓋

顔面頭蓋はほぼ完全である。眉上弓の隆起は強く、鼻骨は狭い。

顔面頭蓋の計測値は、顔長が83mm、頬骨弓幅は138mm、中顔幅は98mm、顔高は123mm、上顔高は66mmで、顔示数は89.13（K）、125.51（V）、上顔示数は47.83（K）、67.35（V）となり、顔面には狭・高顔傾向が認められる。

眼窩幅は39mm（右）、40mm（左）、眼窩高は31mm（右、左）で眼窩示数は79.49（右）、77.50（左）となり、両側とも mesokonch（中眼窩）に属している。

鼻幅は24mm、鼻高は48mmで、鼻示数は50.00となり、mesorohin（低鼻）に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が17mm、鼻根横弧長は19mm、鼻根彎曲示数は89.47となり、鼻根部はやや扁平である。両眼窩幅は93mmで、眼窩間示数は18.28mmとなり、鼻根部は狭い。鼻骨最小幅は8mm、前頭突起上幅は10mm（右）、12mm（左）である。前頭突起水平傾斜角は101度で、鼻根角は118度、前頭突起の向きは前額方向である。

側面角は、全側面角が89度、鼻側面角が96度、齒槽側面角は70度で、弱い齒槽性突顎の傾向が認められる。

下顎骨は大きく、下顎角は外側に張り出している。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと次のとおりである。

/ M ₂ M ₁ P ₂ P ₁ C I ₂ I ₁	I ₁ I ₂ C P ₁ P ₂ ● ● M ₃	〔 / : 不明(破損) ● : 歯槽閉鎖 〕
● ● ● P ₂ P ₁ C I ₂ I ₁	I ₁ I ₂ C P ₁ P ₂ M ₁ ● ●	

咬耗度は Broca の 2 度である。なお、上顎両側切歯は退化傾向を示し、円錐歯となっている。また風習的抜歯の痕跡は認められない。

歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

3. 四肢骨

①上腕骨

長さはそれほど長いものではないが、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、最大長が292mm (右)、291mm (左)、骨体最小周は61mm (右)、60mm (左)、中央周は66mm (右)、65mm (左) で、長厚示数は20.89 (右)、20.62 (左) である。また、中央最大径は22mm (右、左)、中央最小径は16mm (右、左) で、骨体中央断面示数は72.73 (右、左) となり、骨体は扁平である。

②大腿骨

骨体は細く、粗線の発達は良好で、骨体上部はやや扁平である。

計測値は、骨体中央矢状径が27mm (右)、28mm (左)、横径は25mm (右)、23mm (左) で、骨体中央断面示数は108.00 (右)、121.74 (左) である。骨体中央周は82mm (右、左) で、骨体は男性としてはやや細い。また、上骨体断面示数は76.67 (右)、73.33 (左) となり、骨体上部は扁平である。

4. 推定身長値

右側上腕骨と右側橈骨から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ155.15cm (Pearson)、154.71cm (藤井)、158.21 (Pearson)、155.68 (藤井) となり、低身長である。

5. 性別・年齢

性別は、眉上弓が強く隆起し、大坐骨切痕の角度や恥骨下角が小さいことから、男性と推定した。年齢は冠状縫合とラムダ縫合の内板がともに癒合していることから熟年と考えられる。

9号墳2号人骨（女性・壮年）

1. 頭蓋

(1)脳頭蓋

完全である。外後頭隆起の発達が悪く、乳様突起も小さい。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は両側とも認められない。三主縫合はすべて内外両板とも開離している。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が166mm、頭蓋最大幅は142mm、バジオン・プレグマ高は130mmである。頭蓋長幅示数は85.54、頭蓋長高示数は78.31、頭蓋幅高示数は91.55となり、頭型は hyperbrach-, hypsi-, tapeinokran (過短、高、平頭) に属している。また頭蓋水平周は485mm、横弧長は300mm、正中矢状弧長は344mmである。

(2)顔面頭蓋

顔面頭蓋も完全である。眉上弓の隆起は弱い。鼻骨の隆起は弱く、鼻根部は扁平である。鼻骨は広いが、鼻根部は狭い。頬骨の外側への張り出しは強い。

顔面頭蓋の計測値は、顔長が91mm、頬骨弓幅は136mm、中顔幅は100mm、顔高は110mm、上顔高は65mmで、顔示数は80.88 (K)、110.00 (V)、上顔示数は47.79 (K)、65.00 (V) となり、顔面には著しい低・広顔傾向が認められる。

眼窩幅は42mm (右、左)、眼窩高は34mm (右、左) で、眼窩示数は80.95 (右、左) となり、両側とも mesokonch (中眼窩) に属している。

鼻幅は28mm、鼻高は49mmで、鼻示数は57.14となり、chamaerrhin (低鼻) に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が16mm、鼻根横弧長は18mm、鼻根彎曲示数は88.89となり、鼻根部は扁平である。両眼窩幅は95mmで、眼窩間示数は16.84となり、鼻根部は狭い。鼻骨最小幅は8mm、前頭突起上幅は9mm (右)、8mm (左) である。前頭突起水平傾斜角は96度で、鼻根角は152度、鼻根陷凹示数は9.38である。

側面角は、全側面角が85度、鼻側面角が91度、歯槽側面角は68度で、歯槽性の突顎の傾向が認められる。

下顎骨はほぼ完全である。諸径は小さく、下顎角は外側に張っている。下顎体や下顎枝の高径は低く、下顎切痕は著しく浅い。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと次のとおりである。

M ₂ M ₁ P ₂ ○ C I ₂ I ₁	I ₁ I ₂ C P ₁ ● M ₁ M ₂	〔○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖〕
M ₃ ● ● ○ P ₁ C I ₂ I ₁	I ₁ I ₂ C P ₁ P ₂ M ₁ ● M ₃	

咬耗度は Broca の 1 ～ 2 度である。上顎第三大臼歯は両側とも未萌出である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。

歯の咬合形式は缺状咬合である。

3. 四肢骨

①上腕骨

長さは短く、骨体も細い。特に左側は右側に比較してひとまわり小さい。

計測値は、最大長が251mm (右)、骨体最小周は51mm (右)、45mm (左)、中央周は51mm (右)、45mm (左) で、長厚示数は20.32 (右) である。また、中央最大径は16mm (右)、15mm (左)、中央最小径は14mm (右)、12mm (左) で、骨体中央断面示数は87.50 (右)、80.00 (左) となり、骨体には扁平性は認められない。

②大腿骨

長さは短く、粗線の発達も悪い。

計測値は、最大長が353mm (右)、骨体中央周は73mm (右) で、長厚示数は21.04 (右) である。

骨体中央矢状径は22mm (右)、横径は24mm (右) で、骨体中央断面示数は91.67 (右) となり、粗線や骨体両面の後方への発達はきわめて悪い。

③脛骨

長さは短く、骨体も細い。前縁はS字状のカーブを描いており、ヒラメ筋線の発達も悪い。骨体の断面形は両側ともヘリチカのⅡ型を呈している。また、右側脛骨と右側腓骨の遠位部には変形治癒骨折と考えられる痕跡が認められる。

計測値は、中央最大径は25mm (右、左)、中央横径は18mm (右)、17mm (左) で、中央断面示数は72.00 (右)、68.00mm (左) となり、左側骨体はやや扁平である。骨体周は68mm (右)、66mm (左)、最小周は60mm (左) で、骨体は細い。

4. 特殊所見

左側橈骨にはいわゆる橈骨遠位端骨折 (Colles 骨折) の跡が認められる。なお、尺骨と橈骨は左右で大きさの違いは認められないが、上腕骨は左側が右側よりも細く、小さい。また、右側脛骨と右側腓骨の骨体遠位部にも骨折と考えられる痕跡が認められる。

5. 推定身長値

右側大腿骨と右側上腕骨から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ141.50cm (Pearson)、140.12cm (藤井)、140.60cm (Pearson)、141.04cm (藤井)

となり、いずれも低身長である。

6. 性別・年齢

性別は眉上弓の隆起が弱く、大坐骨切痕の角度や恥骨下角が大きいことから、女性と推定した。年齢は三主縫合の内外両板がともに開離していることから壮年と考えられる。

10号墳1号人骨（男性、壮年）

1. 頭蓋

残存量が少なく、計測はできない。左側外耳道が観察できたが、後壁にごく弱い骨腫が認められる。また、頬骨弓の付け根の上部の左側側頭鱗は著しく凹んでいる。縫合は矢状縫合とラムダ縫合の左側部が観察できるが、おそらくこの部分は内外両板ともまだ開離していたものと考えられる。

2. 歯

遊離歯が4本残存していた。歯式で示すと、次のとおりである。

/ / / / / / / / I ₁	/ / / / / / / /	〔 / : 不明 〕
/ / / / / / / /	I ₁ / / P ₁ / M ₁ / /	

咬耗度は Broca の2度である。

3. 四肢骨

①脛骨

大きくて頑丈で、ヒラメ筋線の発達も良好である。左側骨体の断面形はヘリチカのⅡ型を呈している。

計測値は、中央最大径が36mm（左）、中央横径は23mm（左）で、中央断面示数は63.89（左）となり、左側骨体は扁平である。骨体周は93mm（左）で、骨体は太い。

4. 性別・年齢

性別は、脛骨の径が大きいこととその形態的特徴から、男性と推定した。年齢は観察できた縫合の部分がまだ内外両板がともに開離していることから壮年と考えられる。

10号墳2号人骨（男性、年齢不明）

上半身の残存状態は悪いが、下肢骨の保存状態はおおむね良好である。

1. 四肢骨

①大腿骨

長く、大きく、頑丈である。粗線の発達は良好であるが、骨体両側面の後方への発達はそれほど良くない。

計測値は、最大長が449mm（左）、骨体中央周は89mm（右）、93mm（左）で、長厚示数は20.90（左）である。骨体中央矢状径は29mm（右）、30mm（左）、横径は27mm（右）、28mm（左）で、骨体中央断面示数は107.41（右）、107.14（左）となり、粗線や骨体両面の後方への発達それほど良好なものではない。

②脛骨

長さは長く、骨体も太い。ヒラメ筋線の発達も比較的良好な方である。骨体の断面形は右側はヘリチカのⅣ型、左側はⅤ型を呈している。

計測値は、最大長が371mm（右）、中央最大径は34mm（右）、中央横径は24mm（右）で、中央断面示数は70.59（右）となる。

2. 推定身長値

左側大腿骨と右側脛骨から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ165.72cm（Pearson）、165.81cm（藤井）、166.81cm（Pearson）、165.64cm（藤井）となり、いずれも高身長である。

3. 性別・年齢

性別は、大腿骨、脛骨などの四肢骨の径が大きいこととその形態的特徴から、男性と推定した。年齢は不明である。

10号墳3号人骨（女性、壮年）

1. 頭蓋

後頭部や下顎骨が残存しているだけで、計測はほとんどできない。外後頭隆起の発達は悪く、乳様突起も小さい。左側の外耳道が観察できたが、骨腫は存在しない。三主縫合はすべて内外両板とも開離している。

下顎骨は、下顎体や下顎枝の高径が低く、下顎切痕も浅い。

2. 歯

残存している歯を歯式で示すと、次のとおりである。

/ / / / / / / /	/ / / / P ₂ M ₁ M ₂ M ₃	〔○：歯槽開存〕 〔●：歯槽閉鎖〕
M ₃ M ₂ M ₁ P ₂ P ₁ / / /	I ₁ I ₂ C P ₁ P ₂ M ₁ ● M ₃	

咬耗度は Broca の 1 ～ 2 度である。

3. 四肢骨

①大腿骨

骨体の径はそれほど大きくはないが、両側面が後方へ著しく後方へ突出しているため、矢

状径の方が横径よりも大きく、いわゆる柱状を呈している。

計測値は、骨体中央矢状径が28mm（左）、横径は23mm（左）で、骨体中央断面示数は121.74（左）となり、骨体両面の後方への発達が著しいことがわかる。骨体中央周は80mm（左）である。また、上骨体断面示数は75.00（右）で骨体上部は扁平である。

4. 性別・年齢

性別は、寛骨の大坐骨切痕の角度や恥骨下角が大きいことから、女性と推定した。年齢は縫合が内外両板とも開離していることから、壮年と考えられる。

10号墳4号人骨（男性、壮年）

頭蓋片、歯、左側上腕骨、右側膝蓋骨、左右不明の大腿骨骨体が残存していたにすぎない。遊離歯を歯式で示すと、次のとおりである。

M ₃ M ₂ / P ₂ / / / /	/ / / / / / M ₂ M ₃	〔 / : 不明 〕
/ M ₂ / / P ₁ / / /	/ / / / / / M ₂ M ₃	

咬耗度は Broca の1度である。なお、上顎左側第二大臼歯には2個の臼旁結節が認められる。

性別は、上腕骨骨体が大きいことから、男性と推定した。年齢は歯の咬耗が著しく弱いことから壮年とした。

10号墳5号人骨（男性、壮年）

1. 歯

遊離歯が6本残存していた。歯式で示せば、次のとおりである。

/ M ₂ / P ₂ / / / /	/ / / / P ₂ / / M ₃	〔 / : 不明 〕
M ₃ M ₂ M ₁ / P ₁ / / /	/ / / / / / / /	

咬耗度は Broca の1度である。

2. 四肢骨

四肢骨の径は大きい。

①大腿骨

骨体は太く、頑丈である。粗線の発達も比較的良好である。

計測値は、骨体中央矢状径が32mm（右）、横径は29mm（右）で、骨体中央断面示数は110.34（右）で、骨体両面の後方への発達が著しい。

3. 性別・年齢

性別は、四肢骨の径が大きいことから、男性と推定した。年齢は歯の咬耗が弱いことから

推定すれば、壮年の可能性が強い。

考 察

頭蓋と四肢骨のうち大腿骨、脛骨および推定身長に関して若干検討しておきたい。

1. 男性

表3は男性の脳頭蓋に関する比較表である。まず、頭型であるが、以前から指摘しているように、宮崎市周辺地域は強い短頭型を示し（跡江古墳人）、次第に県境に近づくにつれて、その程度は弱くなり（大萩古墳人）、県境（菓子野古墳人）や鹿児島県に入ると（諏訪野古墳人）長頭型になる傾向が今のところ認められる。程度は弱い、本例も跡江古墳人同様短頭型である。また、バジオン・ブレグマ高も宮崎市周辺地域が山間部の古墳人よりも一般的に高いが、本例のバジオン・ブレグマ高も高い。

次に、顔面頭蓋であるが（表4）、頬骨弓幅や中顔幅などの顔の幅径は狭く、顔高は高い。上顔高はそれほど高くはないが、この計測値は跡江、本庄28号古墳人よりも小さく、諏訪野、日守、上の原古墳人の値に近い。従って、顔示数は著しく大きな値になるが、上顔示数はそれ程大きな値を示さない。しかし、それでもウィルヒョウーの上顔示数は山間部の古墳人よりは大きな値を示している。

すなわち、男性の頭蓋は、短頭で、頭の高さも高く、狭顔で、高顔傾向を示すが、上顔高は低いものである。

幅径が狭い傾向は眼窩にも認められ、眼窩幅はいずれの比較資料よりも狭いが、高径もあり高いものではない。しかし、幅径がより狭いので、眼窩示数は大きな値となり、この示数値は菓子野古墳人、大萩古墳人の値と大差ない。また、鼻幅も狭く、鼻高はそれ程低くないので、鼻示数はやや小さく、山間部の古墳人よりは小さい。歯槽側面角はやや小さく、比較的、日守古墳人の値に近く、弱い歯槽性突顎傾向が認められる。鼻根部については、表5のように、鼻根部（前眼窩間幅）は狭く、鼻骨の鼻骨間縫合に向かう隆起は弱く、鼻根彎曲示数は本庄28号古墳人の値に一致する。また、前頭突起の向きは前額方向を向いており、前頭突起水平傾斜角は宮崎県の古墳人としてはかなり大きい。

次に、大腿骨であるが、表6のとおり、本例の長さはかなり長く、骨体の太さもやや太い方である。粗線や骨体両側面の後方への発達も比較的良好で、骨体中央断面示数は大きい。また、骨体上部は扁平であるが、表6の資料の中では、本例と大萩古墳人が扁平であるにす

ぎない。すなわち、本大腿骨は長さが長く、骨体も大きく、柱状性も認められ、かつ骨体上部は扁平な大腿骨である。

表 3 脳頭蓋計測値 (男性、mm)

	市の瀬		菓子野		諏訪野		日 守		大 萩		旭 台		跡 江		朝 田	
	古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 頭蓋最大長	1	178	3	182.33	—	—	1	185	5	183.20	—	—	1	(170)	4	183.00
8. 頭蓋最大幅	1	143	3	136.33	—	—	—	—	5	144.80	3	143.33	1	150	2	143.00
17. バジオン・ブレグマ高	2	139.50	3	135.67	1	137	1	146	6	134.50	3	136.00	1	140	2	130.00
8/1 頭蓋長幅示数	1	80.34	3	74.79	—	—	—	—	1	80.56	—	—	1	(88.24)	2	76.71
17/1 頭蓋長高示数	1	77.53	3	74.43	—	—	1	78.92	4	72.55	—	—	1	(82.35)	2	73.93
17/8 頭蓋幅高示数	1	96.50	3	99.51	—	—	—	—	3	95.82	1	89.93	1	93.33	1	92.25
頭蓋モズルス	1	153.00	3	151.45	—	—	—	—	1	153.67	—	—	1	(153.33)	1	151.67
23. 頭蓋水平周	1	517	3	151.00	—	—	—	—	1	523	—	—	1	(515)	1	525
24. 横 弧 長	1	319	2	303.00	—	—	—	—	2	310.50	2	312.00	1	326	1	306
25. 正中矢状弧長	—	—	2	375.00	—	—	1	380	2	368.50	—	—	—	—	2	359.00

表 4 顔面頭蓋計測値 (男性、mm、度)

	市の瀬		菓子野		諏訪野		日 守		大 萩		旭 台		灰 塚		上の原		跡 江		本庄28号	
	古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
40. 顔 長	1	83	2	96.00	1	99	—	—	6	101.33	3	100.00	1	105	—	—	1	101	—	—
41. 側顔長	1	71	3	68.67	1	69	1	69	6	74.50	4	72.25	1	70	1	78	—	—	1	71
42. 下顔長	1	102	2	102.50	1	100	—	—	6	111.17	3	116.67	1	110	—	—	1	105	—	—
43. 上顔幅	1	103	3	107.33	—	—	1	105	6	106.33	4	109.00	—	—	1	114	—	—	—	—
45. 頬骨弓幅	1	138	1	140	—	—	—	—	3	141.00	2	135.50	—	—	1	146	—	—	—	—
46. 中顔幅	1	98	3	102.67	—	—	—	—	4	102.25	4	99.00	1	102	1	104	—	—	—	—
47. 顔 高	1	123	2	115.50	1	116	—	—	6	114.67	3	111.67	1	112	1	112	1	118	—	—
48. 上顔高	1	66	2	64.00	1	66	1	66	8	64.38	5	65.00	1	61	2	65.50	1	71	1	71
47/45 顔示数(K)	1	89.13	1	84.29	—	—	—	—	3	78.99	1	82.31	—	—	—	—	—	—	—	—
48/45 上顔示数(K)	1	47.83	1	45.71	—	—	—	—	3	43.97	1	48.46	—	—	1	46.58	—	—	—	—
47/46 顔示数(V)	1	125.51	2	113.32	—	—	—	—	4	113.73	2	113.10	1	109.80	—	—	—	—	—	—
48/46 上顔示数(V)	1	67.35	2	62.85	—	—	—	—	4	63.39	2	64.84	1	59.88	1	65.38	—	—	—	—
顔面モズルス	1	114.67	1	117.00	—	—	—	—	2	115.34	1	110.67	—	—	—	—	—	—	—	—
51. 眼窩幅(左)	1	40	3	42.67	1	43	1	6	6	42.33	3	43.67	1	43	1	44	—	—	1	44
52. 眼窩高(左)	1	31	3	33.00	1	33	1	34	9	32.56	6	32.67	1	32	1	35	—	—	1	35
52/51 眼窩示数(左)	1	77.50	3	77.35	1	76.74	1	73.91	6	77.63	3	75.62	1	74.42	1	79.55	—	—	1	79.55
54. 鼻 幅	1	24	3	27.00	1	26	1	31	9	26.78	7	28.71	1	27	2	27.50	1	27	1	25
55. 鼻 高	1	48	3	48.33	1	50	1	55	9	50.89	6	48.50	1	42	2	52.00	1	58	1	53
54/55 鼻示数	1	50.00	3	55.84	1	52.00	1	56.36	8	53.05	6	59.16	1	62.29	2	52.89	1	46.55	1	47.17
72. 全側面角	1	89	2	82.00	1	81	1	88	8	84.63	3	76.67	1	84.5	1	(86)	1	(82)	1	(78)
73. 鼻側面角	1	96	3	85.67	1	82	1	92	9	88.44	3	78.00	1	93.5	1	85	1	86	1	(83)
74. 齒槽側面角	1	70	2	71.50	1	73	1	69	9	71.22	3	73.67	1	64	—	—	1	(58)	1	(64)

表5 鼻根部計測値 (男性、mm、度)

	市の瀬		葉子野		諏訪野		日守		大萩		旭台		灰塚		上の原		跡江		本庄28号	
	古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人	
	(松下・他)		(松下・他)		(松下)		(松下)		(松下・他)		(松下・他)		(内藤)		(松下)		(松下)		(松下・他)	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
50. 前眼窩間幅	1	17	3	18.67	1	16	2	19.00	8	18.88	3	20.00	1	22	2	18.00	1	20	1	17
鼻根横弧長	1	19	3	22.67	1	18	2	22.50	8	22.38	2	26.00	1	24	2	22.00	1	23	1	19
鼻根彎曲示数	1	89.47	3	82.35	1	88.89	2	84.23	8	84.33	2	82.74	1	94.67	2	82.91	1	86.96	1	89.47
57. 鼻骨最小幅	1	8	3	9.00	1	9	2	11.00	8	9.63	3	9.33	—	2	9.50	1	8	1	8	—
44. 两眼窩間幅	1	93	3	99.67	—	—	—	3	100.33	2	96.50	1	97	—	—	—	—	—	—	—
50/44 眼窩間示数	1	18.28	3	18.73	—	—	—	3	19.60	2	20.29	1	22.68	—	—	—	—	—	—	—
前頭突起上幅(右)	1	10	3	9.33	1	10	2	10.50	6	11.00	2	9.50	1	12	2	9.00	1	11	1	9
(左)	1	12	3	8.67	1	10	1	10	8	10.38	4	10.25	1	11	2	9.50	1	10	1	8
前頭突起水平傾斜角	1	101	2	83.50	—	—	—	6	88.17	2	89.50	—	1	77	1	70	—	—	—	—
G-N投影距離	1	3	2	3.00	—	—	—	6	2.17	4	1.75	—	1	2	1	2	—	—	—	—
鼻根角	—	3	134.00	1	132	1	135	8	136.50	2	160.00	—	1	132	1	145	—	—	—	—
G-R距離	—	3	26.67	1	28	1	31	8	28.75	2	25.50	—	1	32	1	17	1	1	28	—
垂線高	—	3	5.00	1	6	1	6	8	5.38	2	5.00	—	1	6	1	3	1	5	—	—
鼻根陥凹示数	—	3	18.65	1	21.43	1	19.35	8	18.95	2	19.62	—	1	18.75	1	17.65	1	17.86	—	—

表6 大腿骨計測値 (男性、右、mm)

	市の瀬		葉子野		諏訪野		日 守		大 萩		旭 台		灰 塚		上の原		跡 江		朝 田	
	古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古 墳 人	
	(松下・他)		(松下・他)		(松下)		(松下)		(松下・他)		(松下・他)		(内藤)		(松下)		(松下)		(松下・他他)	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 最 大 長	1	449(左)	1	383	1	411	1	420	2	410.00	—	—	—	—	—	—	2	410.00	—	—
2. 自然位全長	1	445(左)	—	—	—	—	1	414	2	407.50	—	—	—	—	—	—	—	—	4	402.50
6. 骨体中央矢状径	4	29.25	2	27.00	1	25	1	29	6	27.67	4	28.25	1	27	2	26.50	1	29	6	27.17(左)
7. 骨体中央横径	4	26.75	2	26.00	1	23	1	26	6	25.33	4	27.00	1	25	2	24.50	1	25	6	26.67(左)
8. 骨体中央周	3	85.67	2	85.00	1	78	1	88	6	83.33	4	87.75	1	84	2	80.50	1	86	6	85.17(左)
9. 骨体上横径	2	31.50	2	29.50	1	27	1	31	2	30.50	2	31.00	—	1	28	1	27	6	30.17(左)	
10. 骨体上矢状径	2	23.50	2	23.50	1	22	1	25	2	22.50	2	25.00	—	1	23	1	25	6	24.50(左)	
8/2 長厚示数	1	20.90(左)	—	—	—	—	1	21.26	2	20.63	—	—	—	—	—	—	—	2	21.03	—
6/7 骨体中央断面示数	4	109.32	2	105.06	1	108.70	1	111.54	6	109.40	4	104.88	1	108.00	2	108.17	1	116.00	6	102.03(左)
10/9 上骨体断面示数	2	74.70	2	81.01	1	81.48	1	80.65	2	73.76	2	80.84	—	1	82.14	1	92.59	6	81.29(左)	—

次いで、脛骨であるが、表7のとおり、脛骨も長さは長く、骨体は著しく太い。中央断面示数は70.00以下で、骨体はやや扁平である。すなわち、本脛骨は長さが長く、骨体も太く、骨体はやや扁平な脛骨である。

次に、大腿骨からの推定身長値を検討してみたい。表8のとおり、本例は166.81cmを示し、かなりの高身長である。この推定値は土井ヶ浜弥生人の162.81cm (18例)、二塚山弥生人の164.27cm (7例) よりも大きいものである。現在宮崎県古墳人のうち推定身長値が算出できたものはいずれも山間部の古墳人のみで、宮崎市周辺地域の例としては公式には本例が初めてであり、しかも高身長であることは注目値することである。

表7 脛骨計測値 (男性、mm)

		市の瀬		葉子野		諏訪野		大萩		旭台		跡江		朝田	
		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人	
		(松下・他)		(松下)		(松下)		(松下・他)		(松下・他)		(松下)		(松下・他)	
		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1.	脛骨全長	2	356.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1a.	脛骨最大長	2	364.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1b.	脛骨長	1	354	—	—	—	—	1	357	—	—	—	—	—	—
2.	顆距長	1	340	1	298	—	—	1	(340)	—	—	—	—	—	—
8.	中央最大径	2	32.50	2	30.50	1	27	4	29.00	4	30.25	1	29	2	29.50
8a.	栄養孔位最大径	1	35	2	34.00	—	—	3	32.00	3	33.00	1	33	2	34.00
9.	中央横径	2	22.00	2	21.00	1	18	4	20.25	4	22.50	1	21	2	21.50
9a.	栄養孔位横径	1	21	2	21.00	—	—	3	22.23	3	24.00	1	22	2	24.00
10.	骨体周	2	88.00(左)	2	80.50	1	71	4	78.25	4	83.00	1	79	2	80.00
10a.	栄養孔位周	1	94 (左)	2	89.00	—	—	3	87.33	3	92.00	1	87	2	92.00
10b.	最小周	1	72	2	71.00	—	—	3	74.00	2	74.00	1	72	2	75.00
9/8	中央断面示数	2	67.56	2	68.93	1	66.67	4	69.94	4	74.95	1	72.41	2	72.81
9a/8a	栄養孔位断面示数	1	60.00	2	62.00	—	—	3	69.69	3	72.96	1	66.67	2	70.48
10b/1	長厚示数	1	20.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表8 推定身長値 (右大腿骨最大長より、Pearsonの式、cm)

		市の瀬		葉子野		諏訪野		日守		大萩		旭台		朝田	
		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人		古墳人	
		(松下・他)		(松下)		(松下)		(松下)		(松下・他)		(松下・他)		(松下・他)	
		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
男性	1	166.81	1	153.31	1	158.57	1	160.27	2	158.39	—	—	—	2	158.39
女性	1	141.50	1	147.73	—	—	—	—	—	—	1	145.78(左)	—	2	147.92(左)

2. 女性

表9のとおり、女性も短頭傾向が強く、頭型としては過短頭に属している。宮崎県内での女性の特徴は男性ほど明確になってはいないが、傾向としては男性と同様、宮崎市周辺地域はかなり強い短頭を示すと考えてよさそうである。

次に顔面頭蓋であるが(表10)、その幅径は広く、高径は低い。従って、顔示数、上顔示数はともに小さく、この値は宮崎県の他の例とほとんど大差なく、女性は低・広顔傾向が強い。

眼窩は幅径も広く、高径も高い。眼窩示数は大きい、この示数値は宮崎県の古墳人の中での変異が大きいようである。また、鼻幅は広く、鼻高も高い。鼻示数は大きく、この示数値は他の資料と大差ない。歯槽側面角は小さく、歯槽性突顎傾向が認められるが、その程度

は宮崎県の高嶺人の中でも変異があるようである。一方、鼻根部であるが、表11のとおり、鼻根部は狭く、鼻骨の鼻骨間縫合に向かう隆起は弱い。しかも鼻根角も大きく、鼻骨の顔前面への隆起も弱い。また、前頭突起の向きはどちらかといえば前額方向を向いており、前頭突起水平傾斜角は大きく、宮崎県の高嶺人の中では最も大きい角度である。

次に大腿骨であるが、表12のとおり、長さは短く、骨体も小さい。また骨体は矢状径よりも横径の方が大きく、骨体中央断面示数は100.00以下である。なお骨体上部は扁平である。

脛骨は、表13のとおり、長さはやはり短く、骨体はかなり細い。中央断面示数は小さく、高嶺人としてはやや扁平である。

大腿骨からの推定身長値は表8のとおり、本例はかなり低い。いずれの比較資料よりも低く、男性が高いことと対照的である。

表9 脳頭蓋計測値（女性、mm）

	市の瀬 古墳人		大 萩 古墳人 (松下)		日 守 古墳人 (松下・他)		旭 台 古墳人 (松下・他)		菓子野 古墳人 (松下・他)		朝 田 古墳人 (松下・他)	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 頭蓋最大長	1	166	3	173.50	—	—	2	179.50	1	176	6	172.50
8. 頭蓋最大幅	1	142	2	144.00	—	—	1	140	1	135	3	134.67
17. バジオン・プレグマ高	1	130	3	129.33	1	131	2	133.00	1	132	5	131.20
8/1 頭蓋長幅示数	1	85.54	—	—	—	—	—	1	76.70	2	78.04	—
17/1 頭蓋長高示数	1	78.31	2	74.07	—	—	1	72.57	1	75.00	4	75.57
17/8 頭蓋幅高示数	1	91.55	1	89.73	—	—	—	1	99.78	3	97.27	—
5. 頭蓋底長	1	96	3	101.00	1	101	2	96.50	1	98	5	99.00
11. 両 耳 幅	1	127	2	128.00	1	126	2	126.00	1	119	5	121.80
23. 頭蓋水平周	1	485	—	—	—	—	—	1	504	1	508	—
24. 横 弧 長	1	300	1	321	1	300	1	304	1	306	3	301.00
25. 正中矢状弧長	1	344	3	355.50	—	—	1	360	1	367	2	357.00

表10 顔面頭蓋計測値 (女性、mm)

	市の瀬		大 萩		灰 塚		日 守		上の原		旭 台		菓子野		朝 田	
	古墳人		古墳人 (内藤)		古墳人 (松方)		古墳人 (松下)		古墳人 (松下・他)		古墳人 (松下・他)		古墳人 (松下・他)		古墳人 (松下・他)	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
40. 顔 長	1	91	3	100.67	—	—	1	103	—	—	1	95	1	100	4	100.00
41. 側顔長	1	67	3	70.67	—	—	1	72	2	69.00	3	71.67	1	70	7	71.14
42. 下顔長	1	95	2	114.00	—	—	—	—	1	104	2	104.50	1	108	3	107.00
45. 頬骨弓幅	1	136	—	—	—	—	1	134	—	—	—	—	1	129	—	—
46. 中顔幅	1	100	2	97.50	—	—	1	109	1	91	2	101.00	1	96	3	100.00
47. 顔 高	1	110	3	109.33	1	112	1	109	1	106	3	109.67	1	110	5	106.40
48. 上顔高	1	65	4	59.50	1	60	1	64	2	(58.50)	2	62.00	1	61	7	60.57
47/45 顔示数(K)	1	80.88	—	—	—	—	1	81.34	—	—	—	—	1	85.27	—	—
48/45 上顔示数(K)	1	47.79	—	—	—	—	1	47.76	—	—	—	—	1	47.29	—	—
47/46 顔示数(V)	1	110.00	1	105.83	—	—	1	100.00	1	116.48	2	107.44	1	114.58	3	105.91
48/46 上顔示数(V)	1	65.00	1	59.78	—	—	1	58.72	—	—	2	61.39	1	63.54	3	62.50
51. 眼窩幅(左)	1	42	3	41.00	1	37(右)	1	43	1	43	3	40.33	1	42	3	41.33
52. 眼窩高(左)	1	34	3	31.67	1	31(右)	1	32	1	31	2	33.00	1	31	4	33.25
52/51 眼窩示数(左)	1	80.95	3	77.30	1	83.78(右)	1	74.42	1	72.09	2	84.61	1	73.81	3	82.62
54. 鼻 幅	1	28	4	26.00	1	26	1	28	1	26	4	26.75	1	26	7	26.43
55. 鼻 高	1	49	5	47.00	1	45	1	50	2	44.50	2	49.00	1	44	7	46.86
54/55 鼻示数	1	57.14	4	55.57	1	55.32	1	56.00	1	57.78	2	55.47	1	59.09	7	56.32
72. 全側面角	1	85	4	84.25	1	80.5	1	83	—	—	2	80.00	1	83	6	78.67
73. 鼻側面角	1	91	3	89.00	1	91.5	1	85	1	88	3	85.67	1	87	6	84.00
74. 齒槽側面角	1	68	3	73.33	1	58.0	1	75	—	—	2	63.00	1	72	6	62.50

表11 鼻根部計測値 (女性、mm、度)

	市の瀬		大 萩		灰 塚		上の原		日 守		旭 台		菓子野		朝 田	
	古墳人		古墳人 (松下)		古墳人 (内藤)		古墳人 (松下)		古墳人 (松下・他)		古墳人 (松下・他)		古墳人 (松下・他)		古墳人 (松下・他)	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
前眼窩間幅	1	16	5	18.40	1	22	2	18.00	1	21	3	20.00	1	18	7	17.29
鼻根横弧長	1	18	5	22.00	1	24	2	22.00	1	26	2	26.00	1	20	7	20.57
鼻根彎曲示数	1	88.89	5	83.78	1	91.67	2	82.91	1	80.77	2	82.74	1	90.00	7	85.35
鼻骨最小幅	1	8	5	8.80	—	—	2	9.50	1	13	3	9.33	1	7	7	8.14
両眼窩間幅	1	95	2	95.00	1	97	—	—	1	103	2	96.50	1	96	3	96.00
眼窩間示数	1	16.84	2	17.90	1	22.68	—	—	1	20.39	2	20.29	1	18.75	3	19.83
前頭突起上幅(右)	1	9	5	10.60	1	12	2	9.00	1	11	2	9.50	1	10	7	9.57
(左)	1	8	4	11.25	1	11	2	9.50	1	10	4	10.25	1	10	7	9.14
前頭突起水平傾斜角	1	96	3	86.33	—	—	1	77	1	54	2	89.50	1	71	6	101.50
G-N 投影距離	1	2	3	2.00	—	—	1	2	1	2	4	1.75	1	4	6	1.00
鼻根角	1	152	4	143.25	—	—	1	132	1	148	2	160.00	1	138	6	153.83
G-R 距離	1	32	4	28.00	—	—	1	30	1	32	2	31.00	1	30	6	25.00
垂線高	1	3	4	4.25	—	—	1	6	1	4	2	2.50	1	5	6	2.83
鼻根陥凹示数	1	9.38	4	15.12	—	—	1	20.00	1	12.50	2	7.41	1	16.67	6	11.42

表12 大腿骨計測値 (女性、右、mm)

	市の瀬 古墳人		大 萩 古墳人 (松下・他)		旭 台 古 墳 人 (松下・他)		菓子野 古墳人 (松下・他)		朝 田 古墳人 (松下・他)	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 最 大 長	1	353	—	—	1	375(左)	1	385	1	392
2. 自然位全長	1	347	—	—	1	370(左)	—	—	—	—
6. 骨体中央矢状径	1	22	4	24.75	5	24.80	1	25	7	24.00
7. 骨体中央横径	1	24	4	23.50	5	24.40	1	23	7	25.29
8. 骨体中央周	1	73	4	77.00	5	78.20	1	78	7	77.43
9. 骨体上横径	2	28.00	4	27.75	3	27.00	1	29	4	28.75
10. 骨体上矢状径	2	21.00	4	21.75	3	21.67	1	22	4	22.75
8/2 長厚示数	1	21.04	—	—	1	19.46(左)	—	—	—	—
6/7 骨体中央断面示数	1	91.67	4	105.63	5	102.12	1	108.70	7	95.47
10/9 上骨体断面示数	1	75.00	4	78.59	3	80.41	1	75.86	4	79.15

表13 脛骨計測値 (女性、右、mm)

	市の瀬 古墳人		大 萩 古墳人 (松下・他)		旭 台 古墳人 (松下・他)		菓子野 古墳人 (松下・他)		朝 田 古墳人 (松下・他)	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
2. 顆 距 長	1	268	—	—	—	—	1	305	—	—
8. 中央最大径	1	25	2	26.50	3	27.33	1	27	6	26.00
8a. 栄養孔位最大径	1	26	2	30.00	3	31.00	1	30	7	29.57
9. 中 央 横 径	1	17	2	18.00	3	19.33	1	20	7	19.14
9a. 栄養孔位横径	1	19	2	21.50	3	21.67	1	20	7	21.43
10. 骨 体 周	1	66	2	73.00	3	73.00	1	73	6	71.33
10a. 栄養孔位周	1	73	2	80.50	3	83.67	1	78	6	79.17
10b. 最 小 周	1	60	1	64	1	69	1	65	4	65.00
9/8 中央断面示数	1	68.00	2	68.15	3	70.72	1	74.07	6	75.19
9a/8 a 栄養孔位断面示数	1	73.08	2	71.67	3	69.84	1	66.67	7	72.61

表14 非計測の所見

人 骨 番 号	所 見
5号墳1号人骨 (男性)	骨折 (左側鎖骨)、弱い外耳道骨腫 (左側)
5号墳2号人骨 (女性)	臼旁結節 (上顎左側第二大臼歯)
9号墳1号人骨 (男性)	円錐歯 (上顎両側切歯)
9号墳2号人骨 (女性)	骨折 (左側桡骨、右側脛骨、右側腓骨) 右側上腕骨は左側よりも細く小さい。
10号墳1号人骨 (男性)	弱い外耳道骨腫 (左側)、左側側頭隣に凹み
10号墳4号人骨 (男性)	2個の臼旁結節 (上顎左側第二大臼歯)

総 括

宮崎県東諸県郡国富町大字深年にある市の瀬地下式横穴墓群の1983年と1984年の発掘調査で人骨が合計11体発掘された。宮崎県の古墳時代人骨の特徴は次第に明らかになりつつあるが、宮崎市周辺地域の例数が少なく、研究上大きな障害になっている。こうした意味でも本例は貴重な資料となるものである。人類学的観察や計測を行い、周辺地域の資料との検討を行なった。その結果を要約すると次のとおりである。

1. 出土人骨11体のうち2体は小児骨で、残り9体の成人骨のうち男性骨は6体、女性骨は3体である。
2. この人骨群は古墳時代の後期に属する人骨群である。
3. 男性は短頭で、頭の高さは高く、狭・高顔であるが、上顔高は高くない。鼻根部は狭く、扁平で、前頭突起の向きは前額方向である。また、弱い歯槽性突顎の傾向が認められる。
4. 女性は過短頭で、頭の高さは低く、低・高顔である。鼻根部は狭く、扁平で、前頭突起の向きは前額方向である。また、歯槽性突顎の傾向が認められる。
5. 男性の大腿骨、脛骨は長くて太く、柱状性や扁平性は古墳人としては強い。
6. 女性の大腿骨、脛骨は短くて細いが、大腿骨の柱状性や脛骨の扁平性は認められるものと認められないものの両方が存在する。
7. 大腿骨からの推定身長値は、男性が165.72cm (Pearson 式)、女性は140.12cm (Pearson 式) で、男性は高身長、女性は低身長である。
8. 骨折、弱い外耳道骨腫、臼旁結節、円錐歯などが認められた。

《擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた国富町教育委員会、宮崎県教育庁文化課ならびに宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターの諸先生方に感謝致します。》

表15 脳頭蓋計測値 (mm)

	5—1	9—1	9—2
	男性	男性	女性
1. 頭蓋最大長	—	178	166
8. 頭蓋最大幅	—	143	142
17. バジオン・ブレグマ高	141	138	130
8/1 頭蓋長幅示数	—	80.34	85.54
17/1 頭蓋長高示数	—	77.53	78.31
17/8 頭蓋幅高示数	—	96.50	91.55
頭蓋モズルス	—	153.00	146.00
5. 頭蓋底長	—	95	96
9. 最小前頭幅	—	87	85
10. 最大前頭幅	—	115	113
11. 両耳幅	—	131	127
12. 最大後頭幅	111	114	105
13. 乳突幅	—	—	103
7. 大後頭孔長	38	35	34
16. 大後頭孔幅	29	29	31
16/7 大後頭示数	76.32	82.86	91.18
23. 頭蓋水平周	—	517	485
24. 横弧長	—	319	300
25. 正中矢状弧長	—	—	344
26. 正中矢状前頭弧長	—	123	116
27. 正中矢状頭頂弧長	—	—	125
28. 正中矢状後頭弧長	122	—	103
29. 正中矢状前頭弦長	—	109	104
30. 正中矢状頭頂弦長	—	—	109
31. 正中矢状後頭弦長	104	—	89
29/26 矢状前頭示数	—	88.62	89.66
30/27 矢状頭頂示数	—	—	87.20
31/28 矢状後頭示数	85.25	—	86.41
Vertex Rad.	—	—	119
Nasion Rad.	—	93	88
Subsp. Rad.	—	83	86
Prosth. Rad.	—	94	96

表16 顔面頭蓋計測値 (mm、度)

	9-1	9-2
	男性	女性
40. 顔 長	83	91
41. 側顔長	71	67
42. 下顔長	102	95
43. 上顔幅	103	101
45. 頬骨弓幅	138	136
46. 中顔幅	98	100
47. 顔 高	123	110
48. 上顔高	66	65
47/45 顔示数(K)	89.13	80.88
48/45 上顔示数(K)	47.83	47.79
47/46 顔示数(V)	125.51	110.00
48/46 上顔示数(V)	67.35	65.00
顔面モズルス	114.67	112.33
51. 眼窩幅(右)	39	42
(左)	40	42
52. 眼窩高(右)	31	34
(左)	31	34
52/51 眼窩示数(右)	79.49	80.95
(左)	77.50	80.95
54. 鼻 幅	24	28
55. 鼻 高	48	49
54/55 鼻示数	50.00	57.14
55(1). 梨状口高	—	26
56. 鼻骨長	—	23
57. 鼻骨最小幅	8	8
57(1). 鼻骨最大幅	—	16
60. 上顎歯槽長	51	49
61. 上顎歯槽幅	63	63
62. 口蓋長	44	40
63. 口蓋幅	—	40
64. 口蓋高	—	12
61/60 上顎歯槽示数	123.53	128.57
63/62 口蓋示数	—	100.00
64/63 口蓋高示数	—	30.00
72. 全側面角	89	85
73. 鼻側面角	96	91
74. 齒槽側面角	70	68

表17 鼻根部計測値 (mm、度)

	9-1	9-2
	男性	女性
50. 前眼窩間幅	17	16
鼻根横弧長	19	18
鼻根彎曲示数	89.47	88.89
57. 鼻骨最小幅	8	8
44. 両眼窩幅	93	95
50/44 眼窩間示数	18.28	16.84
前頭突起上幅(右)	10	9
(左)	12	8
前頭突起水平傾斜角	101	96
G-N 投影距離	3	2
鼻根角	—	152
G-R 距離	—	32
垂線高	—	3
鼻根陷凹示数	—	9.38

表18 下顎骨計測値 (mm、度)

		5—1	9—1	9—2	10—3
		男性	男性	女性	女性
65.	下顎関節突起幅	—	—	121	—
65(1).	下顎筋突起幅	—	—	102	—
66.	下顎角幅	—	—	100	101
67.	前下顎幅	53	54	46	—
68.	下顎長	—	—	65	—
68(1).	下顎長	—	—	95	—
69.	オトガイ高	39	38	31	—
69(1).	下顎体高(右)	—	—	—	—
	(左)	31	34	31	27
69(2).	下顎体高(右)	30	—	—	22
	(左)	28	—	—	24
70.	枝高(右)	—	—	51	—
	(左)	—	65	51	—
70(1).	前枝高(右)	—	—	55	—
	(左)	—	66	54	55
70(2).	最小枝高(右)	—	—	45	44
	(左)	—	53	42	44
70(3)	下顎切痕高(右)	—	—	11	—
	(左)	—	13	11	—
71.	枝幅(右)	—	—	32	32
	(左)	35	34	32	35
71a.	最小枝幅(右)	—	—	32	31
	(左)	—	34	32	34
71(1).	下顎切痕幅(右)	—	—	32	—
	(左)	—	34	36	—
79.	下顎枝角(右)	—	—	123	—
	(左)	125	126	124	—
66/65	下顎幅示数	—	—	82.64	—
68/65	幅長示数	—	—	53.72	—
68(1)/65	幅長示数	—	—	78.51	—
69(2)/69	下顎高示数(右)	76.92	—	—	—
	(左)	71.79	—	—	—
71/70	下顎枝示数(右)	—	—	62.75	—
	(左)	—	52.31	62.75	—
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	—	—	71.11	70.45
	(左)	—	64.15	76.19	77.27
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	—	—	34.38	—
	(左)	—	38.24	30.56	—

表19 鎖骨計測値 (mm)

	5—1
	男性
	右
4. 中央垂直径	11
5. 中央矢状径	11
6. 中 央 周	37
4/5 鎖骨断面示数	100.00

表20 肩甲骨計測値 (mm)

	5—1		9—1	10—3	9—2	
	男性		男性	女性	女性	
	右	左	右	左	右	左
11. 烏口突起最大長	41	—	—	—	—	—
12. 関節窩長	37	37	36	35	30	—
13. 関節窩幅	27	26	28	25	21	20
14. 関節窩深	5	5	5	4	4	—
13/12 関係窩長幅示数	72.97	70.27	77.78	71.43	70.00	—
14/12 関節窩彎曲示数	13.51	13.51	13.89	11.43	13.33	—

表21 上腕骨計測値 (mm)

		5—1	9—1	10—5	5—2	9—2
		男性	男性	男性	女性	女性
1.	上腕骨最大長 (右)	—	292	—	—	251
	(左)	—	291	—	—	—
2..	上腕骨全長 (右)	—	288	—	—	237
	(左)	—	286	—	—	—
3..	上 端 幅 (右)	—	—	—	—	—
	(左)	47	—	—	41	—
4..	下 端 幅 (右)	—	55	63	—	47
	(左)	—	57	—	—	—
5..	中央最大径 (右)	—	22	—	19	16
	(左)	24	22	—	—	15
6..	中央最小径 (右)	—	16	—	15	14
	(左)	17	16	—	14	12
7..	骨体最小周 (右)	62	61	—	54	51
	(左)	61	60	—	52	45
7(a).	中 央 周 (右)	—	66	—	57	51
	(左)	67	65	—	—	45
9.	頭最大横径 (右)	—	40	—	—	—
	(左)	—	—	—	—	—
10.	頭最大矢状径 (右)	—	—	—	—	37
	(左)	40	41	—	—	—
11.	滑 車 幅 (右)	—	20	—	—	16
	(左)	—	19	—	—	15
12.	小 頭 幅 (右)	—	—	15	—	—
	(左)	—	—	—	—	—
12(b).	小 頭 幅 (右)	—	—	20	—	—
	(左)	—	—	—	—	—
13.	滑 車 深 (右)	—	24	—	—	21
	(左)	—	24	—	—	—
14.	肘 頭 窩 幅 (右)	25	24	—	24	23
	(左)	22	24	—	—	20
15.	肘 頭 窩 深 (右)	11	12	—	13	10
	(左)	11	13	—	—	10
6/5	骨体断面示数 (右)	—	72.73	—	78.95	87.50
	(左)	70.83	72.73	—	—	80.00
7/1	長 厚 示 数 (右)	—	20.89	—	—	20.32
	(左)	—	20.62	—	—	—
9/10	頭断面示数 (右)	—	—	—	—	—
	(左)	—	—	—	—	—

表22 桡骨計測値 (mm)

		5—1		9—1		10—2		10—5		5—2		9—2	
		男性		男性		男性		男性		女性		女性	
		左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
1.	最大長	—	221	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1b.	平行長	—	219	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2.	機能長	214	208	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3.	最小周	41	39	—	—	—	—	—	—	36	35	33	—
4.	骨体横径	16	16	17	18	—	—	14	14	14	14	14	14
4a.	骨体中央機径	15	14	15	—	—	—	14	13	14	13	14	13
4(1).	小頭横径 横	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	—	—
4(2).	頸 横 径	—	13	14	—	14	12	—	—	10	—	—	—
5.	骨体矢状径	11	10	10	12	—	—	10	—	10	10	10	10
5a.	骨体中央矢状径	10	11	13	—	—	—	10	9	10	10	10	10
5(1).	小頭矢状径	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—	—
5(2).	頸矢状径	19	15	16	—	15	14	—	—	11	—	—	—
5(3).	小 頭 周	—	—	—	—	—	—	—	—	—	64	—	—
5(4).	頸 周	—	45	49	—	47	45	—	—	35	—	—	—
5(5).	骨体中央周	42	41	42	—	—	39	36	38	37	38	37	37
5(6).	骨下端幅	—	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3/2	長厚示数	19.16	18.75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5/4	骨体断面示数	68.75	62.50	58.82	66.67	—	—	71.43	—	71.43	71.43	71.43	71.43
5a/4a	中央断面示数	66.67	78.57	86.67	—	—	—	71.43	69.23	71.43	71.43	76.92	76.92

表23 尺骨計測値 (mm)

		5—1		9—1		10—2		5—2		9—2	
		男性		男性		男性		女性		女性	
		右	左	右	左	左	右	左	右	左	右
3.	最小周	—	37	—	—	—	—	—	33	30	30
6.	肘頭幅	21	25	—	23	—	—	—	21	—	—
6(1)	上 幅	—	—	—	29	38	—	—	24	—	—
7.	肘頭深	—	26	—	24	—	—	—	20	—	—
8.	肘頭高	17	—	—	15	17	—	—	14	—	—
11.	尺骨矢状径	—	15	13	14	13	11	11	11	11	11
12.	尺骨横径	—	17	16	16	19	14	14	14	13	13
S	中央最小径	—	13	13	13	—	10	11	11	10	10
L	中央最大径	—	19	17	16	—	14	15	15	14	14
C	中央周	—	54	48	47	—	42	41	43	39	39
11/12	骨体断面示数	—	88.24	81.25	87.50	68.42	78.57	78.57	78.57	34.62	34.62
S/L	中央断面示数	—	68.42	76.47	81.25	—	71.43	73.33	73.33	71.43	71.43

表24 大腿骨計測値 (mm)

		5—1	9—1	10—2	10—5	平 均		
		男性	男性	男性	男性	男性		
						n	M	σ
1.	最 大 長 (右)	—	—	—	—	—	—	
	(左)	—	—	449	—	1	449	
2.	自然位全長 (右)	—	—	—	—	—	—	
	(左)	—	—	445	—	1	445	
3.	最大転子長 (右)	—	—	—	—	—	—	
	(左)	—	—	441	—	1	441	
4.	自然位転子長 (右)	—	—	—	—	—	—	
	(左)	—	—	427	—	1	427	
6.	骨体中央矢状径 (右)	29	27	29	32	4	29.25	2.06
	(左)	29	28	30	—	3	29.00	
7.	骨体中央横径 (右)	26	25	27	29	4	26.75	1.71
	(左)	26	23	28	—	3	25.67	
8.	骨体中央周 (右)	86	82	89	—	3	85.67	
	(左)	88	82	93	—	3	87.67	
9.	骨体上横径 (右)	33	30	—	—	2	31.50	
	(左)	32	30	33	—	3	31.67	
10.	骨体上矢状径 (右)	24	23	—	—	2	23.50	
	(左)	24	22	26	—	3	24.00	
15.	頸 垂 直 径 (右)	33	31	—	—	2	32.00	
	(左)	34	—	37	—	2	35.50	
16.	頸 矢 状 径 (右)	27	27	—	—	2	27.00	
	(左)	27	—	30	—	2	28.50	
17.	頸 周 (右)	101	96	—	—	2	98.50	
	(左)	102	—	113	—	2	107.50	
18.	頭 垂 直 径 (右)	—	—	—	—	—	—	
	(左)	46	—	48	—	2	47.00	
19.	頭 横 径 (右)	—	—	—	—	—	—	
	(左)	47	—	48	—	2	47.50	
20.	頭 周 (右)	—	—	—	—	—	—	
	(左)	149	—	—	—	1	149	
21.	上 頸 幅 (右)	—	—	—	—	—	—	
	(左)	—	79	—	—	1	79	
8/2	長 厚 示 数 (右)	—	—	—	—	—	—	
	(左)	—	—	20.90	—	1	20.90	
6/7	骨体中央断面示数 (右)	111.54	108.00	107.41	110.34	4	109.32	1.91
	(左)	111.54	121.74	107.14	—	3	113.47	
10/9	上骨体断面示数 (右)	72.73	76.67	—	—	2	74.70	
	(左)	75.00	73.33	78.79	—	3	75.71	

表25 大腿骨主要計測値 (mm)

		5—2	9—2	10—3	平 均	
					女性	
					n	M
1.	最 大 長 (右)	—	353	—	1	353
	(左)	—	—	—		—
2.	自然位全長 (右)	—	347	—	1	347
	(左)	—	—	—		—
3.	最大転子長 (右)	—	—	—		—
	(左)	—	—	—		—
4.	自然位転子長 (右)	—	—	—		—
	(左)	—	—	—		—
6.	骨体中央矢状径 (右)	—	22	—	1	22
	(左)	25	—	28	2	26.50
7.	骨体中央横径 (右)	—	24	—	1	24
	(左)	23	—	23	2	23.00
8.	骨体中央周 (右)	—	73	—	1	73
	(左)	76	—	80	2	78.00
9.	骨体上横径 (右)	28	—	28	2	28.00
	(左)	30	—	—	1	30
10.	骨体上矢状径 (右)	21	—	21	2	21.00
	(左)	21	—	—	1	21
15.	頸 垂 直 径 (右)	27	28	—	2	27.50
	(左)	26	—	—	1	26
16.	頸 矢 状 径 (右)	20	—	—	1	20
	(左)	21	—	—	1	21
17.	頸 周 (右)	78	—	—	1	78
	(左)	80	—	—	1	80
18.	頭 垂 直 径 (右)	38	—	—	1	38
	(左)	39	—	—	1	39
19.	頭 横 径 (右)	—	—	—		—
	(左)	39	—	—	1	39
20.	頭 周 (右)	—	—	—		—
	(左)	124	—	—	1	124
21.	上 頸 幅 (右)	—	69	—	1	69
	(左)	—	—	—		—
8/2	長 厚 示 数 (右)	—	21.04	—	1	21.04
	(左)	—	—	—		—
6/7	骨体中央断面示数 (右)	—	91.67	—	1	91.67
	(左)	108.70	—	121.74	2	115.22
10/9	上骨体断面示数 (右)	75.00	—	75.00	2	75.00
	(左)	70.00	—	—	1	70.00

表26 脛骨計測値 (mm)

		5—1		10—1	10—2		5—2	9—2	
		男性		男性	男性		女性	女性	
		右	左	左	右	左	右	右	左
1.	脛骨全長	347	—	—	365	—	—	—	—
1a.	脛骨最大長	357	—	—	371	—	—	—	—
1b.	脛骨長	—	—	—	354	—	—	—	—
2.	顆距長	—	—	—	340	340	—	—	268
3.	最大上端幅	—	—	—	72	—	—	—	—
3a.	上内関節面幅	—	—	—	—	—	—	—	—
3b.	上外関節面幅	—	—	—	—	—	—	—	—
4a.	上内関節面深	—	—	—	—	—	—	—	—
4b.	上外関節面深	—	—	—	—	—	—	—	30
6.	最大下端幅	—	48	—	—	—	40	—	—
7.	下端矢状径	36	36	—	—	—	32	32	—
8.	中央最大径	31	32	36	34	—	—	25	25
8a.	栄養孔位最大径	35	37	38	—	—	—	28	26
9.	中央横径	20	20	23	24	—	—	18	17
9a.	栄養孔位横径	21	21	27	—	—	—	19	19
10.	骨体周	—	83	93	—	—	—	68	66
10a.	栄養孔位周	—	94	—	—	—	—	76	73
10b.	最小周	72	72	—	—	—	—	—	60
9/8	中央断面示数	64.52	62.50	63.89	70.59	—	—	72.00	68.00
9a/8a	栄養孔位断面示数	60.00	56.76	71.05	—	—	—	67.86	73.08
10b/1	長厚示数	20.75	—	—	—	—	—	—	—

(※9—2 右側骨折)

表27 腓骨計測値 (mm)

		5—1		10—5	5—2		9—2	
		男性		男性	女性		女性	
		右	左	右	右		右	左
1.	最大長	—	350	—	—		—	—
2.	中央最大径	18	17	17	14		16	14
3.	中央最小径	11	10	13	8		10	9
4.	中央周	49	48	50	37		45	39
4a.	最小周	37	35	—	—		34	31
4b.	頸横径	13	13	—	—		—	—
4c.	頸矢状径	12	14	—	—		—	—
4(1).	上端幅	—	24	—	—		—	—
4(1a).	上端矢状幅	—	22	—	—		—	—
4(2).	下端幅	—	20	—	—		—	16
4(2a).	下端矢状幅	—	28	—	—		—	22
3/2	中央断面示数	61.11	58.82	76.47	57.14		62.50	64.29
4a/1	長厚示数	—	10.00	—	—		—	—

(※9—2 右側骨折)

表28 膝蓋骨計測値 (mm)

		10—2	10—4
		男性	女性
		右	右
1.	最大高	—	37
2.	最大幅	—	—
3.	最大厚	20	18
4.	関節面高	28	—
5.	内切面幅	—	—
6.	外切面幅	28	26
1/2	膝蓋骨高幅示数	—	—

表29 推定身長値 (cm)

		5—1	9—1		10—2		9—2
		男性	男性		男性		女性
		右	右	左	右	左	右
Pearson の式	上腕骨	—	155.15	154.86	—	—	140.60
	橈骨	—	158.21	—	—	—	—
	大腿骨	—	—	—	—	165.72	141.50
	脛骨	163.49	—	—	166.81	—	—
藤井の式	上腕骨	—	154.71	155.26	—	—	141.04
	橈骨	—	155.68	—	—	—	—
	大腿骨	—	—	—	—	165.81	140.12
	脛骨	162.18	—	—	165.64	—	—

表30 歯の計測値—近遠心径 (mm)

		5—1	9—1	10—1	10—4	10—5	5—2	9—2	10—3
		男性	男性	男性	男性	男性	女性	女性	女性
上顎右側	I ₁	7.87	8.30	—	—	—	—	8.08	—
	I ₂	6.36	—	—	—	—	—	6.99	—
	C	7.03	7.88	—	—	—	—	7.74	—
	P ₁	—	—	—	—	—	—	—	—
	P ₂	—	—	—	6.19	—	—	6.82	—
	M ₁	—	9.63	—	—	—	—	10.17	—
	M ₂	9.33	—	—	9.58	10.54	9.45	8.96	—
	M ₃	8.61	—	—	8.24	—	9.30	—	—
左側	I ₁	8.10	8.30	—	—	—	—	—	—
	I ₂	6.32	—	—	—	—	—	—	—
	C	7.46	7.84	—	—	—	7.43	7.73	—
	P ₁	—	7.01	—	—	—	—	7.79	—
	P ₂	6.63	—	—	—	7.02	6.78	—	6.55
	M ₁	9.58	—	—	—	—	10.46	9.62	9.87
	M ₂	9.80	—	—	9.99	—	9.58	—	—
	M ₃	—	—	—	7.92	10.01	9.19	9.24	9.08
下顎右側	I ₁	4.98	4.67	—	—	—	—	4.80	—
	I ₂	5.44	5.05	—	—	—	—	5.89	—
	C	6.14	6.71	—	—	—	—	6.47	—
	P ₁	6.44	6.80	—	6.95	—	—	7.08	6.50
	P ₂	7.05	6.54	—	—	—	—	—	6.80
	M ₁	10.88	—	—	—	12.56	—	—	—
	M ₂	11.16	—	—	10.39	11.65	—	—	10.47
	M ₃	10.97	—	—	—	12.32	10.29	10.49	10.16
左側	I ₁	4.93	4.90	—	—	—	—	5.11	4.92
	I ₂	5.37	5.37	—	—	—	—	5.76	5.33
	C	6.14	6.34	—	—	—	—	6.29	6.03
	P ₁	6.47	7.05	7.06	—	—	—	7.15	6.36
	P ₂	7.25	6.71	—	—	—	—	7.37	6.82
	M ₁	11.23	10.92	—	—	—	11.34	11.23	10.95
	M ₂	10.93	—	—	10.80	—	—	—	10.48
	M ₃	11.10	—	—	9.74	—	10.25	10.97	10.80

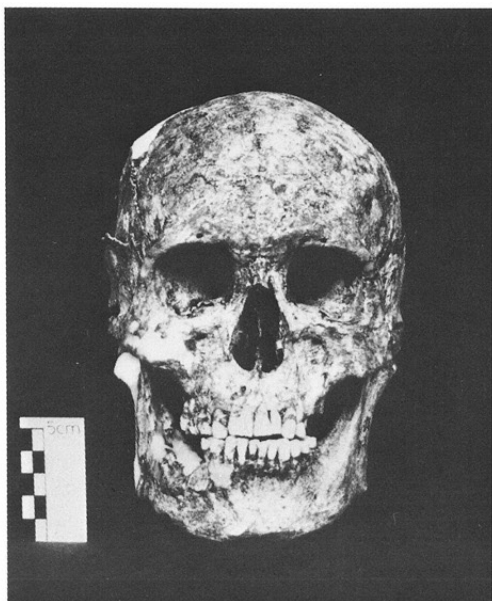
表31 歯の計測値—頬(唇)舌径 (mm)

		5—1	9—1	10—1	10—4	10—5	5—2	9—2	10—3
		男性	男性	男性	男性	男性	女性	女性	女性
上顎右側	I ₁	7.83	7.25	—	—	—	—	7.81	—
	I ₂	7.03	—	—	—	—	—	—	—
	C	8.25	8.00	—	—	—	—	8.02	—
	P ₁	8.99	—	—	—	—	—	—	—
	P ₂	—	—	—	9.19	—	9.44	9.88	—
	M ₁	12.19	11.15	—	—	—	—	11.86	—
	M ₂	11.15	11.76	—	11.28	11.77	11.63	11.83	—
	M ₃	11.44	—	—	9.81	—	11.24	—	—
	左側 I ₁	7.74	—	—	—	—	—	—	—
	I ₂	6.40	—	—	—	—	—	—	—
	C	—	8.15	—	—	—	7.72	7.70	—
	P ₁	—	9.40	—	—	—	—	10.09	—
	P ₂	9.04	—	—	—	9.86	9.20	—	8.84
	M ₁	10.90	—	—	—	—	—	11.32	10.73
	M ₂	11.65	—	—	—	—	10.57	11.01	—
	M ₃	—	—	—	10.49	11.26	11.39	—	10.39
下顎右側	I ₁	5.74	5.33	—	—	—	—	6.02	—
	I ₂	6.18	5.82	—	—	—	—	7.02	—
	C	7.15	8.06	—	—	—	—	7.38	—
	P ₁	7.93	8.39	—	7.79	—	—	8.06	7.39
	P ₂	8.35	8.75	—	—	—	—	—	7.81
	M ₁	10.35	—	—	—	11.50	—	—	—
	M ₂	11.51	—	—	10.32	10.99	10.60	—	9.90
	M ₃	10.34	—	—	—	10.74	9.89	10.30	9.18
	左側 I ₁	5.73	5.67	—	—	—	—	5.41	5.59
	I ₂	6.24	6.12	—	—	—	—	6.42	5.87
	C	7.78	—	—	—	—	—	7.64	7.05
	P ₁	7.38	8.22	9.36	—	—	—	8.19	7.56
	P ₂	8.35	8.80	—	—	—	—	8.65	7.80
	M ₁	10.20	10.55	—	—	—	10.62	10.87	10.08
	M ₂	10.67	—	—	10.57	—	—	—	9.96
	M ₃	10.30	—	—	9.19	—	10.01	9.94	9.64

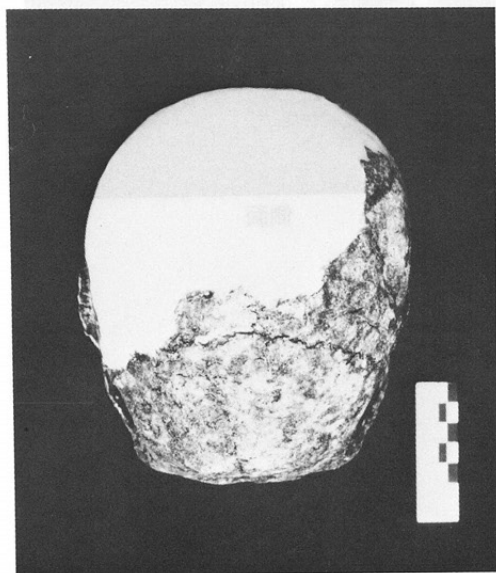
参考文献

1. 藤田恒太郎、1949、歯の計測規準について。人類学雑誌、61：27—32。
2. Howells. W. W, 1974：Cranial Variation in Man. Peabody Museum Papers, vol.67.
3. 池田次郎、他、1985：国家成立前後の日本人—古墳時代人骨を中心にして—。季刊人類学、16—3：31—125。

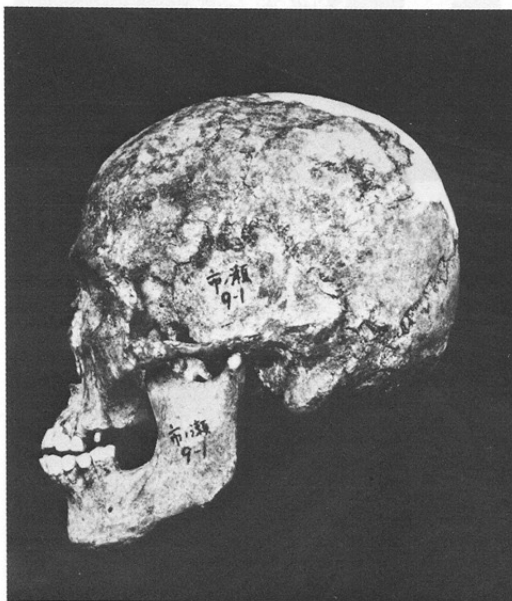
4. Martin-Saller, 1957 : Lehrbuch der Anthropologie. Bd. 1. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart : 492-597.
5. 松下孝幸、1981 : 日守地下式古墳出土の人骨。日守地下式古墳群発掘調査 (55-1-4号) (宮崎県文化財調査報告書23) : 169-178、182-183.
6. 松下孝幸、1981 : 宮崎県上の原地下式古墳出土の人骨。上の原地下式古墳群発掘調査 (宮崎県文化財調査報告書24) : 114-129.
7. 松下孝幸、他、1982 : 宮崎県国富町本庄28号地下式古墳出土の人骨。宮崎考古、8 : 16-20.
8. 松下孝幸、1982 : 山口県朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨。朝田墳墓群Ⅴ (山口県埋蔵文化財調査報告第64集) : 179-206.
9. 松下孝幸、他、1983 : 山口県山口市朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨—総括篇—。朝田墳墓群Ⅵ (山口県埋蔵文化財調査報告第69集) : 219-242.
10. 松下孝幸、他、1983 : 宮崎県高原町旭台地下式横穴出土の古墳時代人骨。宮崎県文化財調査報告書、26 : 78-107.
11. 松下孝幸、他、1983 : 宮崎県都城市菓子野地下式横穴出土の古墳時代人骨。都城・中之城跡、菓子野地下式横穴 (都城市文化財調査報告書3) : 105-145.
12. 松下孝幸、他、1983 : 山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7次発掘調査概報 (豊北町埋蔵文化財調査報告第2集) : 19-30.
13. 松下孝幸、1984 : 宮崎県野尻町大萩地下式横穴出土の古墳時代人骨。宮崎県文化財調査報告書、第27集 : 53-111.
14. 松下孝幸、1984 : 宮崎市跡江横穴出土の古墳時代人骨。宮崎考古、第9号 : 34-48.
15. 永井昌文、1981 : 古墳時代人骨。季刊人類学、12 : 18-26.
16. 内藤芳篤、1971 : 西北九州出土の弥生時代人骨。人類学雑誌、79 : 236-248.
17. 内藤芳篤、1973 : 灰塚地下式横穴人骨。灰塚遺跡 (九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査調査報告2) : 72-77.
18. 内藤芳篤、1974 : 人骨。大萩遺跡(1)—瀬戸ノ口地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 : 55-62.
19. 鈴木 尚、1963 : 日本人の骨。岩波書店。
20. 財津博之、1956 : 山口県土井ヶ浜遺跡発掘弥生前期人骨の四肢長骨に就いて。人類学研究、3 : 16-45.



正面



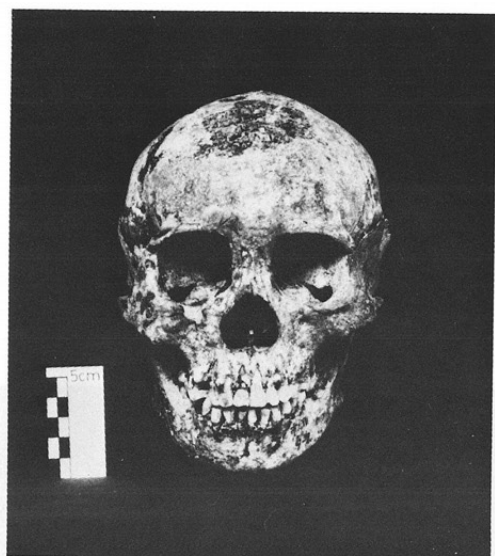
上面



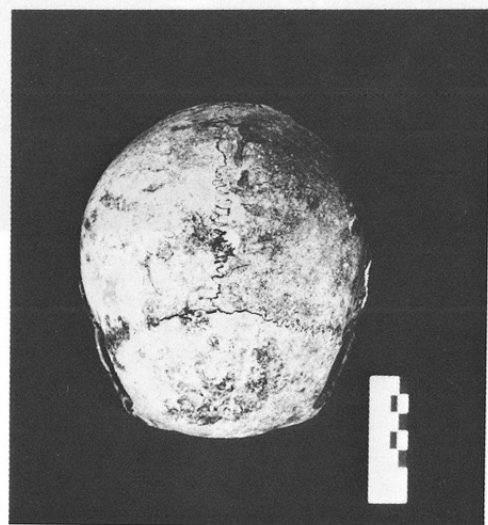
側面



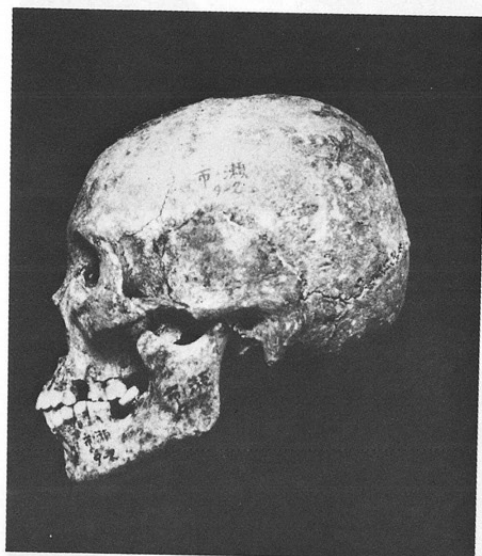
9号墳1号人骨 (男性・熟年)



正面

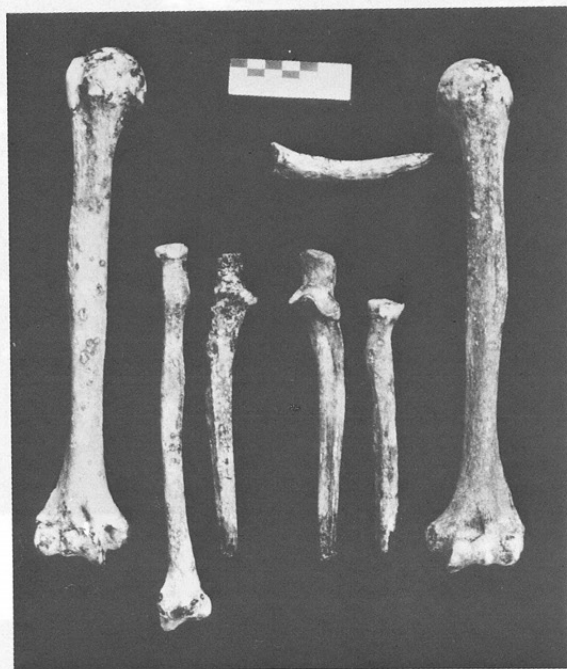


上面

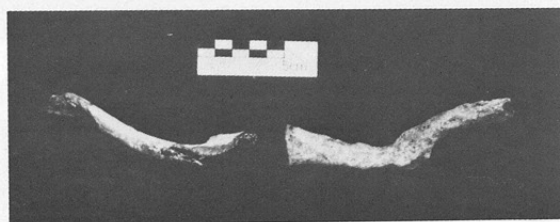


側面

9号墳2号人骨（女性・壮年）



9号墳1号人骨上肢骨（男性）



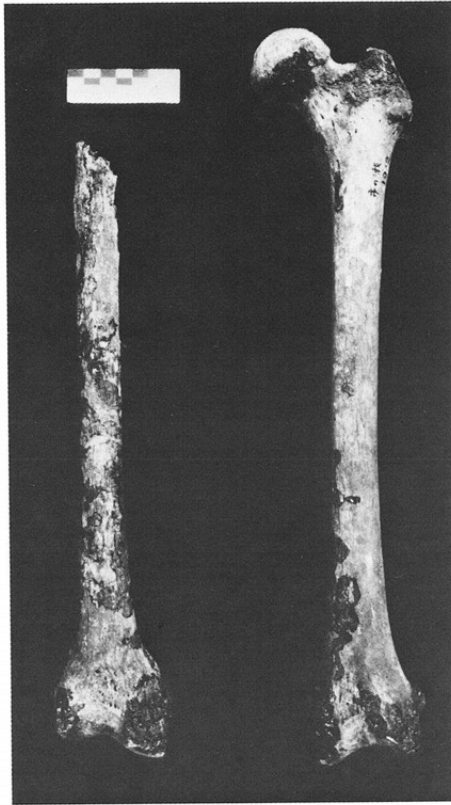
5号墳1号人骨・鎖骨骨折（男性）



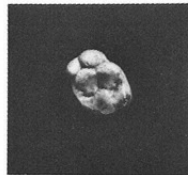
9号墳2号人骨下肢骨(女性)



9号墳2号人骨上肢骨(女性)



10号墳 2号人骨大腿骨（男性）



10号墳 4号人骨臼旁結節（男性）

宮崎県国富町市の瀬地下式横穴墓群出土の古墳時代小児骨

分 部 哲 秋*

はじめに

宮崎県東諸県郡国富町大字深年にある市の瀬地下式横穴墓群は、1963年、1983年および1984年に発掘調査が行われ、1983年と1984年の調査によって総数11体の人骨が出土した。

筆者は、各遺跡から出土する幼小児骨の骨の大きさ、化骨、歯の萌出等について調査し、報告を行ってきた。しかしながら、古墳時代の資料は、いままでのところ出土例が少なく、残存状態が悪いのが現状である。

ここで報告しようとする市ノ瀬地下式横穴墓出土の小児骨2例は、保存状態が比較的良好で、古墳時代の幼小児骨の形質を知るうえで貴重な資料になると考えられることから、詳細な人類学的観察および計測を行ったので、その結果について報告したい。

資料・方法

市の瀬地下式横穴墓群からは、表1に示しているように、合計11体の人骨が出土し、そのうち2例が小児骨であった。なお、これらの人骨は、別稿で述べられているように、考古学的所見から、古墳時代後期（6世紀）に属するものである。

小児骨の年令、年令区分は表2に示すとおりであるが、年令については、藤田（1965）による歯の萌出時期（現代人）と金田（1957）による歯根の形成時期（現代人）を用いて推定した。また、幼小児骨の性差に関しては、種々の研究がなされているが、性別を同定することは難しく、本例についても不明である。

計測は、Martin-Saller（1957）の方法で行ったが、脛骨の横径については、森本（1971）にならない、オリビエの方法を用いた。

*Tetsuaki WAKEBE

Department of Anatomy, Faculty of Medicine, Nagasaki University

〔長崎大学医学部解剖学第二教室（主任：内藤芳篤）〕

比較資料は、古墳時代の資料として、旭台地下式横穴出土小児骨（分部、1983）、大萩地下式横穴出土小児骨（分部、1984）、津袋大塚東側1号石棺出土小児骨（分部、1986）、弥生時代の資料として、宮の本遺跡出土幼小児骨（分部、1981）、大友遺跡出土小児骨（分部、1981）の成績を用いた。

表1 資料数

幼児	小 児		成年	成 人		合計
	I 期	II 期		男性	女性	
0	2	0	0	6	3	11

表2 小児骨資料

人骨番号	年齢	年齢区分
9号墳3号人骨	8歳	小児I期
9号墳4号人骨	9歳	小児I期

所 見

9号墳3号人骨

(1) 頭蓋

1) 脳頭蓋

脳頭蓋の保存状態は比較的良いが、左頭頂骨の後部と後頭骨の後頭鱗右半を欠損している。脳頭蓋の骨壁は薄く、頭頂結節はよく膨隆し、また、乳様突起は小さい。

脳頭蓋の計測値は、表8に示しているとおり、頭蓋最大長は、欠損部を復元して計測したもので(168)mm、頭蓋最大幅は139mm、バジオン・プレグマ高は128mmで、長径に比べ幅径はやや大きい。したがって、頭蓋長幅示数は(82.74)、頭蓋長高示数は(76.19)、頭蓋幅高示数は92.09となり、頭型はそれぞれ、brachy-, hypsi-, metriokran（短頭、高頭、中頭）に属している。また、最小前頭幅は86mm、最大前頭幅は110mm、横弧長は301mmである。

2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋は、左側の頬骨弓と下顎骨の下顎枝を欠くほかは、ほぼ完全である。前頭結節はよく膨隆しており、眉間および眉上弓の隆起も認められない。

顔面頭蓋の計測値は、表9・10に示しているように、頬骨弓幅は、左側を復元して計測したもので(112)mmである。中顔幅は83mm、顔高は85mm、上顔高は47mmとなり、顔面の諸径は小さく、とくに高径は小さい。したがって、コルマンの顔示数および上顔示数は、(75.89)、(41.96)、ウィルヒョーの顔示数および上顔示数は102.41、56.63となり、各示数値は小さくて、顔面型は、それぞれ、hypereuryprosop（過広顔）、hypereuryen（過広上顔）、hyperchamaeprosop（過低顔）、hyperchamaeprosop（過低顔）に属している。

鼻根部は、前眼窩間幅が15mmで、それほど広いものではないが、鼻骨の隆起は弱くて扁平である。

次いで、眼窩は、眼窩幅が37mm（右、左）、眼窩高は30mm（右、左）で、眼窩示数は81.08（右、左）となり、mesokonch（中眼窩）に属している。また、鼻幅は19mm、鼻高は37mmで、鼻示数は51.35となり、chamaerrhin（低鼻）に属している。

上顎部は、上顎骨歯槽突起がきゃしゃで、上顎歯槽長が39mm、上顎歯槽幅は55mm、口蓋長は34mm、口蓋幅は32mm（上顎第1大臼歯の位置）で、諸径は小さい。

下顎骨は、計測できる部位は限られたが、（表11）、下顎体および筋突起は低く、下顎体の厚さも薄くてきゃしゃである。

3) 歯

残存している歯を歯式で示すと次のとおりである。

(P ₂)(P ₁)(C)										(C)(P ₁)(P ₂)										<div> <div>[] 萌出途中</div> <div>() 齒槽内埋伏</div> <div>/ 不明</div> </div>
(M ₃)(M ₂)M ₁ m ₂ m ₁ c I ₂ I ₁										I ₁ I ₂ c m ₁ m ₂ M ₁ (M ₂)(M ₃)										
(M ₃)(M ₂)M ₁ m ₂ m ₁ [C]I ₂ I ₁										I ₁ I ₂ [C] m ₁ / M ₁ (M ₂) /										
(P ₂)(P ₁)										(P ₁)(P ₂)										

歯の萌出状態は、永久歯が上顎、下顎ともに第1大臼歯（M₁）、中切歯（I₁）、側切歯（I₂）が萌出を完了し、下顎犬歯（C）は萌出を開始している。その他の永久歯は歯槽内に埋伏している。また、永久歯の歯根形式の程度は、計測できたものの中では、上顎中切歯が3/4強、上顎犬歯は1/2弱、下顎犬歯は1/2、下顎第1小臼歯は1/2弱、下顎第2小臼歯が1/4強ほど形成している。

咬耗の程度は、乳歯がBrocaの2度、永久歯で萌出しているものは、Brocaの1度である。なお、上顎の側切歯は、両側ともに円錐歯である。

(2) 四肢骨

1) 上肢骨

1. 上腕骨

右側は両端を欠く骨体が、左側は骨体の近位半が残存していた。計測値は表12に示しているとおり、中央最大径が14.0mm（右）、12.8mm（左）、中央最小径は10.8mm（右）、10.5（左）で、骨体断面示数は77.14（右）、82.03（左）となり、示数値は大きくて、骨体の扁平性は認められない。また、三角筋粗面の発達も悪い。

骨体最小周は38.0mm（右）、中央周は40.0mm（右）、37.0mm（左）で、左側骨体の諸径は、

右側に比べてかなり小さくて、骨体の太さは非対称である。

2. 桡骨

右側は両端を欠く骨体が、左側は骨体の近位半が残存していた。計測値は表13に示しているように、骨体中央横径が7.5mm（右）、骨体中央矢状径は5.6mm（右）で、骨体断面示数は74.67（右）となり、骨体は扁平なものではない。また、骨体中央周は21.0mm（右）で小さく、長さによって骨体は非常に細い。

3. 尺骨

右側のみが残存し、骨体は遠近両端を欠損していた。計測値は、表14に示しているとおり、中央最小径は6.9mm（右）、中央最大径は8.2mm（右）で、中央断面示数は84.15（右）となり、示数値は大きい。中央周は24.0mm（右）で、桡骨と同様に骨体は細い。

2) 下肢骨

1. 大腿骨

左側のみが残存しており、骨体の遠位部を欠損していた。計測値は表15に示すとおりであるが、骨体中央矢状径は13.0mm（左）、骨体中央横径は14.7mm（左）で、中央断面示数は88.44（左）となり、骨体中央部の断面形は横広ろの楕円形を呈している。また、粗線の発達も悪い。

上骨体断面示数は65.42（左）で、骨体上部は扁平である。骨体中央周は44.5mm（左）で小さく、上端部の大きさや骨体の長さによって、骨体はかなり細い。

2. 脛骨

右側は近位部を、左側は近位半を欠く骨体が残存していた。計測値は表16に示しているように、中央最大径が15.5mm（右）、中央横径は12.4mm（右）で、中央断面示数は80.00（右）となり、骨体に扁平性は認められない。

骨体周は45.0mm（右）、最小周は41.0mm（右）、42.0mm（左）で、長さの割に骨体は細い。また、最小周は、左右が近い値を示し、遠位半を比較するかぎりにおいては、顕著な左右差は認められない。

3. 腓骨

右側は近位部を欠く骨体が、左側は骨体の中央部が残存していた。計測値は表17に示しているとおり、中央最大径が10.0mm（右）、8.3mm（左）、中央最小径は6.5mm（右）、5.9mm（左）で、中央断面示数は65.00（右）、71.08（左）となり、右側骨体はやや扁平である。

中央周は27.0mm（右）、24.0mm（左）で、左側の骨体は、右側に比べてかなり細く、左右

の差が著しい。

(3) 化骨

頭蓋においては、後頭骨の後後頭内軟骨結合部は、すでに骨癒合を完了している。また、前後頭内軟骨結合部は、後頭顆の一部が未癒合であるが、周囲は骨癒合をしており、完了の直前である。蝶後頭軟骨結合部は未癒合である。

四肢骨において観察可能であった部位は、寛骨臼部（右、左）、大腿骨の骨頭（左）、大転子（左）および小転子（左）、脛骨の遠位端（左、右）、腓骨の遠位部（右）で、すべて未癒合である。

(4) 特殊所見

椎骨は第1、第2頸椎および腰椎から仙椎にかけてが残存していたが、そのうち、第1、第2頸椎（図版4）には特殊所見が認められた。まず、第1頸椎は、横径が大きくて、後頭骨の後頭顆の幅とほぼ一致している。しかし、椎弓の左半は右半に比べて細くて、やや長い。また、左側の関節面は、一部しか残存していないが、右側に比べて小さい。

次に、第2頸椎は、左半が右半よりもかなり小さく、第1頸椎の横径よりもかなり小さい。つまり、第1頸椎と第2頸椎の関節面は合わず、また、両椎ともに、右半と左半が非対称形を呈している。

(5) 年齢

藤田（1965）の歯の萌出時期（現代人）によれば、すでに萌出している歯のうちで、最も遅く萌出するのは上顎側切歯で、男性平均8才7カ月、女性平均8才1カ月である。また、萌出途中の下顎犬歯は、男性平均9才10カ月、女性平均9才1カ月で萌出を完了する。したがって、歯の萌出状態からの年令は、8才後半から9才前半と推定される。

歯根の形成程度は、金田（1957）の歯根形成時期（現代人）によれば、上顎中切歯と側切歯が9才、上・下顎の犬歯、下顎の第1および第2小臼歯が8才に相当する。以上のことから、仮りに、古墳時代の歯の萌出および歯根形成時期が、現代と大差ないと仮定したうえで、本人骨の年令を推定すれば、ほぼ8才後半となる。

9号墳4号人骨

(1) 頭蓋

頭蓋は保存状態が悪く、残存していたのは下顎骨の右半のみである。下顎骨の計測値は表11に示しているように、下顎体高（第1大臼歯の位置）は24mm（右）で、下顎体はやや高く、また厚くて、この年令としては頑丈なものである。

次いで、残存した歯を歯式で示すと次のとおりである。

$\begin{array}{c} \diagup \quad \dot{M}_2 \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \\ \hline (M_3)(M_2) \quad M_1 m_2 \quad m_1 \quad \diagup \quad I_2 \quad I_1 \\ \hline (P_2)(P_1)(C) \end{array}$	$\begin{array}{c} \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \\ \hline I_1 \quad I_2 \quad c \quad \diagup \quad m_2 \quad \diagdown \quad \diagdown \quad \diagdown \\ \hline C \quad P_1 \quad P_2 \end{array}$	$\left(\begin{array}{l} () \text{ 歯槽内埋伏} \\ [] \text{ 萌出途中} \\ \cdot \text{ 遊離歯} \\ \diagup \text{ 不明} \end{array} \right)$
---	--	--

歯の萌出状態は、下顎の中切歯、側切歯および第1大臼歯が萌出し、右側の第1小臼歯が萌出を開始している。その他は歯槽内に埋伏している。

歯根の形成程度は、下顎中切歯および側切歯が完成、犬歯は1/2強、第1小臼歯が1/2強形成している。咬耗度は、乳歯がBrocaの2度、永久歯で萌出しているものはBrocaの1度である。

(2) 四肢骨

1) 上肢骨

1. 上腕骨

右側は骨体の中央部が残存していたが、朽ちて歪みがひどく、計測および観察は不可能である。左側は、近位端を欠く骨体が残存しており、三角筋粗面の発達は悪い。

計測値は、表12に示しているように、中央最大径が15.1mm(左)、中央最小径は10.6mm(左)で、中央断面示数は70.20(左)となり、骨体はやや扁平である。中央周は42.0mm(左)で、骨体はそれほど太いものではない。

2. 橈骨

両側ともに、骨体の中央部が残存していたが、緻密質が剥落しており、計測は不可能である。

3. 尺骨

左側骨体の近位半が残存していたが、中央部の腐朽がひどく、計測は不可能である。

2) 下肢骨

1. 大腿骨

右側は遠位部が残存し、左側は、骨端線部で骨頭を欠いているほかはほぼ完全である。両側ともに粗線の発達は悪い。

計測値は表15に示しているように、骨体中央矢状径は17.1mm(左)、骨体中央横径は18.9mm(左)で、骨体中央断面示数は90.48(左)となり、示数値は小さくて、骨体の中央部の断面形は、横広ろの楕円形を呈している。また、上骨体断面示数は74.01(左)で、骨体上部

はやや扁平である。

最大長は289mm（左）、骨体中央周は57.0mm（左）で、長厚示数は19.72（左）となり、骨体はやや太くて頑丈である。

2. 脛骨

右側は遠位部を、左側は両端を欠く骨体が残存していた。計測値は表16に示しているように、中央最大径は19.5mm（右）、中央横径は15.6mm（右）、16.0mm（左）で、中央断面示数は80.00（右）となる。また、栄養孔位断面示数も83.09（右）、84.65（左）と示数値は大きくて、骨体に扁平性は認められない。骨体周は56.0mm（右）で、骨体はやや太い。

3. 腓骨

両側ともに、骨体の中央部から近位部にかけて残存していた。緻密質が剥落しており、計測は不可能である。

(3) 化骨

化骨の進行状態が観察可能であったのは、上腕骨遠位端（左）、寛骨臼部（左）、大腿骨の骨頭（左）、大転子（左）、小転子（左）および遠位端（右、左）、脛骨の近位端（右）で、すべての部位が未癒合である。

(4) 年齢

藤田（1965）の歯の萌出時期（現代人）によれば、萌出を完了している歯のうち最も遅く萌出するのは、下顎側切歯で、男性平均7才3カ月、女性平均7才である。また、萌出途中の下顎第1小臼歯は、男性平均9才10カ月、女性平均9才7カ月で萌出する。したがって、萌出状態からの年令は、7才から9才前半と推定される。

歯根の形成程度は、金田（1957）によれば、下顎中切歯が8才後半以上、下顎側切歯が9才前半、下顎犬歯が9才、下顎第1小臼歯が9才半ばに相当する。以上のことから、古墳時代の歯の萌出および歯根の形成時期が、現代と大差ないと仮定したうえで本人骨の年令を推定すれば、9才の前半となる。

考 察

9号墳3号人骨と4号人骨について、同年令あるいは近い年令の古墳時代および弥生時代の小児骨と比較をした（表3～7）。

9号墳3号人骨（8才、小児Ⅰ期）

脳頭蓋は、頭蓋最大長に比べ頭蓋最大幅がやや大きく、頭蓋長幅示数は (82.74) となり、頭型は短頭型に属している。大友小児骨 (9 才) よりもやや短頭であるが、同じ地下式横穴墓出土の大萩小児骨ほど、短頭の傾向は強くない。

顔面頭蓋においては、比較群よりも諸径が小さく、特に顔高、上顔高は、旭台小児骨 7 才例よりも小さいものである。したがって、コルマンおよびウィルヒョーの顔示数、上顔示数も示数値が小さくて、低顔の傾向が、一層顕著である。

鼻根部は、やや幅が狭いものの、扁平である点は大萩小児骨の形態と共通している。また、鼻部は、大萩小児骨と同様に広鼻の傾向が強い。

四肢骨は、市ノ瀬 9—4 号、大友小児骨の 9 才例はもとより、宮の本 18 号 8 才例および津袋 1—3 号 7 才例よりも骨体の諸径が小さく、この年令にしては骨体はかなり細いものである。

以上のように、歯の萌出を基準として比較を行うと、頭蓋は諸径がやや小さいものの、大萩小児骨の傾向とよく一致している。しかしながら、四肢骨は細く、また、上腕骨および腓骨には著明な左右差が認められ、さらに、頸椎にも異常が認められることから、少なくとも四肢骨については、他の小児骨と同一にはあつかえないものと考えられる。

表 3 脳頭蓋計測値 (mm)

人骨番号 時代 年齢	市の瀬 9—3	大萩 3—3	宮の本 18	大友	
	古墳	古墳	弥生	弥生	
	8 歳	8 歳	8 歳	9 歳	
				n	M
1. 頭蓋最大長	(168)	165	—	1	164
8. 頭蓋最大幅	139	144	131	2	137.00
17. バジオン・プレグマ高	128	—	—	1	(129)
8/1 頭蓋長幅示数	(82.74)	87.27	—	1	80.49
17/1 頭蓋長高示数	(76.19)	—	—	1	78.66
17/8 頭蓋幅高示数	92.09	—	—	1	97.73
24. 横弧長	301	319	311	1	294

表 4 顔面頭蓋計測値 (mm)

人骨番号	市の瀬9—3	旭台9—3	大萩3—3	大友
時代	古墳	古墳	古墳	弥生
年齢	8歳	7歳	8歳	9歳
				n M
43. 上顔幅	90	—	95	2 92.50
45. 頬骨弓幅	(112)	—	118	1 (112)
46. 中顔幅	83	—	96	1 86
47. 顔高	85	92	99	2 98.00
48. 上顔高	47	51	56	2 55.50
47/45 顔示数(K)	(75.89)	—	83.90	1 (83.93)
48/45 上顔示数(K)	(41.96)	—	47.46	1 (47.32)
47/46 顔示数(V)	102.41	—	103.13	1 118.60
48/46 上顔示数(V)	56.63	—	58.33	1 67.44
50. 前眼窩間幅	15	—	17	2 15.50
44. 両眼窩幅	85	—	83	2 89.00
50/44 眼窩間示数	17.65	—	20.48	2 17.42
51. 眼窩幅(左)	37	—	34	2 40.00
52. 眼窩高(左)	30	—	31	2 (32.00)
51/52 眼窩示数(左)	81.08	—	91.18	2 (80.00)
54. 鼻幅	19	21	21	2 23.00
55. 鼻高	37	40	41	2 41.00
54/55 鼻示数	51.35	52.50	51.22	2 56.11

9号墳4号人骨(9才、小児I期)

頭蓋では下顎骨のみが残存しており、この下顎骨は、頑丈なものである。

四肢骨においては、同年令の大友弥生小児骨に比べて、上腕骨はややきゃしゃで、扁平性は強い。大腿骨は太くて、長く、頑丈である。また、骨体上部はより扁平であるが、骨体中央部の断面形は、横広ろで、形は全く異っている。脛骨も大腿骨と同様に、骨体が太くて頑丈である。骨体に、扁平性は認められない。

以上のように、9号墳4号人骨の四肢骨は、同年令の大友弥生小児骨に比べて、上肢骨は細くきゃしゃであるが、下肢骨は、太くて頑丈なものといえる。また、大腿骨の骨体中央部の断面形が、全く異なる点は、時代的な特徴のひとつを表わしているものと推定されるが、今後、さらに古墳時代の資料を集収し、追求していきたい。

表 5 上腕骨骨体計測値(右)(mm)

人骨番号	市の瀬9—3	市の瀬9—4	大 友
時 代	古 墳	古 墳	弥 生
年 齢	8 歳	9 歳	9 歳
			n M
5. 中央最大径	14.0	15.1(左)	2 14.90
6. 中央最小径	10.8	10.6(左)	2 11.40
7. 骨体最小周	38.0	—	2 41.50
7(a). 中 央 周	40.0	42.0(左)	2 43.50
6/5 骨体断面示数	77.14	70.20(左)	2 76.45

表 6 大腿骨骨体計測値(左)(mm)

人骨番号	市の瀬9—3	市の瀬9—4	津袋1—3	大 友
時 代	古 墳	古 墳	古 墳	弥 生
年 齢	8 歳	9 歳	7 歳	9 歳
				n M
1. 最 大 長	—	289	—	2 277.00
6. 骨体中央矢状径	13.0	17.1	17.8(右)	2 17.45(右)
7. 骨体中央横径	14.7	18.9	16.6(右)	2 15.85(右)
8. 骨体中央周	44.5	57.0	54.0(右)	2 53.50(右)
8/1 長 厚 示 数	—	19.72	—	2 19.28
6/7 骨体中央断面示数	88.44	90.48	107.23(右)	2 109.83(右)
10/9 上骨体断面示数	65.42	74.01	—	2 82.74

表 7 脛骨骨体計測値(右)(mm)

人骨番号	市の瀬9—3	市の瀬9—4	津袋1—3	宮の本18	大 友
時 代	古 墳	古 墳	古 墳	弥 生	弥 生
年 齢	8 歳	9 歳	7 歳	8 歳	9 歳
					n M
8. 中央最大径	15.5	19.5	17.1	18(左)	2 18.95(左)
9. 中央横径	12.4	15.6	15.9	14(左)	2 15.15(左)
10. 骨 体 周	45.0	56.0	52.0	49(左)	2 53.75(左)
10b. 最 小 周	41.0	—	50.0	48(左)	2 50.00(左)
9/8 中央断面示数	80.00	80.00	92.98	77.78(左)	2 80.28(左)

要 約

宮崎県東諸県郡国富町大字深年に所在する市の瀬地下式横穴墓群は、1963年、1983年および1984年に発掘調査が行われ、1983年と1984年の調査では、小児骨2体を含む総数11体の人骨が出土した。これらの小児骨について、人類学的観察および計測を行い、その結果を要約すると次のとおりである。

1. 小児骨の年齢は、歯の萌出状態および歯根形成程度から、9号墳3号人骨は8才、9号墳4号人骨は9才と推定される。
2. 9号墳3号人骨の頭蓋は、頭蓋最大長が(168)mm、頭蓋最大幅は139mmで、頭蓋長幅示数は(82.74)となり、頭型は短頭型に属している。

頬骨弓幅は(112)mm、中顔幅は83mm、顔高は85mm、上顔高は47mmで、幅径に比べて高径が著しく小さく、顔示数および上顔示数は、それぞれ、(75.89)(K)、102.41(V)、(41.96)(K)、56.63(V)となり、低顔の傾向が強い。眼窩は中眼窩、鼻部は低鼻に属している。

3. 9号墳3号人骨の四肢骨は、骨体が非常に細く、上腕骨および腓骨の骨体には、顕著な左右差が認められる。
4. 9号墳3号人骨の第1頸椎および第2頸椎は、右半に比べて左半が小さくて非対称形である。

5. 9号墳4号人骨の四肢骨は、上肢骨が細くてややきゃしゃで、下肢骨は太く頑丈である。大腿骨の骨体中央部の断面形は、横広ろの橢円形を呈している。また、上腕骨骨体および大腿骨骨体上部はやや扁平である。

以上のように、9号墳3号人骨の頭蓋は、短頭で、低顔の傾向が強く、同時代で同年令の大萩小児骨の特徴と一致するものである。なお、四肢骨および頸椎に認められる特殊所見の原因等については、今後、古病理学的な検討を加えたうえで報告を行いたい。

〈搁筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた国富町教育委員会、宮崎県教育庁文化課ならびに宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターの諸先生方に感謝いたします。〉

表8 脳頭蓋計測値 (mm)

9号墳3号		
1.	頭蓋最大長	(168)
8.	頭蓋最大幅	139
17.	バジオン・ブレグマ高	128
8/1	頭蓋長幅示数	(82.74)
17/1	頭蓋長高示数	(76.19)
17/8	頭蓋幅高示数	92.09
9.	最小前頭幅	86
10.	最大前頭幅	110
5.	頭蓋底長	84
11.	両耳幅	116
7.	大後頭孔長	34
16.	大後頭孔幅	31
24.	横弧長	301
26.	正中矢状前頭弧長	118
29.	正中矢状前頭弦長	101

表9 顔面頭蓋計測値 (mm)

9号墳3号		
40.	顔長	75
41.	側顔長	59
42.	下顔長	81
43.	上顔幅	90
45.	頬骨弓幅	(112)
46.	中顔幅	83
47.	顔高	85
48.	上顔高	47
47/45	顔示数(K)	(75.89)
48/45	上顔示数(K)	(41.96)
47/46	顔示数(V)	102.41
48/46	上顔示数(V)	56.63
60.	上顎歯槽長	39
61.	上顎歯槽幅	55
61/60	上顎歯槽示数	141.03
62.	口蓋長	34
63.	口蓋幅	32
64.	口蓋高	8
63/62	口蓋示数	94.12
64/63	口蓋高示数	25.00

表10 眼窩・鼻部計測値 (mm)

9号墳3号		
49a.	眼間幅	17
50.	前眼窩間幅	15
44.	両眼窩幅	85
50/44	眼窩間示数	17.65
51.	眼窩幅(右)	37
	(左)	37
52.	眼窩高(右)	30
	(左)	30
51/52	眼窩示数(右)	81.08
	(左)	81.08
54.	鼻幅	19
55.	鼻高	37
54/55	鼻示数	51.35
57.	鼻骨最小幅	8

表11 下顎骨計測値 (mm)

	9号墳3号	9号墳4号
69. オトガイ高	20	—
69(1). 下顎体高(右)	22	—
69(2). 下顎体高(右)	19	24
70(1). 前枝高(右)	47	—
70(3). 下顎切痕高(右)		10
71a. 最小枝幅(右)		34
71(1). 下顎切痕幅(右)		29
70(3)/71(1) 下顎切痕示数(右)		34.48

表12 上腕骨骨体計測値 (mm)

	9号墳3号		9号墳4号
	(右)	(左)	(左)
5. 中央最大径	14.0	12.8	15.1
6. 中央最小径	10.8	10.5	10.6
7. 骨体最小周	38.0	—	—
7(a). 中央周	40.0	37.0	42.0
6/5 骨体断面示数	77.14	82.03	70.20

表13 桡骨骨体計測値 (mm)

	9号墳3号
	(右)
4. 骨体横径	7.5
4a. 骨体中央横径	7.5
5. 骨体矢状径	5.6
5a. 骨体中央矢状径	5.6
5(5). 骨体中央周	21.0
5/4 骨体断面示数	74.67
5a/4a 骨体中央断面示数	74.67

表14 尺骨骨体計測値 (mm)

	9号墳3号
	(右)
3. 最小周	(20.0)
11. 尺骨矢状径	7.1
12. 尺骨横径	7.5
S. 中央最小径	6.9
L. 中央最大径	8.2
C. 中央周	24.0
11/12 骨体断面示数	94.67
S/L 中央断面示数	84.15

表17 腓骨骨体計測値 (mm)

	9号墳3号	
	(右)	(左)
2. 中央最大径	10.0	8.3
3. 中央最小径	6.5	5.9
4. 中央周	27.0	24.0
3/2 中央断面示数	65.00	71.08

表15 大腿骨骨体計測値 (mm)

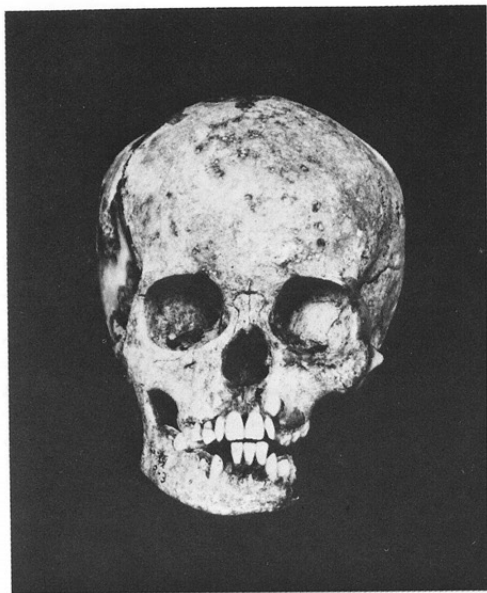
	9号墳3号	9号墳4号
	(左)	(左)
1. 最大長	—	289
6. 骨体中央矢状径	13.0	17.1
7. 骨体中央横径	14.7	18.9
8. 骨体中央周	44.5	57.0
9. 骨体上横径	21.4	22.7
10. 骨体上矢状径	14.0	16.8
8/1 長厚示数	—	19.72
6/7 骨体中央断面示数	88.44	90.48
10/9 上骨体断面示数	65.42	74.01

表16 脛骨骨体計測値 (mm)

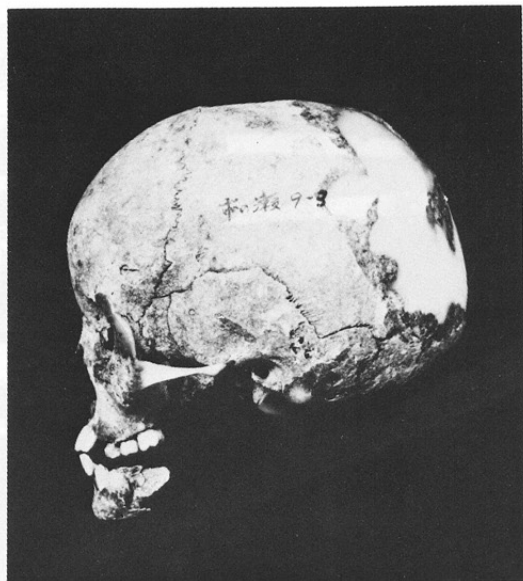
	9号墳3号		9号墳4号	
	(右)	(左)	(右)	(左)
8. 中央最大径	15.5	—	19.5	—
8a. 栄養孔位最大径	—	—	20.7	20.2
9. 中央横径	12.4	—	15.6	16.0
9a. 栄養孔位横径	—	—	17.2	17.1
10. 骨体周	45.0	—	56.0	—
10a. 栄養孔位周	—	—	61.0	59.0
10b. 最小周	41.0	42.0	—	—
9/8 中央断面示数	80.00	—	80.00	—
9a/8a 栄養孔位断面示数	—	—	83.09	84.65

参考文献

1. 金田義夫、1957：日本人の永久歯における歯根完成時期の研究。歯科月報、30：165—172.
2. 藤田恒太郎、1965：歯の話。岩波書店。東京：57—98.
3. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd. I. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart：429—504.
4. 分部哲秋、1981：宮の本遺跡出土の幼小児骨。宮の本遺跡（佐世保市埋蔵文化財調査報告書）：110—113、119、147.
5. 分部哲秋、1981：佐賀県大友遺跡出土の幼小児骨。大友遺跡（佐賀県呼子町文化財調査報告書1）：254—264.
6. 分部哲秋、1983：宮崎県高原町旭台地下式横穴出土の古墳時代幼小児・成年骨。宮崎県文化財調査報告書、26：112—128.
7. 分部哲秋、1984：宮崎県野尻町大萩地下式横穴出土の古墳時代小児・成年骨。宮崎県文化財調査報告書、27：113—131.
8. 分部哲秋、1986：熊本県鹿本町津袋大塚東側1号石棺出土の古墳時代小児骨。（印刷中）



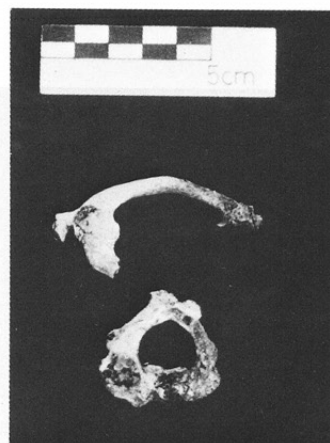
9号墳3号 (小児) 正面



9号墳3号 (小児) 側面



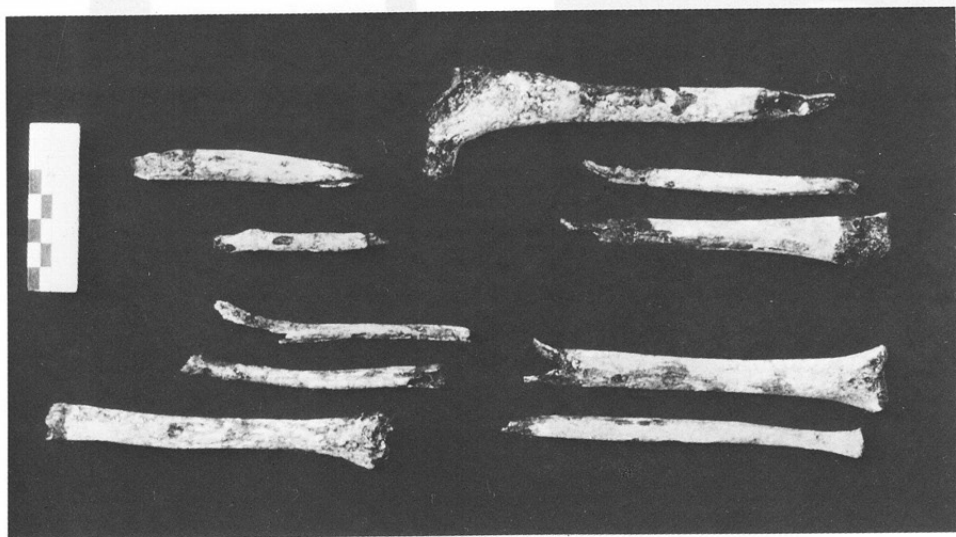
9号墳3号 (小児) 上面



9号墳3号 (小児) 第1・2頸椎上面



9号墳4号(小児)四肢骨



9号墳3号(小児)四肢骨

国富町文化財調査資料

第 4 集

井水地下式横穴墓群
市の瀬地下式横穴墓群
上ノ原遺跡

昭和 61 年 3 月 31 日

発行 東諸県郡国富町教育委員会
編集 宮崎県教育委員会
印刷 (資)愛文社印刷所

